

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 令和7年度事業報告

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

はじめに

令和7年度も引き続き、各施設において積極的な調査研究、普及啓発を行うとともに、施設間や他団体と連携した事業にも意欲的に取り組みました。

歴史博物館では、開館30周年記念事業として、開館以来の博物館活動の成果や文化財を守り伝える大切さを紹介した特別展や過去の企画展ポスターを紹介したポスター展等を開催しました。また、文化庁補助金を活用し収蔵資料データベースのシステム構築と公開用フロントサイトの制作を進めました。9月から11月にかけてLED等設備更新工事のため休館となりましたが、休館明けに開催した関東の戦国時代と小机城を合わせて紹介した「北条幻庵」展等の企画展には多くの方にご来場いただきました。

開港資料館の文化観光拠点計画は5年計画の最終年度となり、旧横浜英国総領事館内装復元や同館2階を活用した新たな展示室の公開等を行いました。今後はこれまでに実施した施設整備やデジタルアーカイブ、カフェ・ミュージアムショップ等の活用により、「横浜開港」の歴史を観光や地域活性化に結びつける拠点としての取組をさらに推進していきます。

都市発展記念館では、「戦後80年」をテーマとした特別展「戦争の記憶—戦中・戦後を生きた横浜の人びと」、「戦争の記憶—横浜と軍隊の120年」を開催し、戦中・戦後にかけて横浜市民が受けた戦争の影響や横浜と軍隊、戦争との関係を紹介しました。

ユーラシア文化館では、ユネスコ無形文化遺産登録記念した「モンゴルの遊牧文化」展と明治・大正期の横浜の文化交流に着目した「山本博士コレクション・横濱東西文化のランデブー」展を開催しました。また、常設展示室では、干支にちなんだ写真展や国際局から移管を受けた上海工芸品の展示など、新たな魅力を追加しました。

埋蔵文化財センターは、継続して横浜市等からの発掘調査事業を受託したほか、他館企画展への協力や普及活動にも積極的に取り組みました。また、事業収入面でも財団の安定的な経営基盤に大きく寄与しました。

事業の実施にあたっては、文化庁をはじめとした国庫補助金や協賛金の確保に加え、一部事業でのクラウドファンディング導入や「レキハク・パートナーズ」等の寄附制度の活用等、外部資金の確保に引き続き積極的に取り組んだほか、財団ホームページのリニューアルやSNS等の活用を通じた広報も意欲的に展開しました。

令和8年度は第4期指定管理初年度となることから、新たに「5館一体」「再構築」「裾野の拡大」をキーワードとして様々な事業を職員一丸となつてすすめるとともに、人材育成や効率的な執行体制づくりの検討等により、財団の使命を達成できるよう取り組んでまいります。

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を適切に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 人材育成を図るための研修 ・内部研修 個人情報保護研修、会計経理実務研修、人権研修の実施 ・外部研修 公益法人協会の会計研修、人事労務研修、マネジメント研修、リーダー職員研修、横浜市主催の各研修に参加 (2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施 職員自己申告の実施 (3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議 月2回 課長会議 月2回 担当係長会議 月1回 <主な内容> ・人材採用・育成計画について ・第4期指定管理について ・文化庁補助事業について ・収支状況について
2	人事労務・財務の管理	(1) 職員の採用、異動等雇用管理 (2) 就業規則ほか諸規則の整備及び運用 (3) 給与、社会保険、税金関係等 (4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策 (5) 職員メンタルヘルスの支援 (6) 寄附金・協賛金・クラウドファンディングによる資金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 予算編成、執行管理、決算の実施
4	災害対応	(1) 各施設の危機管理マニュアルの見直し (2) 各施設での防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年5回 (2) 評議員会の開催 年2回 (3) 神奈川県への報告

6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施(毎月)
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページリニューアル・管理 (2) 財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行 (3) 提供ラジオ番組「横濱歴史のタイムマシーン」(マリンFM)の放送 (4) プレスリリース配信システム「PRTIMES」の利用
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器(ソフトウェア等を含む)の更新および保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの円滑な運用
9	事業推進	(1) 事業戦略に係る共通認識の形成 課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 (2) 財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 (3) 市民協働の推進
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 (4) 学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 190 校、対象児童 17,942 人 (5) 授業コンテンツ動画の制作 ・制作本数 7 本 ・再生回数 345,970 回 (6) 博物館来館校の対応 (7) 子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	公益財団法人として、諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、予算執行管理や人事労務事務等を適切に実施することができました。 エデュケーター事業では、引き続き、学校への訪問授業を積極的に実施したほか、戦後 80 年に合わせ、授業用動画として戦争体験者のインタビュー動画を作成し、これまでの動画と合わせた再生回数が 34 万回を超える等、活用いただきました。	A

Ⅱ 指定管理事業

1 財団全体としての取組及び事業

令和7年度も、大学と連携した調査研究や他施設と協働でのイベント実施等、様々な組織との連携により、幅広い事業に意欲的に取り組みました。

歴史博物館では、地元団体や施設と協働で実施している「歴史未来フェス」について、開館30周年を記念して規模を拡大して実施しました。

開港資料館では、多くの企業等に協力いただいて「たまくすの木」バリアフリーデッキを整備し、地域の憩いの場として活用されています。

今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、多様な組織と連携しながら取組を進めていきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先		中心となる施設	内 容
区・地域との連携	全区		全管理運営施設	・各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」に執筆 ・「れきけんカード」（歴史的建造物のカード）の製作協力と配布
		南区	歴史博物館	・南図書館主催「みなみ歴史講座」への共催、講師派遣
		保土ヶ谷区	埋文センター 歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま ほどがや区版」の連載コラム「保土ヶ谷区のあゆみ ～区制100周年に向けて～」に執筆
		磯子区	三殿台考古館	・磯子区主催「磯子のまち歩きデジタルスタンプラリー」に協力
		金沢区	歴史博物館	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施
		港北区	歴史博物館 埋文センター	・「お城 EXP02025」への参加 ・区内小学校における小机城址普及業務、小机小学校・城郷小学校の学習成果の掲示 ・区内小学校での出張授業実施
		青葉区	歴史博物館 埋文センター	・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催（青葉台コミュニティハウス、美しが丘西地区センター）
		都筑区	歴史博物館	・広報よこはま都筑区版への連載記事掲載 ・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「古文書から読み解く江戸時代の都筑の村々」と題した都筑区郷土講演会および関連展示を都筑図書館で開催

		栄区	埋文センター	・栄区地域振興課 横穴墓見学会・勾玉づくり教室等を協働開催 ・「栄区郷土史ハンドブック」記載内容確認・修正業務・編集会議の開催 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内
市との連携	研修会等		開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・市職員向け講座等の実施 ・区局主催の研修会への協力
	市民局		全施設	・広報よこはま全市版の連載原稿「よこはま彩発見」の執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」、ニッポン放送「ようこそ横浜」等への出演
			歴史博物館	・ニッポン放送「Happy Voice! from YOKOHAMA」内「ハッピーイチ押し情報等への出演
			開港資料館 都市発展記念館	・「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」への職員派遣
	賑わいスポーツ文化局		歴史博物館 ユーラシア文化館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力 ・Live @横浜にスタチューミュージアムで参加
	環境創造局		開港資料館 都市発展記念館	・「歴史的建造物（旧太田家住宅）整備に関する有識者懇談会」への職員派遣
	建築局		開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・「よこはま建築ひろば 2025」でのデジタルスタンブラリー参加
	国際局		開港資料館 ユーラシア文化館	・4 姉妹都市提携 60 周年記念のパネル展示を開催 ・姉妹都市提携 60 周年記念写真展実施 ・上海工芸品 2 点を移管・常設展示で公開
	保土ヶ谷土木事務所		埋文センター	・保土ヶ谷区「公園愛護会のつどい」への講師派遣
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所		全施設	・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・歴史博物館「博物館活用研修」の実施 ・教職員研修への協力
	教職員育成課		全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布
	生涯学習文化財課		全施設	・歴史博物館「令和 7 年度横浜市指定登録文化財展」の共同開催 ・文化財総合調査への協力 ・文化財調査への協力（小机城跡埋蔵文化財試掘調査の整理作業および報告書作成・発送業務支援） ・文化財修理協議会への協力 ・遺跡現地説明会への協力（小机城跡発掘調査成果報告会の運営等支援） ・関家住宅特別公開事業の共催 ・小学生向け「昔のくらし」動画の配信 ・歴史博物館「子どもアドベンチャーカレッジ 2024」への参加

	都筑図書館	歴史博物館	・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「丘のよこはま 都筑の谷戸とくらし」と題した都筑区郷土講演会および関連展示を都筑図書館で開催
	南図書館	歴史博物館	・南図書館主催「みなみ歴史講座」への共催、講師派遣
	中図書館	ユーラシア文化館	中図書館実施の「モンゴルのおはなし会」への協力と民族衣装等の貸出
	栄図書館	埋文センター	・展示「いたち川で稲作がはじまった時代」で共催
市・区研究会との連携	社会科研究会（市・区）	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会の運営支援 ・中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習、社会見学、展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小学校	埋文センター	・栄区・金沢区の小学校を対象に出前授業の実施。
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の土器作りに講師を派遣 ・総合的な学習の時間等への支援
	小学校	歴史博物館	・学校資料室の資料整理及び活用支援
	中学校	歴史博物館 埋文センター 三殿台考古館	・職場体験の受け入れ
	神奈川県立高校	歴史博物館	・県立高校インターンシップの受け入れ
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会を開催し審査員を派遣
他館等との連携	神奈川県博物館協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・部会への職員派遣 ・川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣 ・研修会「博物館の広報、情報発信について」の開催（会場：歴史博物館）
	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館	・定例会に職員を派遣
	県立歴史博物館	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・展覧会への資料の貸出 ・展覧会準備や調査研究を目的とした資料熟覧対応 ・都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業の連携（開港） ・調査および講座への協力（間口洞穴調査） ・長期休館に伴う資料の長期借用および共同研究の実施

	横浜美術館	歴史博物館	・展覧会「おかえり、ヨコハマ」への企画協力、図録等執筆、資料の貸出、ワークショップの共同開催
	都筑民家園	歴史博物館	・ボッシュホールとの3施設で、今後の連携を図るべく定期的に情報交換会を実施
	横浜ズーラシア	ユーラシア文化館	・開館祭での干支にちなんだ馬の文化と生態を学ぶ講座を共催
	(公財)かながわ考古学財団	埋文センター 歴史博物館	・講座への講師派遣 ・成果発表会・展示会・公開セミナーの共催
	シルク博物館	歴史博物館	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ展「Yokohama Scarf Stories - 世界の風に吹かれて-」を、企画・監修：K G U横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学で実施した。
	古代オリエント博物館・岡山オリエント博物館	ユーラシア文化館	・Bun Card の共同制作
	九州国立博物館	ユーラシア文化館	・収蔵品の遼の金工品を企画展に貸出し。科学分析実施。
	国立民族学博物館	ユーラシア文化館	・特別展「シルクロードの商人語り」図録執筆、収蔵品の中央アジアの資料貸出
大学との連携			
	関東学院大学	歴史博物館	・関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ展「Yokohama Scarf Stories - 世界の風に吹かれて-」を、企画・監修：K G U横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学で実施した。
	東海大学	歴史博物館 開港資料館	・東海大学と協定を締結し、文化財資料の教育活用事業による博物館実習を実施。
	横浜商科大学	開港資料館	・横浜開港資料館の広報活動に関する連携、協力の覚書締結 ・「たまくすの木」を紹介する絵本の製作と朗読会の実施
	神奈川大学	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 埋文センター	・神奈川大学非文字資料研究センターとの連携で河川運河に関するパネル展示を開催 ・教員研修の受け入れ ・「思い出のチマ・チョゴリ」での展示解説、ワークショップ参加 ・エクステンション講座への講師派遣
	日本大学	埋文センター	・市内遺跡から出土した動物骨の古 DNA 分析に関する研究について連携

	山形大学	埋文センター	・市内遺跡から出土した遺物の脂質分析による食性解析に関する研究について連携
	横浜国立大学	埋文センター 歴史博物館	・大学キャンパスに所在する遺跡及び所蔵遺物に関しての助言及び協力 ・講演会・市民公開講座への講師派遣 ・横浜市域北部の地域文化遺産の調査研究及び教育普及活動に関する覚書を都市イノベーション研究院と締結し、以下の事業を実施 ○関家住宅公開事業での展示解説
	お茶の水女子大学	ユーラシア文化館	・「思い出のチマチョゴリ」での展示解説、ワークショップ参加
	学外見学の受け入れ	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館	・大学の博物館課程等、カリキュラムに即した学外見学・実習の受け入れ
市民・関連団体との協働	市民ボランティア	歴史博物館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館	<展示解説ボランティア> ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説を実施 ・学校団体（6年生）への野外施設1クラス1名でのガイド実施 ・学校団体（3年生）への都筑民家園のガイド実施 <活動支援ボランティア> ・「当日参加型れきし工房」の実施 ・「都ユ開館祭」での衣装試着体験の実施 ・企画展の関連イベントの補助 ・「センター北まつり」等地域行事のイベント補助 <ガイドボランティア> ・土・日・祝日に遺跡・展示室のガイド実施 <出土品整理作業ボランティア> ・三殿台遺跡出土品の整理作業を実施
	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	・研修会、記念講演会の開催協力 ・年1回の総会の開催協力 ・協議会 News 及び会報の発行協力
	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	・講演会の共催・コンサートの共催 ・会報、「つづき人交流フェスタ」等への活動支援
	横浜縄文土器づくりの会	歴史博物館	・博物館の調査研究活動に協力 ・実験考古学講座の指導委託
	横浜古文書を読む会	歴史博物館	・原則として月2回の講座の開催支援 ・有志による調査研究活動の実施 ・夏季歴史講座の共催
	横浜古代史料を読む会	歴史博物館	・フォロー講座の実施
	横浜さいかちの	歴史博物館	・フォロー講座の実施

	会	埋文センター	・史蹟見学会の開催支援 ・歴史講演会への共催 ・考古学関係研修への協力・講師派遣
	スタチューパフォーマンス協会	ユーラシア文化館 開港資料館 都市発展記念館	・「スタチュー・ミュージアム」の開催協力
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館 埋文センター	・遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガイドを実施 ・ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再整理を実施
	よこはま縁むすび講中	歴史博物館	・北部 4 区の(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、実行委員会を組織して各施設の情報を共有
	よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	・文化庁博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業（横浜市歴史博物館）にエントリーし、採択を受けて実施
	センター中央文化祭	歴史博物館	・「センター中央文化祭」への協力
	みなきたマルシェ実行委員会	歴史博物館	・「みなきたマルシェ」への協力 ・「歴史未来フェス」の実施委託
	横浜シティガイド協会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・連携ガイドツアーの実施 ・ガイド研修への講師派遣 ・「横濱東西文化のランデブー」展で連携ガイドツアーとワークショップを実施
	都筑文化芸術協会	歴史博物館	・「アンチエイジングハーモニカ」への協力
	きたやまた落語倶楽部	歴史博物館	・「つづき寄席 in 歴博」への共催
	紙芝居文化推進協議会	歴史博物館	・「手づくり紙芝居コンクール」に協力 ・「手づくり紙芝居ライブ」共催
	ロジウラート実行委員会・都筑民家園	歴史博物館	・「ロジウラート 2024」に後援 ※ヨコハマアートサイト助成事業
	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート&ミュージック・ネクスト実行委員会	歴史博物館	・「つづきアート&ミュージック・ネクスト」(テーマ: The MASK) 共催
	ヨコハマアートサイト事務局	歴史博物館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力
	区や地域の郷土	歴史博物館	・講座、講演会に講師を派遣

	史団体	開港資料館 都市発展記念館	
	横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿
	横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
	横浜市防火防災協会	都市発展記念館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
	NPO 法人鶴見川流域ネットワーク	歴史博物館	・「バクの流域スタンプラリー」開催協力 ・「鶴見川流域水マスタープラン講座」への協力
	日本樹木医学会神奈川県支部（かながわ樹木医学会）	開港資料館	・協定にもとづく「たまくすの木」の維持管理に関する連携（土壌改良等） ・「たまくすの木」バリアフリーデッキの整備 ・樹木医研修の開催
	神奈川台場地域活性化推進協会	開港資料館	・「神奈川台場 VR」コンテンツ製作の監修
	中区区民利用施設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
	横浜中華街発展会	開港資料館 ユーラシア文化館	・「スタチュー・ミュージアム」での連携 ・中華街での出張展示の実施
	日本大通リエリアマネジメント協議会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携した活性化企画の実施 ・「スタチュー・ミュージアム」の開催協力 ・「ウィンターイルミネーション」への参加
	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・「ハマフェス Y166」に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換 ・「いそっぴGW2025 スタンプラリー」の開催
	NPO 法人みなみ区民利用施設協会	三殿台考古館	・大岡地区センター、睦コミュニティハウスの自主事業「勾玉作り」等への講師派遣
	NPO 法人神奈川区いまむかしの会	埋文センター	・講習会及び見学会の講師派遣
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	桂山クラブ	埋文センター	・桂台地域ケアプラザで講演会「栄区の遺跡」講師派遣
	青葉区郷土史の会	歴史博物館 埋文センター	・歴史講座・遺跡探訪の講師派遣
	上郷ネオポリス自治会	埋文センター	・上郷ネオポリス夏祭り模擬店出店協力（土器パズ

			ル)
	NPO 法人さかえ 区民活動支援協 会	埋文センター	・上郷地区センターで「埋蔵文化財センター収蔵品 紹介展」を開催
企業との連 携	横浜マリンFM	全施設	・財団冠番組「横浜 歴史のタイムマシーン」の制 作・放送（毎週金曜日放送）
	株式会社ありあ け	開港資料館	・横浜商科大学との連携事業「たまくすの木」の絵 本製作への協賛
	横浜マリンタワ ー	開港資料館	・常設ギャラリーに設置する写真パネルの監修
	横浜エクセレン ス	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・B2 昇格・B3 完全優勝を記念したミニ写真パネル 展を開催（開港） ・都ユ開館祭でのイベント協力 「バスケットボール体験 シュートチャレンジ」
	横浜 DeNA ベイス ターズ	開港資料館	・イベント「YOKOHAMA STAR NIGHT 2025」で開催さ れたスタンプラリーへの協力（パネル監修）
	横浜メディアビ ジネス総合研究 所	歴史博物館 都市発展記念館	・企画展前売券の販売協力 ・企業協賛事務局
	ボッシュ株式会 社	歴史博物館	・新社屋市民利用スペースの活用に向けた検討に 協力、所蔵資料の展示
	ボッシュホール	歴史博物館	・都筑民家園との3施設で、今後の連携を図るべく 定期的に情報交換会を実施 ・「ぼうさいアートランド」に協力
	株式会社パスコ	歴史博物館 埋蔵文化財センタ ー	・「北条幻庵」展へのコンテンツ提供 ・お城 EXPO 共同出展
	ローズホテル横 浜	ユーラシア文化館	・「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」 を実施
	コーエーテクモ ゲームス	埋文センター 歴史博物館	・埋文センター製作動画「いざ、小机城へ―発掘さ れた調査地をたどる―」への楽曲提供 ・「北条幻庵展」への北条幻庵画像提供
	加藤建設	埋文センター	・弥生時代後期の諸相及び発掘調査で出土した当 該期の土器に関する助言
その他	相模民俗学会	歴史博物館	・民俗学講演会「三匹獅子舞を考える」（講師：久保 田裕道氏）を共催 ・特別講演会「地域の文化を未来に伝える―文化 財・祭り・神楽―」（講師：小川直之氏）を共催
	神奈川県考古学 会	歴史博物館 埋文センター	・神奈川県遺跡調査・研究発表会を共催 ・見学会への講師派遣

	首都圏形成史研究会	開港資料館 都市発展記念館	・例会での研究報告および展示見学会の開催
	横浜外国人居留地研究会	開港資料館	・シンポジウムへの講師派遣
	弥生時代関連 39 遺跡・42 施設	歴史博物館	・「弥生の御朱印巡り〈全国版〉」への参加協力
	中山恒三郎家	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「中山恒三郎家」公開事業を共催

2 歴史博物館事業

令和7年度は、博物館開館30周年の年として、特別展をはじめさまざまな記念事業を実施するとともに、博物館活動の根幹をなす資料収集保存、調査研究、普及事業に継続して取り組みました。コロナ過が明けて社会見学が増加してきた学校の利用を促すとともに、ボッシュホールや都筑民家園、その他博物館周辺で活動する諸団体と連携して多彩な事業を展開し、博物館の裾野を広げるとともに、地域の活性化などの役割を果たす取り組みを進めました。

ESCO事業（LED化工事）およびITVの機器更新工事により、9月8日（月）～11月21日（金）の間休館しましたが、その間は展覧会の準備やアウトリーチ事業に取り組みました。

資料収集では、今後の企画展等での活用を期待できる芹沢銈介関係資料、青葉区・緑区域の古文書群など、8件を受け入れました。調査研究事業では、基礎資料研究や連携調査研究15本を進め、成果は「北条幻庵」展などの企画展や『資料目録』、『紀要』等出版物に反映しました。

また今年度は収蔵資料データベースのシステム構築と、デジタルアーカイブ公開用のフロントサイトの制作を進め、令和8年度より収蔵資料のデジタルアーカイブ公開を開始する予定です。なおフロントサイト作成にあたっては、文化庁の助成金を獲得しました。

常設展事業では、30周年事業の一環として昨年度制作した、横浜の通史と常設展示室の導入となる新番組「レックルとめぐるヨコハマ歴史旅行」を公開し、小学校6年生の団体見学をはじめ、一般の利用者にもご利用いただきました。一方で、開館後30年を経過して発生している歴史劇場や展示室内での不具合への対応及び設備更新は、引き続き課題として、所管局と共有していきます。

企画展事業は、春季に開館30周年記念特別展「横浜の文化財—まもり伝える地域の記憶 Part1 修復、Part2 伝承」を実施し、開館以来積み重ねてきた博物館活動の成果や、文化財を守り伝えていく大切さや、その担い手などについて紹介しました。夏季には、家族で楽しめる、アクティブラーニングの手法を取り入れた企画展「君も今日から考古学者 横浜発掘物語 2025 夏休み編」、秋季～冬季には、伊勢宗瑞（北条早雲）の末子として誕生し、北条氏五代の隆盛とともに生きた北条幻庵の生涯をたどりながら、近年発掘調査が実施された小机城と関東の戦国時代を紹介する「北条幻庵—横浜・小机城と関東の戦国—」を開催しました。年度末には、当館所蔵資料をもとにした古文書初心者に向けた入門展「みすてりい・おぶ・こもんじょ」展と「令和7年度横浜市指定・登録文化財展」を開催しました。関連事業は、展示の理解を深めるギャラリートークや講演会など、市民の多様な生

涯学習のニーズに応える取り組みを進めました。また関連事業では、他館や大学、企業との連携も試みました。

企画普及事業は、さまざまな団体や市民と連携して、講座・講演会やワークショップのほか、賑わいの創出や多様性、社会的包摂に対応する多彩な自主事業・共催事業を実施しました。令和5年度から、みなきたマルシェ実行委員会と協働して実施している「歴史未来フェス」は、開館30周年を機にポッシュホールとも連携し、規模を拡大して実施しました。休館中にも「センター中央文化祭」、「ふるさと港北ふれあいまつり」への出展や「中山恒三郎家公開」「関家住宅特別公開」の実施など、アウトリーチ事業に取り組みました。学校連携では金沢区小学校や小机エリアの小中学校への訪問授業、高文連県大会への共催と審査員派遣、東海大や横浜国立大学と連携しての実習や事業実施など、小学校から大学まで多様な連携事業を展開しました。

施設の管理運営では、ESCO 事業（LED 化工事）や ITV 改修工事を実施し、所管局や施工会社と細やかな調整を図りながら適切な施工管理に取り組みました。収益事業のうち、ミュージアムショップでは、ボールペンや御城印など新商品の開発をおこない、企画展関連商品の仕入れ・販売も積極的に行いました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を寄贈・寄託等の方法で収集し、燻蒸を行って分類・整理するとともに、収蔵庫や展示室を適切な温湿度に保ち、保管しました。

本年度の資料収集では、芹沢銈介関係資料や横浜芝山漆器など、美術工芸にかかわる資料が充実しました。また市域北部の古文書群の寄贈もありました。これらの資料については、展覧会などを通じて将来的に公開していく予定です。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 6 件 4,428 点 寄託 1 件 1 点 移管 1 件 2 点	主な収集資料：川和稻荷講資料 西林寺旧本尊阿弥陀如来像焼損首柄 芹沢銈介関係資料（雑誌、図録、図書） 横浜芝山漆器研究会資料 大曾根家資料・荻谷家資料（古文書）
資料の整理活用（収集資料のデータ入力、公開）	①32,523 件 ②1,918 件	①収蔵資料のデジタルアーカイブについてフロントサイトを開設、資料情報の公開を開始した。 ②図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	7 件 107 点	他機関における展覧会を目的に資料の貸出を行った。 ①神奈川新聞社創業 135 周年記念「昭和 100 年 これ で、今日からあなたもヨコハマ通！」令和 7 年 4 月 16 日～4 月 29 日（令和 6 年度に貸出） カラーテレビ、電 気洗濯機など 計 6 点 ②大阪中之島美術館「日本美術の鉤脈展 未来の国宝を

		探せ！」令和7年6月21日～8月31日 笠木治郎吉「田植えをする女」ほか 計3点 ③元興寺秋季特別展「民俗文化財を後世に一被災資料と紙の仏一」令和7年10月25日～11月16日 西林寺旧本尊阿弥陀如来像焼損首柄 計1点 ④横浜輸出スカーフ展「Yokohama Scarf Stories 世界の風に吹かれて」（共催事業、会場はシルク博物館）令和7年12月6日～令和8年1月12日 「横浜輸出スカーフ」計24点 ⑤神奈川県教育委員会「令和7年度 かながわの遺跡 あつまれ！！かながわのはにわ」令和7年12月18日～令和8年1月25日、令和8年2月5日～3月8日 計13点 ⑥慶應義塾大学文学部国文学専攻岡田研究室 近代活字に関する調査研究 令和7年12月24日～令和9年3月31日 小宮山文庫 計55点 ⑦石器痕跡研究所 御堂島正氏 調査研究のため 令和8年3月25日～4月9日 石匙 計5点
資料の整理活用（収集資料の特別利用）	18 件	他機関における展覧会のための貸出、および調査研究を目的とした資料の熟覧、撮影等特別利用に対応した。 18 件の内訳は考古資料 162 点、古文書 340 点、横浜スカーフ 53 点。
資料の整理活用（スカーフ資料の閲覧公開）	画像利用 11 件 97 点 DB 閲覧 7 件 14 人	令和 4 年度に移管された横浜スカーフ資料を閲覧公開した。
図書資料の公開	4, 218 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 1, 108 カット 他、行事記録撮影、出張先にて撮影	企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と RAW 現像、画像補正などを行った。
画像資料の貸出	貸出件数 40 件 62 点	他の博物館や公共機関、出版社、放送局などへの写真資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（R7.4～R8.3）

※（ ）内は、前年度点数

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	1, 987 （1, 987）
工芸品 （点）	（―）	（―）	2, 388 （4）	（―）	2, 388 （4）	2, 582 （194）

彫刻 (点)	(一)	(一)	(一)	1 (一)	1 (一)	22 (21)
書跡 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	54 (54)
典籍 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	4,709 (4,709)
古文書 (点)	(1)	(一)	2,036 (202)	(一)	2,036 (203)	39,096 (37,060)
古記録 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	55 (55)
絵図 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	173 (173)
歴史資料 (点)	(一)	(一)	(68)	(一)	(68)	19,084 (19,084)
考古資料 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	24,572 (24,572)
民俗資料 (点)	(一)	(一)	4 (1,173)	(一)	4 (1,173)	24,336 (24,332)
図書文献資料 (点)	85 (88)	(一)	1,637 (1,233)	(一)	1,722 (1,321)	82,426 (80,704)
合計	85 (89)	(一)	6,065 (2,680)	1 (一)	6,151 (2,769)	199,096 (192,945)

このほか、経済局雇用労働課（技能文化会館）で保管していた「花鳥紋芝山青貝屏風」及び「花鳥紋芝山青貝応接テーブル」の2点が横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課へ移管され、当館にて保管されることとなった。



川和稻荷講資料



芹沢銈介関係資料

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度
閲覧室利用者数(人)	4,437	5,968	3,927
複写申込件数(件)	258	262	169
複写枚数(枚)	1,864	3,185	1,680
レファレンス件数(件)	220	311	246

※令和5年10/2～令和6年2/2 工事休館のため休室

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を10月、12月、3月に行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内および前室の環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、(1) 基礎資料研究、(2) 他施設と連携して行なう連携調査研究、(3) 次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、(4) 資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

(1) 基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査 (1/1年次)	企画展「北条幻庵」に向け、市域の古文書調査や利用する資料の選定を実施。企画展にて展示し、内容を紹介した。
市内旧家所蔵資料調査 (1/1年次)	前年度より継続している緑区荏谷家資料整理が終了した。戸塚区澤邊家文書・朝倉家文書の整理に着手、継続中。青葉区横溝家の古文書の整理に着手。
横浜市域の美術史の基礎的研究 (1/1年次)	前年に引き続き、東海大学との連携により伊藤宏見資料の整理を進めた。芹沢銈介関係資料の整理を進め、寄贈の手続きを順次進めた。
八聖殿資料調査 (1/1年次)	横浜市教育委員会からの依頼により、横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査を実施した。
横浜市域の古墳時代資料の研究 (1/1年次)	戸塚区上矢部町富士山古墳出土形象埴輪について、収納整理・台帳整理を実施した。
テーマ研究	
大塚遺跡の水田・食糧に関する研究	水田稲作技術比較研究プロジェクトの構成団体のひとつとして、戸塚区舞岡舞岡公園内の水田を継続的に運用中。12月20・21日に戸塚区でシンポジウムを

(1 / 1 年次)	実施。 歳勝土遺跡の地中レーダー探査を実施し結果について情報共有を進めた。
市内彫刻文化財の研究 (1 / 1 年次)	横浜市の文化財調査への協力や、次年度実施予定の企画展に向けた市内および川崎市の寺院伝来諸像の調査・撮影を実施した。
学校内歴史資料室に関する研究 (1 / 1 年次)	金沢区より委託を受けた金沢区小学校のむかし体験授業を実施。 栄区桂台小の資料についての調査と助言を行った。
都筑区川和町中山家に関する研究 (1 / 1 年次)	中山家において資料整理を実施。データ整理も継続中。 10 月 19 日 (日) の中山家公開へ参画した。
武州金沢藩米倉家文書に関する研究 (1 / 1 年次)	令和 3 年度に実施した企画展「横浜の大名」を契機とし、横浜市域に陣屋を構えた唯一の大名である米倉家に伝来する古文書の整理・調査を開始した。米倉家文書の未整理文書の整理を継続中。
近世横浜の領主支配に関する研究 (2 / 2 年次)	次年度の企画展に向けて、関係資料の整理、及び調査を実施した。
市民協働調査研究	
土器の製作・使用に関する実験考古学的研究 (1 / 1 年次)	器台の利用方法について、土器づくりの会に制作を依頼・実施した。活動内容を神奈川県民センターの講座にて活動内容を発表した (9/20)。
市民協働古文書整理解説 (1 / 1 年次)	「横浜古文書を読む会 下読み会」とともに緑区の河原家文書の解説・戸塚区の上矢部村文書の解説を実施した。上矢部村については継続する。
市民協働民俗調査 (1 / 1 年次)	5 月、6 月、10 月に市域北部および町田市のフィールドワークを実施した。

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団の諸施設や他の研究機関と連携して調査研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
小机城・小机地域にかかわる総合的研究 (1 / 1 年次)	企画展「北条幻庵」を実施した。 1964 年の学習院大学輔仁会歴史部による小机城発掘調査について、開発に伴う港北区の地域的变化を含めた映像を制作し、「北条幻庵」展で公開した。 2026 年度の雲松院開基 500 年に向けて、文化財課による雲松院文書調査に対応した。

(3) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「昭和の時間に包まれる 北	特別協力の TOY MUSEUM と展示計画を検討した。広報印刷物の作成

原コレクションと所蔵資料」	に着手した。
企画展「横浜絵の深層—ジャンルか、イメージか、それとも輸出美術か」	展示計画を検討し、笠木治郎吉など横浜絵に関する調査や出陳交渉、業者との下打ち合わせ等を進めた。
特別展「南武蔵の平安仏」（仮）	出陳候補資料の調査を進めた。展覧会の主催について、教育委員会と調整を行った。
令和9年度以降企画展調査	令和9年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

（４）資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	青葉区旧家古文書	381	完了
2	緑区旧家古文書	1,655	完了
3	戸塚区旧家古文書	106	継続
4	戸塚区旧家古文書	21	継続
5	海野コレクション	2,507	継続

このほか、東海大との協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習との連携を行った〔5－（9）参照〕。

（５）紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第30号』を刊行した。今号は以下を掲載した。なお、紀要は令和4年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

論文 朝光寺原式研究に関する覚え書き 坂本 彰
 資料紹介 戸塚宿問屋場における「人馬日々帳」の紹介
 一たとう紙に利用されていた古文書の復元から— 仲泉 剛

（６）資料目録の編集

『横浜市歴史博物館資料目録第35集』を編集しました。今号は、武蔵国都筑郡佐江戸村（現在の横浜市都筑区）の並木家文書・武蔵国都筑郡川和村（現在の横浜市都筑区）の信田家文書の目録を掲載しました。なお、上記の古文書は現在寄贈手続中であり、手続きが完了し次第公開する。また、資料目録は令和4年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

（７）調査等への職員派遣

文化財調査等に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財総合調査	4名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 8/20(水) 長泉寺・円応寺

		10/24（金）鶴見大学図書館
		1/19（月）雲松院文書

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度は、30周年事業として昨年度に制作した、横浜の通史と常設展示室のガイダンスを兼ねる動画の番組の運用を開始し、小学校の社会科見学に対応しました。今後も来館者のニーズを踏まえ、コンテンツの充実を目指します。また下半期には、小学校4年生・3年生への対応として、吉田新田の展示およびむかしのくらしの展示を実施しました。

また9月から11月にかけては、ITVの更新と照明のLED化工事を実施しました。

一方で開館30年を経て、展示機器類の更新が課題となっています。映像をアプリで視聴できるように対応したり、展示解説ボランティアによるワンポイント解説でフォローをしていますが、老朽化した機器類の修繕・更新が今後の重要な課題です。

（1）保守点検・維持管理

展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検は、近世桜屋模型の照明交換、六浦地形復元装置模型、鶴見寺尾郷装置模型、神奈川世界復元模型などのランプ交換および各装置の動作確認等全体調整1回を実施した。日常の展示資料の清掃は、職員が月2回の頻度で行った。

（2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
多言語化解説のコンテンツ（公式解説アプリ）運用	日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、ドイツ語での多言語解説アプリ「ミューズナビ」を、一般来館者および学校団体向けに運用した。
常設展示室内の展示解説映像のアプリでの運用	常設展示室で、スタンドアロンで提供していた展示解説映像を解説アプリに格納し、来館者各自のスマホやタブレットから視聴できるようにした。
「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」の提供	スタディサロンでは、来館者のスマホやタブレットで歴史クイズやオリジナルビデオが視聴できる「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」をアプリにて提供した。
常設展ロビーの活用	常設展ロビーを活用して、11月から年度末まで、小学校4年生の学習単元に合わせたミニ展示「吉田新田」、小学校3年生の学習単元に合わせたミニ展示「昔のくらし」を開催した。

（3）常設展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
7年度	10,357	2,582	1,259	2,280	16,478	26,898	43,376	83.1%	242日	179

6 年度	13,333	4,003	1,519	2,839	21,694	30,511	52,205	151.6%	301 日	173
5 年度	7,598	3,008	804	2,770	14,180	20,248	34,428	63, 6%	208 日	166

※令和 5 年度はチラー更新工事のため、10/2～2/2 まで休館

※令和 7 年度は設備機器更新のため、9/8～11/21 まで休館

4 企画展事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

開館 30 周年を記念し、横浜の文化財に関する特別展「横浜の文化財」を開催しました。夏季には親子で考古学を楽しめる「君も今日から考古学者」展、秋季には小机城の発掘成果と市域とその周辺の中世文書調査を踏まえた「北条幻庵」展を開催し、財団他施設や企業、学校などと連携した関連事業を展開しました。冬季には。市の指定・登録文化財展と、親しみやすく古文書を紹介した入門展「みすてりい・おぶ・こもんじょ」展を実施しました。

（1）企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
開館 30 周年記念特別展「横浜の文化財—まもり伝える地域の記憶」Part1 修復・Part2 伝承」 Part1：令和 7 年 4 月 26 日（土）～6 月 2 日（月） Part2：令和 7 年 6 月 14 日（土）～7 月 27 日（日） 会期 75 日（38／37 日） 開館日数 65 日（33／32 日）	一般 1,000 円 高大 700 円 小中学生、市在住 65 歳以上 500 円	17,719 人 （12,348 人 ／5,371 人） 会期 38/37 日 開館日数 33/32 日 1 日あたり 374/168 人 ただし Part1 は、歴史未来フェス（5/24-25）7,214 人を含む	開館以来 30 年間にわたって収集・保存、あるいは修復、調査・研究し、さまざまな事業で公開してきた横浜の文化財について、まもり伝えていくための技や仕組み、人材の育成、まもり伝えるグループや地域活動などに光をあてつつ紹介した。 Part 1 では文化財の「修復」をテーマにし、現在の保存・修復の考え、モノを形作る材質・存在する場所、環境、そして保存・修復を担う継承者などに注目した。令和 7 年度に新たに収蔵した笠木治郎吉「明治期庶民風俗図」を本邦初公開した。 Part2 では、かたちに残りづらい無形文化財と、文化財が内包するものがたりに焦点をあてた。無形文化財の展示は、実物とともに映像資料を用い、祭礼や神楽の様子がわかるように工夫をした。 関連事業 ・講演会 ①絵画・古文書の修復 4/29（火祝）37 人 ②甲冑の修復・複製 5/3（土祝）35 人 ③彫刻文化財の保存修理 5/10（土）38 人 ④横浜の史跡 7/5（土）55 人 ・江戸手描き鯉のぼりを染めてみよう 5/4（日祝）19 人、5/5（月祝）21 人 ・笛吹ボトル WS（東海大学連携事業）5/18（日）15 人

			・Part1 関連ミニ展示「甲冑を護り伝える」 西岡甲房による甲冑解説 5/17（土）39 人 ・ギャラリートーク Part1 4/27（日）、5/4（日祝）、5/5（月祝）、5/6（火祝）、 5/11（日）、6/1（日） 計 112 人 ・ギャラリートーク Part2 6/22（日）、6/29（日）、7/6（日）計 61 人 ・ウォーキング「館長厳選！史跡めぐり」 6/25（水）15 人、7/2（水）13 人 ・神代神楽公演 7/19（土）143 人 ・（共催）相模民俗学会 民俗学講演会「地域の文化を未来に伝えるー文化財・祭り・神楽ー」 7 月 13 日（日）45 人
企画展「君も今日から考古学者！ー横浜発掘物語 2025 夏休み編ー」 令和7年8月9日（土） ～9 月 7 日（日） 会期 30 日 開館日数 26 日	一般 800 円 高大 300 円 小中学生、 市在住 65 歳以上 150 円	3,682 人 会期 30 日 開館日数 26 日 1 日あたり 142 人	夏休みまでに先史時代を学んだ小学校 6 年生、より年齢が下の児童や未就学児に向け、考古学の基礎を学び、歴史や考古学への興味を持ってもらうことを目的とした展示。 土器や石器を観察しながら解くワークシートや発掘体験に加え、拓本体験や、展示室内で学芸員やエドゥケーターに質問できるコーナーなど、夏休みの宿題に活かせる工夫を盛り込んだ。 神奈川県立歴史博物館の協力を得、「顔」に注目した展示コーナーや講座を実施した。 東京都市大学と協力し、大塚遺跡をモデルにしたゲーム「クロニクルからの脱出」デモを実施した。 関連事業 ・カラー拓本を作ろう 8/16 日、17（日）、23（土）、24（日）、31（日）、9/6（土）、7（日） 計 120 人 ・遺跡を掘ろう 8/10（日）、11（月祝）、13（水）、14（木）、15（金）、16（土）、17（日）、19（火）、20（水）、21（木）、22（金）、23（土）、24（日）、30（土）、31（日）、9/6（土）、7（日） 計 420 人 ・考古学講座「縄文の顔、弥生の顔、古墳の顔」 8/30（土）33 人 ・展示解説 8/10（日）、8/24（日）、9/7（日）計 81 人

			・親子向けナイトミュージアム 8/11（月祝）19人 ・（共催）ミュージカル「君も今日から考古学者！」 8/22（金）140人 8/23（土）170人 ・東京都市大学作成の大塚遺跡をモデルにしたゲーム 「クロニクルからの脱出」デモ 8/20（水）、21（木）、22（金）、28（木） 計46人
企画展「北条幻庵— 横浜・小机城と関 東の戦国—」 令和7年11月22日 （土） ～令和8年1月18日 （日） 会期58日 開館日数43日	一般 1,000円 高大 800円 小中、市在住 65歳以上 300円	8,184人 会期58日 開館日数 43日 1日あたり 190人	伊勢宗瑞（北条早雲）の末子として誕生し、北条氏五代の隆盛とともに生きた北条幻庵を主軸に据え、幻庵の子息や養子が城主をつとめた小机城について、古文書や近年の発掘成果をもとに紐解くとともに、幻庵の生涯をたどりながら関東の戦国時代を紹介した。 最新の研究成果を踏まえ、さまざまな実物資料をもとに幻庵の生涯をたどる内容とし、幻庵や小机城主にかかわる資料が一堂に会する機会となった。また、横浜市によるR3・R4の小机城発掘の成果を、埋蔵文化財センター・株式会社パスコなどの協力を得て展示した。 ふるさと港北ふれあいまつりでのPR活動、JR小机駅でのパネル展示、お城EXPOでの出展など、館外での活動により広く展覧会の周知につとめた。 財団他施設・小机城発掘に携わった企業・さまざまな団体の協力により、戦国・城郭・発掘等多様な関心に応える展示となった。 関連事業 ・講演&ディスカッション 「北条幻庵と戦国の城郭 —小机城のこれからを考える—」 第一部 北条幻庵と横浜・小机城 12/13（土）144人 第二部 幻庵の生きた時代の戦国城郭 12/14（日）111人 ・講演会「幻庵宗哲と北条一門 —一門の中心には幻庵がいた—」 1/11（日）174人 ・特別協力講演会 ①神奈川県立歴史博物館所蔵の北条氏関係文書 12/7（日）45人 ②三郎宛北条氏康判物の古文書学的考察

			1/12（月祝） 61 人 ・ギャラリートーク 11/29（土）、12/6（土）、12/20（土）、 1/10（土）、1/17（土） 計 261 人 ・2025 ふるさと港北ふれあいまつり 11/8（土） パネル展示、展覧会の周知 ・館外パネル展 ①お城 EXPO2025 12/20（土）、12/21（日） ※埋文センター、港北区、（株）パスコとの 連携展示 ②JR 横浜線小机駅構内 11/7（金）～1/18（日） ・ミニ展示（会期中） ①小机城の発掘調査序章一戦国の城に挑んだ青春— ②わたしたちが観察したよ！小机小学校の考古遺物 ③株式会社パスコ提供の小机城コンテンツ 小机城をうつそう（プロジェクションマッピング） ふかぼり！小机城（デジタルコンテンツ）、 風雲！VR 小机城（VR ゲーム） ④城郷小学校・小机小学校児童作成のパネル展示
企画展「みすてりい・おぶ・こもんじょ — 古文書の世界へようこそ—」 令和 8 年 1 月 31 日（土）～3 月 15 日（日） 会期 44 日 開館日数 40 日	一般 500 円 高大 400 円 小中、市在住 65 歳以上 300 円	4,504 人 会期 44 日 開館日数 40 日 一日平均 113 人	「令和 7 年度 横浜市指定・登録文化財展」と同時開催。 これから古文書を学ぶ方に向けた、江戸時代の古文書の入門展示。古文書が語る地域史の魅力やファミリーヒストリーの実践について紹介し、歴史資料を後世に残す意義も考えた。 会場では会話風の解説パネルを取り入れたり、仮名文字のクロスワードパズルのワークシートを設置したりするなど、古文書に親しんでもらうための工夫を凝らした。 毎年この時期に実施する初心者向け講座「はじめての古文書」と連動し、テキストに使用する古文書を展示した。また市内で活動する古文書サークルを体験学習室で紹介した。 関連事業 ・講演会 A「歴史好きのための古文書入門」 3/1（日） 97 人 ・講演会 B「ファミリーヒストリーの実験 — 尾張藩下級武士がたどった明治・大正・昭和—」

			3/8（日） 64人 ・展示解説 2/1（日）、2/14（土）、2/28（土）、3/15（日） 計 96人 ・連続古文書講座「はじめての古文書 2026」 2/6（金）～3/27（金） 毎週金曜日 全8回 50人 ・ミニ展示「古文書仲間を作ろう！～市内古文書の会の紹介～」 於：体験学習室 1/31（土）～3/15（日）
「令和 7 年度横浜市指定・登録文化財展」 令和 8 年 1 月 31 日（土）～3月15日（日） 会期 44 日 開館日数 40 日	一般 500 円 高大 400 円 小中、市在住 65 歳以上 300 円	4,504 人 会期 44 日 開館日数 40 日 一日平均 113 人	令和 7 年度、新たに指定された横浜市の文化財等を展示するとともに、文化財の〈みかた〉をわかりやすく紹介した。證菩提寺の聖観音菩薩坐像、大本山總持寺の春日社寺曼荼羅は実物を展示し、実物展示が難しい旧三井物産横浜支店倉庫建築部材については、関東学院大学の黒田泰介研究室作成の模型を展示した。また市の「横浜市文化財保存活用地域計画」の成果も併せて紹介した。プレ展示として、横浜市役所 1 階展示スペース B を会場に 1/21（水）～1/27（火）までパネル展を開催した。 関連事業 ・特別講演会「中世関東禅林の絵画」 1/31（土） 33人 ・講演会「横浜の仏像を知る！ 一身近なみほとけたちをハッケンしようー」 （神奈川県立歴史博物館連携）2/21（土）149人 ・ギャラリートーク 2/15（日）、2/22（日）、3/14（土） 計 67人 ・令和 7 年度 横浜市指定・登録文化財パネル展 （市教委共催、市庁舎展示スペース B にて実施） 1/21（水）～1/27（火） 9,768人
「横浜市歴史博物館 展覧会ポスター展」 令和 7 年 1 月 31 日（金）～9月7日（日）	観覧無料		開館 30 周年を記念し、開館以来の企画展・特別展のポスターを展示した。 会場：2 階廊下



「横浜の文化財 Part1」展示風景



「横浜の文化財 Part2」展示風景



「横浜の文化財」館長厳選！史跡巡り



「横浜の文化財」神代神楽公演



「君も今日から考古学者！」カラー拓本



「北条幻庵」学習院大学輔仁会史学部の小机城調査・
小机小学校所蔵遺物の展示



「文化財展」内覧会 三井物産横浜支店倉庫模型を制作した、関東学院大学黒田先生による解説



「みすてりい・おぶ・こもんじょ」展示解説

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者 （人）	合計 （人）	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
7年度	6,912	2,517	805	453	10,687	23,401	34,088	85.1%	180日	189
6年度	9,520	3,748	756	954	14,978	25,075	40,053	150.0%	240日	167
5年度	4,813	3,218	375	465	8,871	17,818	26,689	62.3%	166日	161

5 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座やワークショップ、コンサートやアートイベントなどの事業を、市民や地域のさまざまな団体と連携して実施しました。また戦後80年の節目の年にあたり、財団施設連携事業の一環として講演会を実施しました。その他、さまざまな自主企画や、地域と連携した事業を展開しました。

(1) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
民俗学講演会（共催） 5/18（日）	41人	相模民俗学会に共催し、3匹獅子舞をテーマとした講演会を開催した。 演題：「獅子舞のカタチとココロ」 講師：久保田裕道氏（東京文化財研究所無形民俗文化財研究室室長） 会場：講堂 参加料：無料
戦後80年講演会（財団内連携） 5/31（土）	50人	戦後80年の財団連携企画の一環として、横浜市史資料室で戦争関係の史料の整理に長年携わった羽田博昭氏に横浜市民の戦争についての講演会を開催した。 演題：「横浜市民の戦争―戦場と銃後の空襲―」 講師：羽田博昭氏（元横浜市史資料室主任調査研究員）

		会場：講堂 参加料：1,000円
街頭紙芝居デビュー講座 6/14, 28, 7/5, 12, 26, 8/2, 30, 31	6人	紙芝居文化推進協議会の共催を得て、街頭紙芝居の歴史や魅力を伝え、その文化を継承する担い手を育成する、座学と実演による講座を実施した。 会場：研修室他 参加料：5,000円 ※7月12日実演：48人
横浜歴博もりあげ隊 第20回歴史講演会(共催) 6/14(土)	145人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、第20回歴史講演会を開催した。 演題「蔦谷重三郎の仕事」 講師：鈴木俊幸氏(中央大学教授) 会場：講堂 参加料：600円
民俗学講演会(共催) 7/13(日)	45人	相模民俗学会に共催し、無形文化財をテーマとした講演会を開催した(開館30周年記念特別展「横浜の文化財」連携)。 演題：「地域の文化を未来に伝えるー文化財・祭り・神楽ー」 講師：小川直之氏(國學院大學名誉教授、相模民俗学会会長) 会場：講堂 参加料：600円
横浜古文書を読む会 夏季歴史講演会(共催) 8/29(金)	134人	横浜古文書を読む会に共催して、創立30周年記念夏季歴史講演会を開催した。 演題：「近世の新吉原遊廓の実像と現代」 講師：横山百合子氏(国立歴史民俗博物館名誉教授) 会場：講堂 参加料：会員無料、一般500円
横浜古代史料を読む会・横浜さいかちの会 古代史フォロー講座 8/7(日)、12/4(日)		横浜古代史料を読む会・横浜さいかちの会に向けて、フォロー講座を開催した。 8/7(木) 演題「古代史料を読むー『続日本紀』をめぐる」 12/4(木) 演題「『日本書紀』を読む」 講師：佐藤信(当館館長) 会場：講堂 参加料：無料
横浜さいかちの会 20周年記念連続講座(共催) 2/21(土)、3/1(日)	44人 53人	横浜さいかちの会に共催して、20周年記念連続講座を開催した。 演題「中世都市鎌倉の隆盛ー幕府滅亡から南北朝時代へ」 講師：大澤泉氏(鎌倉歴史文化交流館学芸員) 会場：研修室 参加料：無料
明治大学黒曜石研究センター シンポジウム(共催) 11/24(月祝)	49人	明治大学黒曜石研究センターに共催して、シンポジウム「鈴木次郎らの提唱した相模野編年と旧石器時代史の構築に向けて」を開催した。
かながわ考古学財団 発掘出土品展示会、成	1,791人 133人	かながわ考古学財団に共催して、発掘出土品展示会と成果発表会を開催した。

果発表会（共催） 12/2（火）～14（日） 発表会 12/6（土）		・発掘出土品展示会 12/2（火）～12/14（日） 1,791 人 ・令和 7 年度発掘調査成果発表会 12/6（土） 133 人 会場：講堂・2 階廊下 参加料：無料
横浜歴博もりあげ隊 第 21 回歴史講演会（共催） 12/17（水）	140 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、第 21 回歴史講演会を開催した。 演題「万葉びとの秋」 講師：上野誠氏（國學院大学教授） 会場：講堂 参加料：600 円
弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム・公開研究会（後援） 12/20（土）・21（日）	対面 146 人 リモート 167 人	水田稲作技術比較研究プロジェクトによる弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム・公開研究会「谷水田と実験考古学フィールド」・「弥生農耕の現在的視点」に後援した。 会場：戸塚区役所多目的スペース・横浜市技能文化会館 参加料：無料
第 48 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会（共催） 1/25（日）	82 人	神奈川県考古学会に共催して、「第 48 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会」を開催した。 会場：講堂 参加料：無料
「はじめての古文書」 2/6(金)～3/27(金) 毎週金曜日 全 8 回	50 人	横浜市域の資料を用いた、初心者向けの古文書入門講座を開催した。また録画した映像によるアーカイブ配信を実施した。 受講生 12 名が、「横浜古文書を読む会」に加入した 会場：研修室 参加料：5,000 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり教室」 2/1(日)～3/14(土) 全 4 回	6 人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルとし、都筑区内で採取した粘土と砂を材料にして、土練り、成形、施文、野焼きの 4 工程を経て縄文土器を制作した。 2/1・14・15、3/14 実施 会場：工房・遺跡公園体験広場 参加料：5,000 円
特別講演会 1/31（土）	33 人	博物館の開館記念日に、各学会の第一人者を招いて実施する講演会。 演題「中世関東禅林の絵画」 講師：高橋真作氏（東京国立博物館主任学芸員） 会場：講堂 参加料：1,000 円
都筑区郷土講演会（共同主催） 2/15（日）	91 人	都筑図書館・都筑区役所との共同主催で、都筑区の歴史を紹介する講演会を実施した。 演題「古文書から読み解く江戸時代の都筑の村々」 講師：仲泉剛（当館学芸員） 会場：講堂 参加料：無料
講師等派遣		各区や地域の郷土史団体等の講座・講演会等に職員を派遣し

		た。 6/21(土)「最新の考古学調査研究 2025」NHK 文化センター柏教室 8/24(日)「寺社参詣 物見遊山 古文書でたどる江戸時代の庶民の旅」藤澤浮世絵館 9/20(土)「土器づくりと実験考古学 横浜市歴史博物館の事例をもとに」神奈川県教育委員会教育局生涯学習文化財課 11/8(土)「大山街道と古仏」大山街道ふるさと館 11/15(土)「氷室と鶴見川の往来」鶴見歴史の会 11/19(水)「サムライ Meets ペリーWith 黒船」生涯学習「絆」 11/30(日)「都筑郡の環濠集落と中世の茅ヶ崎城」宮前市民館(現地見学) 12/2(火)「市が尾横穴古墳群解説」認定 NPO 法人森ノオト 12/2(火)「創造される歴史と人々が紡ぐ歴史」明星大学 12/6(土)「鶴見の丘、中世の戦乱と祈り」鶴見歴史の会 1/24(土)「通行者からみた戸塚宿の実像」戸塚見知楽会 1/28(水)「鶴見川の水運と歴史について」都筑区老人クラブ連合会 3/1(土)「鶴見川舟運物語～河岸が見つないだ流域のくらし～」鶴見川流域センター 3/5(木)「令和7年度 保土ヶ谷区公園愛護会のつどい」横浜市保土ヶ谷土木事務所 3/15(日)「南区の中世—古文書を中心に—」南区郷土の歴史研究会
--	--	--

- ・このほか、神奈川県博物館協会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、横浜郷土史団体連絡協議会に職員を派遣し、定例の会議への参加、研修会等の開催などに協力した。



街頭紙芝居デビュー講座 受講生の実演



都筑区郷土講演会

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
当日参加型れきし工房 まがたま（滑石） あじろ編み (11日22回)	59人	滑石 白 500円 滑石 ピンク 550円 あじろ編み 小物入れ 500円	ミュージアムショップでオリジナルキットを購入し、活動支援ボランティアのサポートを受けながら、まがたまづくり・あじろ編み小物入れの体験ができる事業。原則最終土曜日に実施。 4/26（土）、5/31（土）、6/28（土）、7/26（土）、8/30（土）、10/25（土）、11/29（土）、12/27（土）、1/31（土）、2/28（土）、3/28（土） 計59人 会場：体験学習室
土偶づくり「はらでぐちくんを作ろう」 4/19（土）	13人	1,500円	小学生から大人を対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを遺跡公園内の工房にて開催した。今年度は土偶づくりを実施した。 会場：工房 ※野焼き 5/11（日）
親子向けナイトミュージアム	19人	一般1,000円 中学生以下 600円	懐中電灯を持って夜の博物館を探検する親子向けツアーを開催した。 会場：企画展示室、常設展示室ほか
いけばなワークショップ「ことばは大事だが、すべてではない」	3人	3,000円	初心者から経験者まで楽しめる、グループで花を生けるワークショップを実施した。 会場：都筑民家園
バレンタインデー特別企画「銅鏡チョコを作ろう！」 2/9（日）	5人	2,000円	日吉矢上遺跡出土青銅鏡の雌型を食用シリコンで作成し、チョコレートを錫と見立てて、青銅鏡の踏み返し技法について学ぶ講座を開催した。 会場：工房
バックヤードツアー 3/14（土）	19人	一般1,000円 中学生以下 600円	学芸員の案内で博物館のバックヤードを見学するとともに、実物資料を間近で見たり触れたりするツアーを開催した。
体験広場 野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、会が制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/6（日）、11/15日、3/14（土）

(3) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
街頭紙芝居の実演 おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終土曜日及び 5/24・25（歴史未来フェス） (計13日)	1,819人	当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、毎月最終土曜日と歴史未来フェスにおいて複製紙芝居の実演を実施した (1日当たり5～6回) 会場：エントランスホール・玄関前など

(4) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、後援事業、受託事業等）

項 目	開催日	事 業 内 容
みなきたマルシェ	6/28・7/26・9/27・ 10/25・11/29・ 1/31・2/28	みなきたマルシェ実行委員会に協力し、博物館コロネード・業務用駐車場等で「みなきたマルシェ」を開催した。
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業		「むかし体験」歴史授業 合計 897 人 資料館授業 9 校 528 人 訪問授業 7 校 369 人 ※詳細は 5（9）参照
港北区委託 小机城址にかかわる文化資源の活用及び教育普及業務		城郷小学校 6 年生への小机城址に関する訪問授業、小机小学校 6 年生「城熱プロジェクト」での出張授業、小机小学校 6 年生有志との「小机小学校所蔵の考古遺物ワークショップ」の実施。 ※詳細は 5（9）参照
みなみ歴史講座「仏像と古文書からみる南区」	12/13（水）	南図書館が主催するみなみ歴史講座「仏像と古文書からみる南区～弘明寺の古代から近代まで～」に共催し、講師を 2 名派遣した。
バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー2025	4/26（土）～9 / 7（日）	鶴見川流域ネットワークに協力し、鶴見川流域に所在する生涯学習施設等をめぐるスタンプラリーに参加した。
つづき寄席 in 歴博	6/21（土） 11/30（日）	きたやまた落語倶楽部に共催し、都筑区が後援、北山田地区センター・北山田町内会が協力する「つづき寄席 in 歴博」を当館講堂で実施した。参加者 6/21:172 人、11/30:141 人。
第 8 回「弥生の御朱印巡り」	10/31（金）～	鳥取県地域社会振興部文化財局 とっとり弥生の王国推進課に協力し、全国の弥生時代の主要遺跡をめぐるスタンプラリーに参加した。
手作り紙芝居コンクール	11/3(月祝)～2/1（日）	紙芝居文化推進協議会が開催する「手作り紙芝居コンクール」に協力し、特別賞として歴史博物館賞を設けたほか、広報の連携を行った。
センター中央文化祭	10/19（日）	センター中央文化祭実行委員会に協力し、センター中央文化祭の実施に協力した。今年度は休館中の開催だったため、港北みなもに出展し、街頭紙芝居の実演と浮世絵スタンプを実施した。 街頭紙芝居：157 人、浮世絵スタンプ：139 人
横浜歴博もりあげ隊バロックコンサート	11/23（日）	横浜歴博もりあげ隊に共催して、「バロックコンサート in 歴博 2025」を開催した。 演奏：湘南バロック・アンサンブル 参加料：300 円 参加者：120 人

「ロジウラート！ アートでつながれ！」	11/30（日）	都筑民家園を会場にしたアートプログラム「ロジウラート！ アートでつながれ！」（ロジウラート実行委員会・都筑民家園主催）に協力した。※ヨコハマアートサイト2025助成事業
手作り紙芝居ライブ	2/1（日）	紙芝居文化推進協議会に共催し、手作り紙芝居コンクールの受賞作を中心とした「手作り紙芝居ライブ」を当館エントランスホールで開催した。参加者 92 名。
都筑図書館及び都筑区役所共催展示及び講座	2/3(火)～16(月)	都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「古文書から読み解く江戸時代の都筑の村々」と題した展示および2/15（日）に同テーマの「都筑区郷土講演会」を横浜市歴史博物館講堂で開催した（講師は当館学芸員仲泉剛）。講演会には 91 人が参加した。
鶴見川流域水マスタープラン（水マス）講座	3/1（日）	NPO 法人鶴見川流域ネットワーキングに協力し、鶴見川流域水マスタープラン講座「鶴見川舟運物語」に講師を派遣した。参加者 30 名。
横浜子ども会連絡協議会第 36 回「子ども書道展」	3/6（金）～7（土）	横浜子ども会連絡協議会第 36 回「子ども書道展」に協力し、「横浜市歴史博物館館賞」を設け、賞状授与を行った。展示会場：横浜市青少年育成センター。
つづきアート&ミュージック・ネクスト第 9 章 The MASK	3/12～14（金～日）	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート&ミュージック・ネクスト実行委員会に共催し、「子どもも大人も障害のある人もアートとミュージックでつながっていこう！」をコンセプトとした「つづきアート&ミュージック・ネクスト」を当館エントランスホールで開催した。延べ来場者430名
第 25 回センター北まつり	3/21（土）～3/22（日）	センター北商業振興会に後援し、センター北まつり開催に協力した。まつり会場に出展し、浮世絵スタンプを実施した。浮世絵スタンプ参加者461人。
楽しく学ぼう！市営バスの交通安全教室	3/25（水）	NPO法人H&Kに協力し、幼児や親子を対象にした横浜市営バスを使った交通安全教室を開催した。（協力：横浜市交通局・都筑区役所・都筑警察署） 参加者80名
アンチエイジングハーモニカ～研究発表とコンサート	3/28（土）	NPO法人都筑文化芸術協会に協力し、音楽と健康をテーマにしたイベント「アンチエイジングハーモニカのすゝめ」を開催した。参加者170人

（５）歴史未来フェス

センター北の開港記念日前後の中心となるイベントとして、地域で活動する諸団体による「街の文化祭」と位置づけ、5月24・25日（土日）に入館無料で開催した。今年は開館30周年を記念して規模を拡大し、博物館とコロネードのほか、業務用駐車場、遺跡公園、都筑民家園、ボッシュホールでもマルシェ・

キッチンカーコーナーやイベントを開催した。2 日間で 7,213 人（前年度比約+1,000 人）が来館した。

来館者合計 7,214 人

5/24（土）3,242 人、5/25（日）3,971 人

開催場所	プログラム
歴史劇場	・無声映画（映楽四重奏）
常設展示室	・スポーツ土器パズル ・展示室 de 間違い探し
企画展示室	・開館 30 周年特別展「横浜の文化財」
エントランスホール	・横浜ビー・コルセアーズ シュートゲームなど ・ストリートピアノ ・物販・ワークショップ ・パネル展示「未来へ残したい格言」 ・都筑文化芸術協会企画 音楽・アートのパフォーマンス
エントランスホール外・コロネード	・つづきブックカフェ ・街頭紙芝居 ・親子マルシェ
休憩室	・モヤキラ CAFE
2F ろう下	・クリエイターフェス横浜
講堂	・ダンスコンテスト（24 日） ・ソングコンテスト（25 日）
体験学習室	・横浜歴博もりあげ隊 あじろあみワークショップ
業務用駐車場	・もしもミッション疑似体験ツアー
大塚・歳勝土遺跡公園	・みなきたマルシェ ・グルメエリア
ボッシュホール	・ダンスコンテスト最終審査発表&表彰式（24 日） ・「小鼓の世界へようこそ」（25 日）
都筑民家園	・しの笛コンサート ・竹細工 ・着物体験（まち biz 着物同好会） ・英語&日本語 テーブル de 茶道 ・竹細工ワークショップ・販売



(6) アウトリーチ

本年度は、これまで行ってきたアウトリーチ事業に加え、他施設でのワークショップや地域イベントへの出展などを実施した。

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
横浜美術館「おかえり、ヨコハマ」展関連イベント「とりもどせ！ヨコハマ原始感覚」 4/27（日）	15 人	横浜美術館と連携し、同館のリニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」展の関連イベント「とりもどせ！ヨコハマ原始感覚」（勾玉づくり）を実施した。活動支援ボランティアが制作補助を行った。
ボッシュホール「ぼうさいアートランド」 9/6（土）		ボッシュホールの防災に関するイベントに参加し、大正～昭和の都筑の消防についてのミニパネル展を実施した。
センター中央文化祭 10/19（日）	紙芝居 157 人 スタンプ 139 人	センター中央文化祭に出展し、街頭紙芝居と浮世絵スタンプを実施した。 ※休館中のアウトリーチ
中山恒三郎家の公開 10/19（日）	501 人	（有）松林園に共催し、横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開を行った。開港資料館・都市発展記念館の財団施設のほか「都筑をガイドする会」・「川和小学校ふれあい郷土館」・「川和町内会」等と連携して、書院、諸味蔵、店蔵、麴室、八号機を公開し、書院については内部見学、諸味蔵では民俗資料と整理作業の見学を実施した。
2025 ふるさと港北ふれあいまつり 11/8（土）	甲冑体験 38 人	ふるさと港北ふれあいまつりに参加し、北条幻庵展および横浜レキハクパートナーズの PR と甲冑着付け体験を実施した。甲冑体験は活動支援ボランティアが参加した。
関家住宅の公開（共催） 11/16（日）	202 人	横浜市教育委員会に共催し、重要文化財「関家住宅」の内部公開を行った。当館と開港資料館の財団専門職員が解説を行ったほか、横浜国立大学の協力を得て、同大学の学生による資料の配布と解説を行った。

横浜スカーフ資料の展示会開催 12/6（土）～1/12（月）	1,446 人	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜輸出スカーフ展「Yokohama Scarf Stories - 世界の風に吹かれて -」を実施した。 会場：シルク博物館 共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学
お城EXP02024への参加 12/20（土）～21（日）		お城エキスポ実行委員会が主催する「お城 EXP02025」に出展した。今年度は北条幻庵展の会期を合わせ、小机城をメインテーマに据えて、埋文センターと連携して物販やパネル展を行った。また例年と異なるフロアで規模を拡大し、株式会社パスコとも連携してスタンプラリーやミニ講座を実施した
令和 7 年度横浜市指定・登録文化財パネル展 1/21（水）～1/27（火）	9,768 人	横浜市役所 1 階展示スペース B を会場として開催した。1/31 から当館で行う文化財展のプレ展示とし、大型バナーを用いて、本年度指定の文化財や近年修理が行われた文化財を紹介した。
センター北まつり 3/21（土）～22（日）	461 人	センター北まつりに出展し、活動支援ボランティアによる浮世絵スタンプ体験を実施した。



お城 EXPO2025



文化財展 市庁舎でのパネル展

（7）かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的・長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を継続して実施している。令和 7 年度は担当者による軽いメンテナンスのみ実施した。

（8）ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
展示解説ボランティア	市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを実施した。8 月および、暑さ指数 30 を超える日の屋外ガイドは中止（猛暑対策）としたが、屋内の常設展示室で毎日 2 回のワンポイント解説を実施した。休館中は予約の場合に限り、

	遺跡公園・民家園のガイドを実施した。 ① ガイド登録者数：82 人 ② 基本ガイド時間 遺跡公園 小学校 6 年団体 約 45 分間 常設展 見学者の要望に応じて実施 ワンポイント解説 11：00 と 13：30 の 2 回実施 ※活動実績は後述
活動支援ボランティア	昨年度に引き続き、当日参加型れきし工房の補助のほか、「歴史未来フェス」、 「君も今日から考古学者」展、センター中央文化祭、センター北まつりなどにも ご協力いただいた。 ①登録者数：28 人 ②活動実績 ・れきし工房 まがたま（滑石）・あじろ編み小物入れ 原則最終土曜日 計 11 日 活動 36 人 ・横浜美術館「おかえり、ヨコハマ」展 とりもどせ！ヨコハマ原始感覚 4 月 27 日 活動 3 人 ・歴史未来フェス 5/24～25 活動 9 人 ・君も今日から考古学者展 遺跡を掘ろう 8 月 10 日、11 日、17 日、24 日、30 日、31 日、9 月 6 日、7 日 計 8 日 活動 14 人 ※このほか、展示解説ボランティアも 13 人活動した ・君も今日から考古学者展 カラー拓本をつくろう 8 月 16 日、17 日、23 日、24 日、31 日、9 月 6 日、7 日 計 7 日 活動 13 人 ※このほか、展示解説ボランティアも 12 人活動した ・センター中央文化祭 10 月 19 日 活動 6 人 ・ふるさと港北ふれあいまつり 2025 11 月 8 日 活動 4 人 ・横浜都市発展記念館・ユーラシア文化館 開館祭 3 月 14 日、15 日 活動 9 人 ・センター北まつり 3 月 21 日、22 日 活動 7 人 合計 101 人
ボランティア総会の実施	展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティアの合同のボランティア総会を、上半期分として 9 月 26 日に実施し、下半期分として 3 月 18 日に実施した。
ボランティア研修の実	全 11 種類の研修を行った。久しぶりに制限のない形（複数校受入れ）での遺跡

施	公園展示解説が再開されるため、ガイドポイントを再確認するための研修を年度初めに開催したり、秋口には小学4年生向け常設展示室吉田新田解説研修を行い、実践的な研修を通して学校対応に備えた。さらに企画展ごとにボランティア向け解説を聞く研修を必ず設け、学芸員らの専門に触れる機会を提供した。 ①横浜さいかちの会協働講演会「資料からみる江戸時代の神奈川宿一幕末期を中心に」 講師：小林紀子学芸員 実施日 5/14(水) 参加者：43名 ②民俗学講演会「獅子舞のカタチとココロ～神奈川の獅子舞を考える～」(相模民俗学会講演会) 講師：久保田裕道氏(独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形民俗文化財研究室長) 実施日：5/18(日) 14:30～16:00 参加者：10名 ③開館30周年記念特別展「横浜の文化財 Part1 - 修復-」展示解説 講師：阿諏訪青美学芸員 実施日：5/27(火) 参加者：28名 ④開館30周年記念特別展「横浜の文化財 Part2 - 伝承-」展示解説 講師：小林光一郎学芸員 実施日：6/28(土) 参加者：24名 ⑤佐藤館長講話「古代史料を読む」 講師：佐藤信館長 実施日：8/7(木) 参加者：27名 ⑥常設展示資料トピック解説「十王像」 講師：花澤明優美学芸員 実施日：9/5(金) 参加者：30名 ⑦教養講座「民俗の歴史性、あるいは解釈論 民具妖怪研究から文化人類学まで」 講師：小林光一郎学芸員 実施日：9/26 総会時 ⑧学校対応マナー研修(人権研修)＋ 小学校3年生向け民家園解説 講師：浅見壽則・大竹貴子エドゥケーター 実施日：10/15(水)・21日(火) 参加者：22人・11人 ⑨国指定史跡橘樹官衙遺跡群をたずねてー影向寺から橘樹歴史公園へー 講師：川崎市教育委員会事務局生涯学習部文化財課 栗田一生氏 実施日：11/11(火) 参加者：22人 ⑩小学4年生向け常設展示室吉田新田解説研修 講師：小林紀子学芸員、仲泉剛学芸員、大竹貴子エドゥケーター 実施日：12/12(金) 参加者：33人 ⑪企画展「北条幻庵」展示解説を聞く 講師：阿諏訪青美学芸員 実施日：1/16(金) 参加者 25人 ⑫企画展「みすてりい・おぶ・こもんじょ」展示解説を聞く 講師：仲泉剛学芸員 実施日：3/3(火) 参加者：20人 ⑬「来館者への接し方を今一度」(人権研修)
---	---



ガイドボランティア 都筑民家園解説



活動支援ボランティア 横浜美術館勾玉づくり

展示解説ボランティア活動実績

項 目		令和 7 年度		令和 6 年度		令和 5 年度	
		常設	遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡
活動実績	ガイド実施日数（日）	216	170	304	252	183	146
	解説回数（回）	1,015	506	820	528	304	367
	1日平均解説回数（回）	4.7	2.9	2.7	2.1	1.1	1.9
	参加者数（人）	6,569	8,651	5,768	9,855	2,167	6,434
	団体対応（件）	161	150	131	167	40	213

（9）学校連携事業の実施

今年度も例年同様、学校団体見学の受入れや訪問授業を積極的に行った。小学校4年の「吉田新田」や小学校3年の「昔の暮らし」の訪問授業、金沢区から委託を受けた訪問授業は引き続き実施した。小学校6年では、博物館見学事前訪問授業に加え、横浜市教育委員会生涯学習文化財課と連携した「埋蔵文化財訪問授業」を実施した。さらに、戦後80年に関する動画コンテンツの作成、配信を行った。

事業名／開催日	事業内容等
6年生向け訪問授業 「博物館見学事前訪問授業」 35校 3,048人	綱島小109人、東綱島小106人、汲沢小83人、帷子小45人、斎藤分小32人、つつじが丘小49人、東品濃小78人、鳥が丘小104人、菊名小153人、宮谷小128人、あざみ野第二小115人、上白根小70人、箕輪小180人、荏子田小80人、山内小124人、元街小83人、下和泉小65人、元石川小85人、奈良の丘小57人、洋光台第一小95人、篠原西小109人、西寺尾小56人、港南台第三小51人、万騎が原小65人、黒須田小91人、港南台第二小54人、つづきの丘小42人、洋光台第三小46人、長津田小152人、北綱島小97人、森の台小112人、

	美しが丘小 84 人、平戸台小 32 人、下田小 118 人、峯小 98 人
6 年生向け訪問授業 「埋蔵文財訪問授業」 28 校 2,336 人	善部小 84 人、上大岡小 69 人、西富岡小 96 人、飯島小 85 人、幸ヶ谷小 112 人、杉田小 103 人、六つ川小 60 人、境木小 98 人、本宿小 105 人、青木小 120 人、旭小 114 人、南山田小 95 人、黒須田小 92 人、稲荷台小 73 人、十日市場小 105 人、中和田小 120 人、駒岡小 120 人、竹山小 32 人、大道小 50 人、桜井小 48 人、鉄小 26 人、藤の木小 80 人、長津田第二小 96 人、永野小 107 人、並木中央小 63 人、荏田東第一小 64 人、小雀小 80 人、藤塚小 39 人
6 年生向け訪問授業 「歴史学習」 2 校 90 人	開国・開港について 舞岡小 55 人 愛知県岡崎市立羽根小学校 35 人（オンライン）
6 年生向け訪問授業 「舞錐式火おこし体験」1 校 73 人	稲荷台小 73 人
6 年生向け訪問授業 「縄文土器をつくろう」	上末吉小 6 年 10 月 31 日、11 月 12 日、12 月 5 日の計 3 回、訪問授業を行った。
「吉田新田の開発」 4 年生向け訪問授業 延べ 65 校 5,727 人 ※瀬谷さくら小は 2 回実施 ※保土ヶ谷小、元石川小は 2 日にわたって実施	飯島小 66 人、岸谷小 72 人、みなとみらい本町小 82 人、下郷小 89 人、浜小 138 人、荏田南小 109 人、勝田小 115 人、保土ヶ谷小 55 人、保土ヶ谷小 55 人、桜井小 47 人、釜利谷南小 43 人、神大寺小 132 人、瀬谷さくら小①46 人、牛久保小 111 人、瀬谷さくら小②46 人、鳥が丘小 84 人、荏田東第一小 54 人、東本郷小 112 人、南山田小 90 人、永野小 85 人、星川小 58 人、山田小 65 人、大道小 52 人、日吉南小 121 人、荏子田小 67 人、西寺尾第二小 124 人、茅ヶ崎東小 117 人、新石川小 35 人、新石川小 70 人、藤塚小 44 人、西本郷小 97 人、小田小 105 人、新吉田第二小 82 人、馬場小 142 人、八景小 55 人、大和市立引地台小 54 人、さわの里小 46 人、綱島小 104 人、もえぎ野小 76 人、茅ヶ崎小 167 人、小山台小 26 人、中和田南小 60 人、峯小 96 人、市ヶ尾小 120 人、洋光台第三小 41 人、城郷小 98 人、下田小 117 人、都岡小 76 人、浜小 138 人、緑園学園 144 人、あざみ野第二小 88 人、大豆戸小 104 人、仏向小 72 人、元石川小 65 人、上飯田小 64 人、菊名小 152 人、獅子ヶ谷小 109 人、西前小 100 人、小雀小 76 人、新吉田小 137 人、篠原西小 106 人、丸山台小 51 人、森の台小 116 人、大曾根小 177 人、永谷小 82 人
「吉田新田の開発」 4 年生向け 現地解説 延べ 6 校 583 人 ※緑園学園は 2 日にわたって実施	緑園学園 72 人、緑園学園 72 人、東本郷小 112 人、永野小 85 人、小田小 105 人、浜小 137 人

「吉田新田の開発」 4年生向け もっこ体験 延べ4校 237人	釜利谷南小 43人、鴨志田緑小 45人、舞岡小 47人、荏田西小 102人
「昔の暮らしと市の広がり」 3年生向け訪問授業 延べ20校 1,716人	篠原西小 107人、桂台小 51人、綱島小 111人、鳥が丘小 82人、日野南小 120人、川和東小 125人、川井小 49人、浜小 98人、上白根小 57人、下和泉小 60人、港北小 112人、瀬谷さくら小 50人、中和田小 89人、中川小 114人、洋光台第三小 40人、あざみ野第二小 73人、青葉台小 98人、森の台小 104人、平沼小 103人、あざみ野第二小 73人
「昔の暮らしと市の広がり ～七輪での炭の火おこし体験」 3年生向け訪問授業 延べ3校 192人	篠原西小 107人、奈良の丘小 40人、荏田東第一小 45人
開港記念日講話 5校 2,416人	永野小 548人、篠原西小 620人、帷子小 289人、東本郷小 661人、瀬谷さくら小 298人
「廻り地蔵について」 年中行事 4年生向け訪問授業 1校 144人	都田西小 144人
「自然災害にそなえるまちづくり」 4年生向け訪問授業 1校 35人	並木中央小 35人
学校資料室への訪問授業等 延べ3校 219人 ※市ヶ尾小は2日にわたって実施	荏田南小 94人（川和小郷土資料館にて実施） 市が尾小 62人、市ヶ尾小 63人（鉄小郷土資料室にて実施）
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業（再掲） 資料館授業 9校 590人 訪問授業 7校 368人 合計 958人	大道小での資料館授業 大道小 65人、文庫小 72人、朝比奈小 36人、六浦小 67人、高舟台小 56人、瀬ヶ崎小 43人 富岡小での資料館授業 富岡小 90人、小田小 105人 釜利谷小での資料館授業 釜利谷小 56人 訪問授業 金沢小 76人、能見台小 52人、釜利谷東小 48人、釜利谷南小 42人、並木第一小 50人、西金沢学園 70人、並木第四小 30人
港北区委託 小机城址の教育普及業務（再掲）	・城郷小学校 6年生への小机城址に関する訪問授業「まちの歴史出前授業」 動画視聴、クイズ、小机城についての講話。 企画展「北条幻庵-横浜・小机城と関東の戦国-」会期中に調べ学習の成果を博物館 2F 廊下に掲示。

	・小机小学校 6 年生「城熱プロジェクト」（小机城の魅力を PR する活動） 出前授業 総合授業「小机城の時代 Q&A」の実施。 企画展「北条幻庵-横浜・小机城と関東の戦国-」会期中に児童の制作した小机を PR する看板やチラシを博物館 2F 廊下に掲示。 ・小机小学校 6 年生有志との「小机小学校所蔵の考古遺物ワークショップ」の実施 横浜市教育委員会による考古出前授業とからめ、小机小学校が所蔵する考古資料を使った、遺物の観察ワークショップを実施。 企画展「北条幻庵-横浜・小机城と関東の戦国-」会期中に児童の観察・スケッチした考古遺物と、スケッチや観察メモなどを博物館体験学習室内に展示した。 ※横浜市教育委員会・港北区役所・横浜ユーラシア文化館と連携
中学校訪問授業	「武士の登場」 上の宮中 1 年 187 人
中学校「職業講話」 1 校	中学校 1 年生を対象に学芸員の仕事について講演した。 11/29 中川西中
動画コンテンツの作成・配信	3 年生「昔の暮らしと市の広がり」に関連した動画の配信 1 月に横浜市立小学 3 年生、横浜国立大学付属横浜小学校、鎌倉女子大学小学部 3 年生全員に紹介リーフレット配付 ※神奈川県小学校社会科研究会会長校・部長校、横浜市内私立小学校、にも 10 部ずつ配布。3 月末までの動画視聴回数 330,000 回以上 6 年生を対象としたインタビュー動画「横浜の戦中・戦後 わたしの体験」を制作・配信。1 月より動画配信開始、横浜市歴史博物館ホームページに動画のリンクを掲載した。3 年生と同様に紹介パンフレットを作成、6 年生に配付。3 月末までの動画視聴回数 11,000 回以上
横浜市教育委員会博物館活用研修への協力	7 月 25 日に市立学校教職員を対象にした博物館活用研修を実施し、収蔵資料を活用した研修を行った。
教職員対象の研修 延べ「吉田新田」研修会 69 人、 市・区小学校社会科研究会 95 人、 ハマアップ研修会 62 人、 その他の研修 29 人	7 月 30 日に「吉田新田の開発」研修会を実施した。午前・午後の部で計 69 名の参加があった。 横浜市教育委員会ハマアップからの要請により研修会を行った。 10 月 15 日 西部ハマアップ「吉田新田の開発」17 人 10 月 22 日 南部ハマアップ「吉田新田の開発」20 人 12 月 10 日 西部ハマアップ「昔のくらし」25 人 横浜市小学校社会科研究会からの要請により幹事研修会で横浜市ふるさと歴史財団の学校連携や横浜市歴史博物館の紹介を行った。 7 月 31 日 65 名 要請により、「金沢区のむかしの様子」の研修会を行った。

	7月22日 並木中央小25人、 12月10日 金沢区小学校社会科研究会30名 4年「吉田新田の開発」の研修を行った。 東本郷小3人、あざみ野第二小1人（学校訪問） 学校に訪問し、研修を行った。 「開港記念講話」東信濃小1人、東本郷小2人 「地域の遺跡」新井小7人 6年「火おこし体験」3人
神奈川県高等学校文化連盟	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、第31回神奈川県高等学校社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。 大会：11月9日 会場：聖光学院
東海大学と博物館の協働による文化財資料の教育活用事業	博物館が整理を進めている伊藤宏見旧蔵資料群のうち掛軸を対象とし資料整理の実習を実施した。当該資料群の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、文化財資料の活用事業に関与することで、地域博物館の文化創造や地域社会における文化財資料の活用に係る新たな「学びの場」の創出をめざす活動を実施した。 実施日は7/8(火)、9/12(金)〔資料整理実習〕
大学からの博物館見学の受入	学芸員課程等の大学専門科目の一環として博物館見学を受け入れた。 鶴見大学4/26(土)、日本大学(通信)5/9(金)、成城大学・淑徳大学5/10(土)、相模女子大学6/1(日)、日本大学芸術学部・神奈川大学6/21(土)、清泉女子大学7/19(土)、敬和学園大学7/20(日)、日本大学11/27(木)、駒澤大学11/30(日)、成城大学12/7(日)、昭和音楽大学12/13(土)、日本女子大学1/10(日)

学校団体利用の推移

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度
学 校 数 (校)	189	171	142

うち小・中学校利用数

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度
学校数(校)	161	141	131
児童・生徒数(人)	12,322	12,927	10,132

(10) 関連団体との協働事業

市民と共に歩む博物館を目指して、当館主催の講座受講者OBで組織した「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体、及び博物館への支援と協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」との協働事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	・原則として毎月2回の講座の開催 ・有志による「下読み会」の実施。 ・夏季歴史講演会の実施 8/29（金） 演題：「近世の新吉原遊廓の実像と現代」 講師：横山百合子氏（国立歴史民俗博物館名誉教授） 会場：講堂 参加料：会員無料、一般500円 参加者：134人
「横浜古代史料を読む会」との協働	・講師（平野卓治氏・日本大学教授）急逝により1年間休会とした。 ・博物館によるフォロー講座を実施した 講師：佐藤信氏（当館館長） 8/7、12/4
「横浜縄文土器づくりの会」との協働	・4/19 土偶づくり教室 ・2/1・14・15、3/14 実験講座土器づくり教室 ・土器づくりの会土器制作は年間3回 4/5・6、9/13・14、1/17・18 ・5/11、11/15、3/14 土器づくりの会制作土器の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	・20周年記念連続講座 2/21（土）、3/1（日） 演題「中世都市鎌倉の隆盛―幕府滅亡から南北朝時代へ」 講師：大澤泉氏（鎌倉歴史文化交流館学芸員） 会場：研修室 参加料：無料 参加者：44人／53人
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・歴史講演会 ①第20回 6/14（土） 演題：「蔦谷重三郎の仕事」 講師：鈴木俊幸氏（中央大学教授） 会場：講堂 参加料：600円 参加者：145人 ②第21回 12/17（水） 演題「万葉びとの秋」 講師：上野誠氏（國學院大学教授） 会場：講堂 参加料：600円 参加者：140人 ・コンサート「バロックコンサート in 歴博 2025」 11/23（日） 演奏：湘南バロック・アンサンブル 参加料：300円 参加者：120人 ・つづき人交流フェスタへの参加 3/12（木）～15（日） 都筑区役所 博物館の紹介展示、チラシ配布、キーホルダー・缶バッジ作りワークショップ、拓本体験など 二次元コードを利用した博物館アンケートの実施

(11) 実習・研修の受け入れ

大学の学芸員過程の博物館実習、高校のインターンシップ、中学校の職場体験を受け入れた。

項 目	事 業 内 容
博物館実習	博物館業務についての説明や資料整理をおこない、整理した資料を用いてミニ展示を企画・実施する内容とした。 8/19～23、9/6 10人受け入れ ※実習生によるミニ展示 8/23～9/6 ※実習生による展示解説 9/6 参加者 23人
高校インターンシップの受入	博物館に興味を持つ県立高校生徒のインターンシップを受け入れた。 ・神奈川県立高校 8/13～16 4人 ・日々輝学園 12/16・17 4人
中学校職場体験の受入	・横浜市立南中学校 6/27 3人 ・横浜雙葉中学校 7/5 1人 ・桐光学園高校 7/26 1人 ・あかね台中学校 11/2 2人 ・栗田谷中学校 1/21 4人



博物館実習 たとう紙の剥離作業と実習生による展示解説

(12) 広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	展覧会や各種催し物についての広報を行った。 ・各種チケットサービスを利用しての前売券販売によるPR ・当館ウェブサイト、SNSによる広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館 NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報 ・マスコミ各社への情報提供 ・リリース配信サービス会社との年間契約による継続的発信 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示

	・センター北駅1番出口広告掲示板（8ヶ所）への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ・雑誌等マスコミやSNSへの有料広告 ・ラジオ番組への番組コーナー提供 ・センター北まつりでのPR
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、また財団他施設での講演会等の受講生募集にあたって、インターネットを利用した催事申込システムを運用した。
リーフレット類作成	歴史博物館催し物案内（年2回） 横浜市新規転入者向け案内チラシ

(13) 出版

博物館ニュースは58・59号を刊行し、Web公開も行った。資料目録、紀要についてはWeb公開のみ実施した。

項 目	事 業 内 容
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュースNo.58号・59号 横浜市歴史博物館資料目録 第34集 PDFデータ公開 横浜市歴史博物館紀要 第30号 PDFデータ公開

(14) よこはま縁むすび講中（定款第4条第1項第1号②）

よこはま縁むすび講中は、かつて港北区だった横浜北部4区（港北・緑・青葉・都筑）の地域文化遺産をつなぐ取り組みとして、当館が中核館となり、（公財）大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野の各団体が連携し、事業の情報共有や協力など緩やかな連携を継続している。

項 目	事 業 内 容
事業への情報共有と協力	横浜市民ギャラリーあざみ野の企画展準備への助言 よこはま縁むすび講中の情報発信を行ってきた地域メディア、「森ノオト」の遺跡見学事業への協力

6 開館30周年事業

当館は令和7年（2025）1月31日に開館30周年を迎えたことから、同年を開館30周年イヤーと位置づけて、記念事業を実施しました。

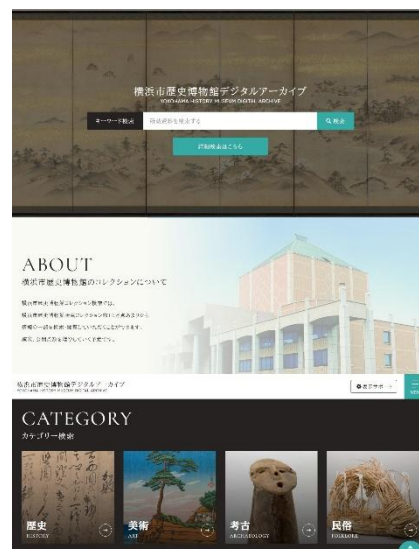
今年度は、開館30周年特別展「横浜の文化財—まもり伝える地域の記憶」Part1修復・Part2伝承を実施したほか（4 企画展事業（定款第4条第1項第1号②）を参照）。前年度に開会した2階廊下で

の「ポスター展」を9月7日まで開催しました。集客事業では「歴史未来フェス」を規模を拡大して実施しました。また、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」の運用を開始しました。収蔵資料の公開については、内部用の収蔵資料データベースのシステム構築と、デジタルアーカイブ公開用のフロントサイトの制作を進め、次年度より公開を開始します。

項 目	内 容
開館30周年特別展「横浜の文化財 —まもり伝える地域の記憶」 Part1修復・Part2伝承	会期：Part 1 4月26日（土）～6月1日（日） Part 2 伝承 6月14日（土）～7月27日（日） 開館以来30年間にわたって収集・保存、あるいは修復、調査・研究し、さまざまな事業で公開してきた横浜の文化財について、まもり伝えていくための技や仕組み、人材の育成、まもり伝えるグループや地域活動などに光をあてつつ紹介した。
ポスター展の実施	会期：1/31（金）～9/7（日） 開館30年を記念し、開館時から現在までの企画展のポスターを展示した。ほか、開館時の発行物等の資料をや、来館者の声を受け付ける表を設置した。
常設展示室 歴史劇場の新コンテンツの上映	令和6年度に制作した、横浜の通史と常設展示室案内を兼ねる動画「レックルとめぐるヨコハマ歴史旅行」の上映を開始した。
歴史未来フェス	地域で活動する団体と相互に連携して実施。開館30周年を記念して業務用駐車場、遺跡公園、都筑民家園、ボッシュホールなどに規模を拡大して実施した。来場者数7,213人。
収蔵資料のデータベース公開	収蔵資料データベースのシステム構築と、デジタルアーカイブ公開用のフロントサイトの制作を進め、令和8年度より公開を開始する。なおフロントサイト作成にあたっては、文化庁の助成金を獲得した。
30周年記念誌の刊行	歴史博物館が開館以降活動してきた30年の軌跡を、今年度の30周年事業も含めて紹介する。館の活動に尽力いただいた関連団体やボランティア、OB職員などからのコメントも掲載し、令和7年度末にPDFデータが完成、博物館Webサイトにて公開する。
レキハクパートナーズ	これからの活動の充実化と財源の多様化、博物館のサポーターを増やす等の目的で、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」の運用を開始した。 実績：57件 343,000円 次年度以降も継続することとし、令和8年3月中旬よりR8年度の募集を開始した。



特別展「横浜の文化財」チラシ



デジタルアーカイブ フロントサイト

7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 2,273 件
映像資料の公開	常設展示室内で利用者のモバイル端末を用いたクイズや、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」をについて、利用の促進を図った。常設展示室内の展示解説映像を、公式解説アプリで利用者各自の端末から視聴できるようにした。 公式 YouTube チャンネルにおいて小学校3年生向けのむかしの道具をテーマとした動画35タイトルおよび、今年度作成した戦後80年関連動画7タイトルを公開した。再生回数345,970回（3月まで）
情報システムの運用・保守	サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 ホームページのリニューアルに向けての作業を進めた。 アクセス（セッション）数 207,496 件（令和7年4月～令和8年2月）

X（旧ツイッター）等SNSを利用した博物館の情報発信	X（旧ツイッター）を利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信した。 ツイート数 219 フォロワー数 10,836（5月16日現在）
デジタルアーカイブの公開	収蔵資料データベースのシステム構築と、デジタルアーカイブ公開用のフロントサイトの制作を進め、令和8年度より公開を開始する。

8 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。歴史博物館は開館30周年を迎えて施設の劣化が進む中、日常の点検監視と保全を行い、所管局への連絡と情報共有を徹底しました。本年度は加圧給水ポンプ交換工事を行ったほか、9/8から11/21まで休館してITV（監視カメラ）更新工事とESCO事業による施設のLED化工事を実施しました。開園から30年が経過する野外施設については、所管局によるメインの門扉修繕に対応したほか、北部公園事務所との情報共有を進め、倒木や落枝について対応しました。

（1）来館者対応業務

受託業者との連絡・情報共有を徹底し、一般利用者や学校団体等の来館者が安心して気持ちよく利用できる対応を進めた。

事業名／開催日	事業内容等
受付案内サービス	利用者の利便性向上を図り、引き続き観覧料金及びミュージアムショップの決済手段として現金のほか、クレジットカードや交通系ICカードに対応している。

（2）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 <主な修繕等> ・加圧給水ポンプ交換工事（建築局） ・ITV（監視カメラ）設備更新工事（建築局） ・ESCO事業による一般照明のLED化工事（建築局）

（3）講堂・研修室利用の推移

項 目		令和7年度	令和6年度	令和5年度
講 堂	利 用 者 数（人）	5,523	7,477	4,844
	利 用 件 数（件）	59	86	61
	うち有料貸出件数（件）	20	42	20
研修室	利 用 者 数（人）	2,771	3,229	3,092

	利 用 件 数 (件)	65	94	123
	うち有料貸出件数 (件)	55	77	76

(4) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		38,633	39,997	37,973
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	30,994	34,127	32,054
	工 房 (人)	7,639	5,870	5,919

9 収益事業（定款第4条第1項第2号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。

ミュージアムショップでは、企画展ごとに関連書籍や特徴あるグッズを揃えるとともに、工事休館を機に配置と商品のディスプレイを大きく変更しました。サインを大きくして人目を引くようにしたほか、売れ筋の御城印を一番奥に置くことで店内を回遊する動線を作り、展示関連ではない書籍やグッズにも目を向けてもらうようにしました。

駐車場は遺跡公園利用者の利便性向上を図るため、博物館休館日も営業しました。

(1) ミュージアムショップ

開館 30 周年記念特別展「横浜の文化財」では Part1、Part2 それぞれで図録を制作・販売した。企画展「君も今日から考古学者！ー横浜発掘物語 2025 夏休み編ー」では、展示された原出口遺跡出土の筒形土偶をモチーフにしたニューキャラクター「くろでぐちくん」のチャームがついたボールペンを制作、販売した。

企画展「北条幻庵ー横浜・小机城と関東の戦国ー」では、開催に合わせて北条幻庵バージョンの小机城の御城印を制作し、オンラインショップやお城 EXP0 でも販売した。また大人も思わず手が出るようなオリジナリティのある商品を仕入れ、ショップを充実させた。



企画展「君も今日から考古学者！」
くろでぐちくんチャーム付きボールペン



企画展「北条幻庵ー横浜・小机城と関東の戦国」
店頭の様子と御城印「小机城 北条幻庵展開催記念」



(2) 駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

駐車場管理会社に委託し、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとしたほか、大塚・歳勝土遺跡公園利用者の利便性向上のため、博物館休館日の営業を引き続き行った。

(3) 自動販売機

施設利用者の利便を図り、交通系 IC カード等のキャッシュレス決済に対応した飲料の自動販売機の設置を継続した。

<各事業の推移>

項 目	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
ミュージアムショップ売上 (千円)	11,408	12,203	9,011
自動販売機手数料収入 (千円)	120	117	110

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	寄贈・寄託・移管により 4,431 点の資料を収集し、資料の整理・保管を行った。収蔵資料データベースを構築し、資料のデータ入力も進めた。また利用については、他機関への資料貸出 7 件、特別利用 18 件に対応した。資料の燻蒸や IPM など、適切に資料の保全を進めた。	A
2 調査研究事業	基礎資料研究 14 本、連携調査研究 1 本のほか、令和 8 年度実施予定企画展の調査や資料の基礎整理を予定通り進めた。成果は企画展やシンポジウム、所蔵資料目録などに反映した。	B
3 常設展事業	昨年度制作した新映像コンテンツを上映し、小学校 6 年生の団体見学に対応した。常設展の機器類の不調に対しては、展示解説ボランティアによるワンポイント解説などでフォローしたが、展示機器類の修繕・更新が今後の課題である。	B
4 企画展事業	開館 30 年の総括ともいえる特別展や、親子で楽しめる考古学入門展、小机城発掘の成果を公開し横浜の中世史研究においても画期的な成果となる北条幻庵展、文化財と併せてそのみかたも	A

	紹介した文化財展、こもんじょに対する敷居を低くする試みとなった「みすてりい・おぶ・こもんじょ展」を開催。考古、歴史、美術分野の多彩なテーマを取り上げ、多様な機関との連携にも取り組んだ。展示の敷居を低くし、一方で内容を深く掘り下げるなど関連事業等において工夫を凝らし、市民の多様な生涯学習のニーズに応えた。	
5 企画普及事業	「歴史未来フェス」を始めとし、さまざまな団体や大学、他施設、市民、ボランティア等と連携・協力し、講座・講演会や子ども向けのワークショップ、また地域の賑わいの創出につながる多彩なイベントを展開した。「歴史未来フェス」は前年度を1,000人ほど上回る、7,000人以上の来場者数となった。学校連携事業では事前訪問授業を拡充したほか、小学校6年生向けの戦後80年の映像を制作し、公式youtubeチャンネルに公開した。	A
6 開館30周年記念事業	今年度は、開館30周年特別展「横浜の文化財—まもり伝える地域の記憶」Part1 修復・Part2 伝承を実施したほか、前年度に開会した「ポスター展」を9月7日まで開催した。集客事業では「歴史未来フェス」を規模を拡大して実施しました。また、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」の運用を開始し、57件343,000円の寄付金を得た。収蔵資料の公開については、収蔵資料データベースのシステム構築と、デジタルアーカイブ公開用のフロントサイトの制作を進めた。フロントサイト構築では外部資金の獲得に努め、文化庁からの助成金を得た。	A
7 情報事業	X（旧ツイッター）を利用して博物館の展示や催しの情報ほか、博物館の活動をリアルタイムで紹介する情報発信を積極的に行った。フォロワーは1万人を超えた。HPについては随時情報の更新を行って運用し、またリニューアルの作業をすすめた。文化庁の助成金を得て収蔵資料のデジタルアーカイブ公開用フロントサイトの制作を進め、令和8年度より公開を開始する予定。	S

8 施設維持事業	竣工から 32 年を超えた博物館や、開園から 30 年となる野外施設など、経年劣化のみられる施設・設備に対し日常の監視保全を行い、不具合については所管局と協議と情報共有を行った。休館を伴う大規模工事には適切に対応し、安全・安心な運営を維持できるよう努めた。	A
9 収益事業	ミュージアムショップ事業は、各企画展に応じた新商品の開発や魅力ある商品の取り揃えに注力した。駐車場はキャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとし、休館日にも営業して遺跡公園利用者への利便性を高めた。	B

3 開港資料館事業

令和 7 年度は、5 か年の文化観光拠点計画の最終年にあたり、補助金事業としては、デジタルアーカイブ事業と旧館（旧英国総領事館）の整備事業を中心に進めました。

デジタルアーカイブ事業では、絵地図や古写真アルバムを中心に館蔵資料のデジタル化を継続し、最終的に約 21 万点（うち画像史料約 1 万 1 千点）の資料情報の公開を達成しました。旧館（旧英国総領事館）の整備事業では、昨年度の外観復原工事に続いて内装工事に着手し、これまで執務スペースだった 2 階の各室を領事館時代の室内空間として復原し、近隣の YMC（山下町・元町・中華街）エリアの歴史を紹介する展示を新設しました。

中庭では、昨年度クラウドファンディングで得た寄附金をもとに、市地域史跡「たまくすの木」周りのバリアフリーデッキの整備を完了しました。また恒常的な維持管理のために、寄附金を納められた方に頒布する「御樹印」を制作しました。この整備で「たまくすの木」をより近くに感じていただけるようになり、また敷地南側（県庁東庁舎側）でも植栽を整備することで、展示の観覧者だけでなく、より多くの人に開港資料館の場所に親しんでいただける環境が整いました。

「たまくすの木」周りのバリアフリーデッキの完成を受けて、収益事業では、「たまくすの木」をモチーフにしたオリジナル商品の開発・販売をおこない、昨年度大きく伸ばした売り上げを今年度も維持することができました。また横浜商科大学と広報連携に関する覚書を締結し、学生が製作した絵本「たまくすの木」の朗読会を、完成したバリアフリーデッキを会場として実施しました。

展示事業では、調査研究事業の成果にもとづき、豊富な館蔵資料からテーマを設定して紹介する資料特別公開を実施しました。今年度は、開港都市としての長崎に着目した「長崎－開港都市の前提」展、昨年度寄贈いただいた商館時計コレクションを紹介する「横浜の外国商社と舶来時計」展を開催し、それぞれ 1 万人を超える観覧者を得ました。

資料収集保管事業では、オランダで発見された下岡蓮杖撮影のガラス板写真や、幕末のベアト撮影写真など、古写真を中心に貴重な資料の寄贈・寄託がありました。

普及事業では、設立から20周年を迎える横浜郷土史団体連絡協議会の活動支援に取り組んだほか、昨年度以上に、地域のさまざまな企業・団体との連携事業や連携広報に取り組み、地域の大規模イベントにも積極的に参加して、多くの成果を挙げました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 12 件 7,286 点 寄託 4 件 817 点	主な収集資料：ヨシユア・ブライン 3 世と祖父松木屋久七のガラス板写真、横浜カントリー・アンド・アスレティック・クラブ関係資料、門倉保茂家文書ほか
資料の購入	15 件 28 点	主な収集資料：ベアト撮影 横浜英駐屯軍の肖像写真
資料の分類・整理		未整理の文書群の分類・整理をおこなった。 主な資料：中山恒三郎家資料
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 1, 159 人 コピー枚数 22, 087 枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	絵地図・古写真など 1, 518 点	文化観光拠点計画事業の一環として、デジタルアーカイブの公開に向けて、収蔵資料から絵地図・古写真などの画像資料を選定してデジタル化をおこなった。
デジタルアーカイブの公開	公開点数 210, 837 点	文化観光拠点計画事業の一環として制作、一般公開した「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」を改修し、古文書・写真・絵葉書・浮世絵・商標・図書・雑誌・新聞などの資料種別に、199,733 点の資料情報および 11,104 点の資料画像を公開した（令和 8 年 3 月 31 日公開時点）。
複製資料の提供	提供件数 365 件 1, 282 点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
展覧会への資料貸出	貸出件数 0 件 0 点	他の博物館の展覧会への原資料貸出。

（2）資料収集内訳（R7.4～R8.3）

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)

政府資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料（点）	— (—)	— (—)	— (1)	— (—)	— (1)	15,237 (15,237)
文書・記録（点）	4 (—)	— (—)	7,266 (400)	-1,383 (—)	5,887 (400)	92,693 (86,806)
新聞資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	9,955 (9,955)
絵画・写真等 （点）	1 (31)	— (—)	20 (—)	— (—)	21 (31)	33,993 (33,972)
コレクション （点）	— (—)	— (—)	— (245)	— (—)	— (245)	51,653 (51,653)
文献資料（点）	23 (33)	— (—)	— (—)	— (—)	23 (33)	58,582 (58,559)
合 計	28 (64)	— (—)	7,286 (646)	-1,383 (—)	5,931 (710)	280,101 (274,170)

※（ ）内は、前年度点数。寄託資料がマイナス数値となっているのは、寄託から寄贈に変更したため。

（３）複製資料の提供実績

項 目	令和７年度	令和６年度	令和５年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	３６２件	３８３件	４１８件

（４）閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和７年度	令和６年度	令和５年度
閲覧室利用者数（人）	１，１５９	１，０８２	１，１８８
複写申込件数（件）	５９８	５３０	６３１
複写枚数（枚）	２２，０８７	２３，７１１	２４，１２５
レファレンス件数（件）	１，４４６	１，５３６	８９６

（５）資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。５回／年
マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理	マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理を、外部倉庫会社に委託した。

（６）資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫（310 m ² ）	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。

大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。
-----------------	------------------------

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
近代横浜の建築・都市に関する調査研究 （2／2年次）	・横浜市認定歴史的建造物「旧根岸競馬場一等馬見所」の設計者 J. H. モーガンの事務所員を務め、モーガンの死後事務所を継承した建築家大須賀矢雄の旧蔵資料について整理を進めた。 ・当館所蔵モーガン関係資料より「根岸競馬場アルバム」掲載写真 30 点のデジタル画像を、デジタルアーカイブにて公開した。
近代横浜の戦争史研究 （4／4年次）	特別展「戦後 80 年 戦争の記憶—戦中・戦後を生きた横浜の人びと—」において、前年度までの調査研究成果を発表し、図録を発行した。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究（2／2年次）	・デジタルアーカイブにて館蔵資料の目録（約 21 万 1000 点）および画像（約 11,100 点）を公開した。 ・古文書・図書・雑誌・新聞などの目録データを作成、公開した。 ・館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。 ・古写真の目録データの作成を進めた。
幕末期対外関係史の研究（2／2年次）	・当館が所蔵する近世後期から幕末にかけての長崎に関する資料を調査分析し、その成果を特別公開「長崎—開港都市横浜の前提」および同展図録で公開した。 ・駐日米公使ロバート・ブラインの妻宛ての手紙（1862年分）の内容を調査分析し、幕末期の横浜・江戸の都市社会の様相を明らかにした。その成果は当館紀要40号に「駐日アメリカ公使の書簡にみる一八六二年の江戸・横浜」として報告した。
幕末～明治初期古写真の研究 （2／2年次）	・当館寄託「Japan Society旧蔵ベアトアルバム」について、その内容を調査するとともに修復の方法を検討した。 ・下岡蓮杖撮影の新出ガラス板写真の寄贈をうけ、その調査研究をおこなった。 ・フェリーチェ・ベアト撮影の館蔵古写真について調査研究を進めた。以上の調査研究の成果は2027年度特別公開にて報告する。
横浜近代欧米関係史 （3／3年次）	・根岸競馬場関係資料、特にタウネンド旧蔵写真アルバムやジェイ・H・モーガン設計建築図面の調査研究を実施し、その成果は「根岸競馬場と建築家 J. H. モーガン」で示した。

	・商館時計とそれを取り扱った外国商社に関する資料の調査研究を実施し、その成果は「小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と舶来時計」および関連講座で示した。 ・ブルーム・コレクションの資料状態の現状を維持するべく、薄葉紙で保護し、保存箱を導入した。 ・YC&AC 関係資料の調査研究を進めた。
--	---

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	前年度までの研究成果を基に、特別展「戦後80年 戦争の記憶—戦中・戦後を生きた横浜の人びと—」、「戦争の記憶—横浜と軍隊の120年—」を都発会場で開催し、図録を発行した。 ＊都市発展記念館・埋蔵文化財センターとの連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	各時代（幕末期・明治期・昭和戦前期）に横浜中心部に存在した施設のリストアップ、関連画像の選定、施設の解説・修正をおこない、歴史復原地図のWeb公開の準備を整えた。 ＊神奈川県立歴史博物館との連携事業

(3) 外部研究者との共同研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜幕末維新史研究会	幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究をおこない、講座・展覧会などで成果を報告する。（4／4年次）	・昨年度刊行した論集『幕末の開港都市・横浜』の内容をもとに、シンポジウム「横浜居留地・上海租界研究最前線」（主催：神奈川大学非文字研究センター租界・居留地班、横浜外国人居留地研究会）に参加した（12/13）。 ・幕末維新期の横浜に関わる以下の研究報告会を実施した。 8/30 吉野亜湖氏（静岡大学非常勤講師） 「蘭字から読める近代の日本茶について」 12/18 篠原杏奈氏（千代田区立日比谷図書文化館文化財事務室学芸員）「幕末の情報伝達の様相—桜田門外の変に関する諸史料を通じて」 2/28 鈴木祥氏（中央大学兼任講師） 「幕末外交史の研究、史料、今後の課題」 ・幕末期横浜の社会情勢・対外関係に関する館蔵史料の調査・撮影を実施した。

中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (3/3年次)	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2026(令和8)年3月26日に研究会を実施し、資料目録の共有、今後の事業展開等について検討を行った。
----------	---	--

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

次年度から旧館の新展示室がオープンすることを受けて、これまでの企画展示室を常設展示室3としてリニューアルしました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

(1) 常設展示室観覧者の推移

	有料入館者(人)					無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	市内65	閲覧室	計					
7年度	24,549	5,522	1,644	624	323,39	8,658	40,240	101.3%	307	131
6年度	24,016	4,564	1,898	598	31,076	8,658	39,734	115.0%	307	129
5年度	19,609	3,439	1,869	759	25,676	8,866	34,542	105.5%	308	112

*上記の数字は、資料特別公開を開催していない期間の常設展観覧者数と、資料特別公開開催期間中の入館者数を加算したもの(建物の構造上、資料特別公開開催中は常設展のみの見学を設定していないため)。

(2) 開港(開館)記念日の臨時開館

開港(開館)記念日の6月2日(月)を無料開館日として、臨時開館した。来館者713人。

※今年度は旧館整備中のため記念室は公開せず。

(3) 展示室3の整備

これまでの企画展示室を、常設展示室1、2に続く展示室3としてリニューアルした。展示室のテーマを「横浜の記憶ー多彩な収蔵資料ー」として、「古文書」「海外資料」「絵地図」「古写真・絵葉書」「瓦版・浮世絵」「商標」の資料種別による展示構成にもとづき、展示資料の選定と常設パネルの製作を行った。

(4) 旧館の活用

市指定文化財である旧館(旧英国総領事館)の記念ホール等を活用して、パネル展示を開催した。

旧館来場者数:49,673人(年間)

項 目	内容・成果
記念室の展示リニューアル	文化観光拠点計画事業での旧館の展示室新設と連動させて、1階記念室(旧総領事室)の展示リニューアルを進めた。

写真パネル展の開催 R7. 5. 28 (水) ～6. 2 (月)	財団と協定を締結しているプロバスケットボールクラブ「横浜エクスセレンス」の B2 昇格・B3 完全優勝を記念して、記念ホールにてミニ写真パネル展を開催した。来場者 740 名。
横浜市国際局との連携パネル展示の開催 R7. 12. 2 (火) ～12. 27 (土)	横浜市国際局と連携して、4 姉妹都市提携 60 周年記念のパネル展示を、旧館（旧英国総領事館）の一室を会場として開催した。
商業撮影の対応	旧館（旧イギリス総領事館）を利用しての商業撮影に対応した。

(4) 中庭の活用

昨年度実施したクラウドファンディングで得た寄附金をもとに、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）の協力により、横浜市地域史跡である「たまぐすの木」周りにバリアフリーデッキを整備した。あわせて寄附者名を記載した銘板を設置し、寄附者や協力企業を招待して完成記念のセレモニーを実施した。

また今年度は横浜商科大学と開港資料館の広報連携に関する覚書を締結し、同大学学生が製作した絵本「たまぐすの木」の朗読会を、完成したバリアフリーデッキを会場として実施した（後掲）。

中庭来場者数：105,563 人（年間）



完成したバリアフリーデッキ



デッキ完成記念のセレモニー

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、特別公開等を通して発信しました。今年度は、横浜市認定歴史的建造物「旧根岸競馬場一等馬見所」認定記念の館蔵コレクション展示「根岸競馬場と建築家 J. H. モーガン」を開催し、あわせて講演会を実施しました。また特別公開「長崎ー開港都市横浜の前提」、「小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と舶来時計」を開催し、展示関連講座やまち歩きを実施しました。また地域企業との事業連携も継続し、コラボ企画の実施や地域の大規模イベントへの参加も積極的におこないました。

(1) 資料特別公開の実施

事業名称	料金	参加者数	事業内容
------	----	------	------

～横浜市認定歴史的建造物「旧根岸競馬場一等馬見所」認定記念～館蔵コレクション展示「根岸競馬場と建築家 J.H. モーガン」 R7. 4. 12(土)～5. 11(日) 開催日数26日	一般 400円 小・中 200円	3, 827人	「旧根岸競馬場一等馬見所」の歴史的建造物への認定を記念して、当館および横浜都市発展記念館の所蔵資料から紹介、現存する一等馬見所(1929 年竣工)の建設に関わった建築家 J.H. モーガンの関係資料の根岸競馬場建築図面や、明治以来の競馬文化の普及活動に従事した居留外国人の資料を展示した。 【関連事業】 ・メディア向け内覧会 4 月 11 日(金) ・展示関連講演 講演会「建築家モーガンと横浜」 5 月 3 日(土祝) 45 名 講師 青木祐介(横浜開港資料館・横浜都市発展記念館副館長) 講演会動画配信 5 月 11 日(日)～12 月 31 日(水) ・展示担当による展示解説(全 4 回) 4 月 19 日(土)24 名、4 月 29 日(火祝)26 名、 5 月 4 日(日祝)24 名、5 月 11 日(日)27 名 ・絵葉書付入館券(限定 100 セット完売)の販売
特別公開「長崎―開港都市横浜の前提」 R7. 5. 24(土)～7. 27(日) 開催日数58日	一般 500円 小・中 250円	10, 403人	長崎は元亀 2 年(1571)に開港して以降、貿易都市として発展をみた。横浜も安政 6 年(1859)の開港以来外国貿易によって発展した都市だが、長崎の海外交流の歴史は横浜より 300 年も長い。本展では江戸時代の長崎を幕末に開港した横浜の先例(前提)としてとらえつつ、当館所蔵資料約 70 点から紹介した。 【関連事業】 ・メディア向け内覧会 7/12(金) ・展示担当による展示解説(全 5 回) 7 月 20 日(土) 33 名、27 日(土) 37 名、 8 月 10 日(土) 27 名、17 日(土) 16 名、 8 月 24 日(土) 18 名
特別公開「小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と舶来時計」 R7. 9. 13(土)～12. 21(日) 開催日数86日	一般 500円 小・中 250円	10, 871人	小川雄一コレクションの外国商社 16 社 166 点の商館時計をもとに、明治期に横浜が商館時計輸入の中心地であったこと、横浜外国人居留地における外国商社による商業活動の実態を伝えた。 【関連事業】 ・メディア向け内覧会 9 月 12 日(金) ・展示関連連続講座とまち歩き 第 1 回「横浜外国人居留地の外国商社」

			9月27日（土）37名 講師 展示担当（白井拓朗） 会場 横浜市開港記念会館 6号室 第2回「商館時計の魅力と流通」 10月11日（土）27名 講師 展示担当（白井拓朗） 会場 横浜市開港記念会館 6号室 ※連続講座講動画配信 11月25日（火）～2026年2月28日（土） まち歩き「横浜外国人居留地を歩く」 10月25日（土）20名 講師 展示担当（白井拓朗） ・展示担当による展示解説（全10回） 9月15日（月祝）20名、9月28日（日）18名、10月5日（日）15名、10月13日（月祝）25名、10月26日（日）12名、11月3日（月祝）32名、11月24日（月振）21名、12月6日（土）25名、12月20日（土）25名、12月21日（日）21名 ・横浜シティガイド協会との連携ガイドツアー 「明治の横浜★スイス商社を巡る」11月13日（木） 当館講堂でのミニ講座ののち、横浜シティガイド協会によるガイドツアーを実施（参加者24名） ・横浜郷土史団体連絡協議会の研修会 第67回「横浜開港資料館特別公開「小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と商館時計」展示見所解説&見学」10月25日（土）14名 講師 展示担当（白井拓朗） 会場 横浜開港資料館講堂・企画展示室 【展覧会図録】 展覧会図録『小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と舶来時計』（700部）A4判、40頁。横浜開港資料館編。商館時計を扱った外国商社16社の解説とコレクションの商館時計166個の画像を収載した。 会期中売上：220冊
--	--	--	--



講演会「建築家モーガンと横浜」



「横浜の外国商社と舶来時計」展示解説

(5) 地域・市民・学術団体との協働事業の実施

項 目	事 業 内 容 等
横浜エクセレンスとの連携事業【再掲】 R7.5.28（水）～6.2（月）	財団と協定を締結しているプロバスケットボールクラブ「横浜エクセレンス」の B2 昇格・B3 完全優勝を記念して、旧館記念ホールにてミニ写真パネル展を開催した。
DeNA ベイスターズへの企画協力	横浜 DeNA ベイスターズのイベント「YOKOHAMA STAR NIGHT 2025」で開催されたスタンプラリーに協力して、会場に設置されたパネルを監修した。
横浜マリンタワーへの企画協力	横浜マリンタワーとの連携事業で、タワー2 階の回廊部分での常設ギャラリーに、マリンタワーの歴史をたどる写真パネルを監修した。
横浜開港祭への協力 R7.5.31（土）～6.2（月）	臨港パークで開催された横浜開港祭に協力し、当館紹介パネルを現地に展示した。
アートイベントの展示監修	山下ふ頭で開催されたアートイベント「THE MOVEUM YOKOHAMA」に際して、館蔵資料を提供したほか、横浜の歴史年表コーナーを監修した。
都心部再開発事業での展示監修	関内駅前の「旧市庁舎街区活用事業」において、横浜市と開発事業者が進める旧市庁舎街区の歴史に関する情報発信の取り組みに協力し、ホテルのロビー等、現地に設置される展示への資料提供と展示監修をおこなった。
大さん橋国際客船ターミナルでの浮世絵展示	大さん橋国際客船ターミナルのギャラリースペースに、館蔵浮世絵のジクレープリント（高精細レプリカ）を展示して、外国人観光客に向けた PR をおこなった。

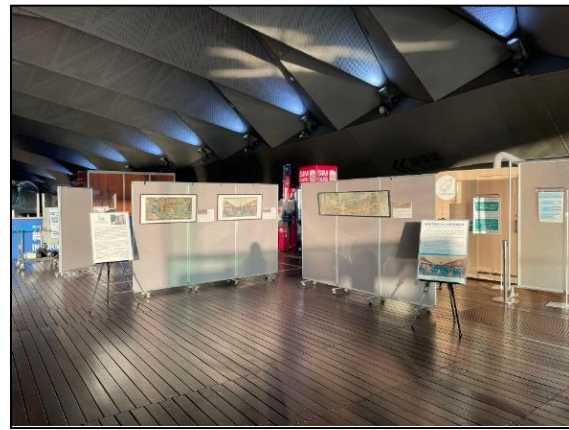
横浜郷土史団体連絡協議会との協働	横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会（令和7年度末現在、加盟34団体）との事業協働。事務局を歴史博物館と共同で担当。 ①総会・大会 R7.4.26(土) 於横浜市歴史博物館 講堂 会員団体紹介 記念講演会：「戦後80年 資料が語る横浜の戦中・戦後」 (57名) 講師：西村健（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 主任調査研究員） ②役員会（12回）実施 ③研修会（第66回～69回）実施 R7.7.29 第66回「企画展示室 横浜都市発展記念館特別展「戦後80年 戦争の記憶 戦中・戦後を生きた横浜の人びと」展示見所解説&見学」（31名） 講師：西村 健 氏（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 主任調査研究員） 会場：横浜開港資料館 講堂・横浜都市発展記念館 R7.9.19 第67回「横浜開港資料館特別公開「小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と商館時計」展示見所解説&見学」（14名） 講師：白井 拓朗 氏（横浜開港資料館 調査研究員） R7.12.10 第68回「横浜市歴史博物館企画展「北条幻庵—横浜小机城と関東の戦国—」展示見所解説&展示見学」（38名） 講師：阿諏訪 青美 氏（横浜市歴史博物館 主任学芸員） 会場：横浜市歴史博物館 研修室・企画展示室 R8.3.11 第69回「令和7年度 横浜市指定・登録文化財展」&「企画展 みすてりい・おぶ・こもんじょ—古文書の世界へようこそ—」展示見所解説・展示見学」（27名） 講師：花澤 明優美 氏（横浜市歴史博物館 学芸員） 仲泉 剛 氏（横浜市歴史博物館 学芸員） 会場：横浜市歴史博物館 研修会・企画展示室 ⑤会報19号刊行。 ⑥設立20周年記念誌の編集。 ⑦横浜郷土史団体連絡協議会 News73号～76号発行。
------------------	---

横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 R7. 10. 19（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：501人 ※横浜都市発展記念館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
シンポジウムへの講師派遣 R7. 12. 13（土）	横浜外国人居留地研究会と神奈川大学が主催するシンポジウム「横浜居留地・上海租界研究の最前線」に開港資料館の専門職2名が登壇して、居留地研究の現状と課題について議論をおこなった。
ハマフェスY166への参加 R7. 5. 24（土）25（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として都市発展記念館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催したほか、両日とも無料開館した。
「かながわMIRAIストリート」への参加 R7. 5. 24（土）25（日）	ハマフェス Y166 と同日に開催される「かながわ MIRAI ストリート」（TVK 主催）に参加し、日本大通りにブースを出展した。
「ベトナムフェスタ in神奈川2025」への参加 R7. 9. 13（土）～9. 14（日）	日本大通り・象の鼻パークで開催される「ベトナムフェスタ in 神奈川 2025」にあわせて、8月からのベトナム月間に参加し、ポーターズロッジでベトナムビールの販売をおこなったほか、フェスタ当日には敷地内に店出した。
「ピンクリボンライトアップ2025 in かながわ」への参加 R7. 10. 1（水）～10. 31（金）	神奈川県・ピンクリボンかながわ等が主催する「ピンクリボンライトアップ 2025 in かながわ」に参加し、期間中、旧館（旧イギリス総領事館）のライトアップをおこなった。
「ワールドフェスタ・ヨコハマ2025」への参加 R7. 10. 11（土）～10. 12（日）	「ワールドフェスタ・ヨコハマ 2025」に都市発展記念館・ユーラシア文化館と3館で参加し、山下公園通りの歩行者天国のブースで展示 PR とドリンク販売をおこなった。
「日本大通りSDGsウィンターイルミネーション2025」への参加 R7. 11. 21（金）～12. 25（水）	日本大通りエリアマネジメント協議会が実施する「日本大通り SDGs ウィンターイルミネーション 2024」に都市発展記念館・ユーラシア文化館と3館で参加し、加盟会員として協賛金を支出した。

横浜春節祭2026への参加 R8. 1. 20（火）～3. 3（火）	横浜中華街発展会等が主催する「横浜春節祭 2026」にて、入館割引などの特典が得られるデジタルスタンプラリーに、横浜都市発展記念館・ユーラシア文化館と3館で参加した。
研修・視察等の受け入れ	・郵政博物館が企画する団体見学の受け入れ（4/25） ・神奈川大学職員研修の受け入れ（8/27）
講座・講演会への講師派遣	・せやシニアカルチャー講座への講師派遣
横浜商工会議所等の機関誌への原稿執筆	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」等への寄稿。



マリンタワーでのパネル展示



大さん橋国際客船ターミナルでの浮世絵展示

（6）行政との連携事業

項 目	事 業 内 容 等
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	横浜市みどり環境局が進める「(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。 令和7年9月30日（火）
	横浜市民局が設置した「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」の委員として、当館副館長を派遣した。 令和7年6月27日（金）、10月3日（金）
横浜市国際局との連携事業の実施 【再掲】	横浜市国際局と連携して、4姉妹都市提携60周年記念のパネル展示を旧館（旧英国総領事館）の一室を会場として開催したほか、姉妹都市の関連スポットをめぐるまち歩き（12/14開催）を実施した。
「広報よこはま」への執筆協力	・中区版の連載記事「なか区・歴史の散歩道」を都市発展記念館と共同で執筆。 ・保土ケ谷区版の連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My

	Choice!」等への出演。
--	----------------

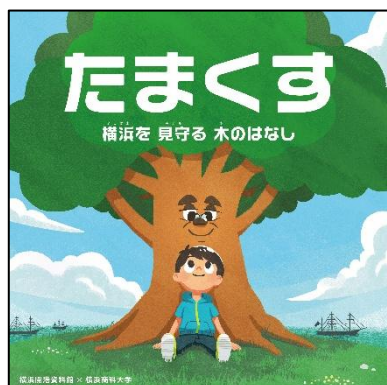
(7) 学校連携

項 目	事 業 内 容
大学実習の受け入れ	日本女子大学主宰の施設見学 (9/12)、東海大学が主宰する地域史演習を受け入れた (2/17)。
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 R7.11.10 (日)	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第31回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。 会場：聖光学院高等学校小講堂

(8) 広報

項 目	事 業 内 容
絵本「たまくすの木」頒布	学生による文化観光の情報発信に関するプロジェクトを実施するため、横浜商科大学との間で令和7年に覚書を締結。プロジェクトの成果として、横浜開港のシンボルツリー「たまくすの木」を紹介する絵本が完成、頒布を開始した。 【サイズ】210×210 A4 変形 【ページ】16 ページ 【仕 様】フルカラー 非売品 【部 数】3,000 部
FM ヨコハマ「Lovely Day♡」とのコラボスペシャルイベント開催 R8.3.28 (土)	新展示室オープンを記念して、スペシャルゲストに FM ヨコハマ Lovely Day♡DJ 近藤さや香さん、街角リポーター藤田優一さんをお呼びして、中庭のウッドデッキにて初のイベントを開催。 横浜商科大学と締結した覚書に基づいて、商学部商学科 若林宏保教授が担当するゼミ生が制作に携わった絵本「たまくす」の朗読会のコーナーも開催。多くの方に参加いただいた。
「れきけんカード」製作協力	区制 100 年に向けた中区の記念事業として、中区内の歴史的建造物の普及や回遊機会の創出をめざす歴史的建造物カード「れきけんカード」の制作に協力した。開港資料館旧館（旧英国総領事館）のカードを、PORTER' S LODGE にて配布。
絵葉書付入館券の販売	館蔵コレクション展示「根岸競馬場と建築家 J. H. モーガン」の開催に際して、絵葉書付入館券を限定 100 セットで販売し、完売した。
みなとみらい線 1 日乗車券の発行	横浜高速鉄道との広報連携事業として実施。「神名川横浜新開港図（作：五雲亭貞秀）」を券面に使用したオリジナルデザインの一日乗車券を限定販売した。

kino cinema との広報連携 R7.5.22（木）～9.30（火）	映画館「kino cinema 横浜みなとみらい」との連携企画を実施し、同館開催の映画ポスターを記念ホールに設置し、みなとみらい地区からの誘客を図った。
JR 東日本との広報連携 R7.8.2（土）～8.31（日）	ももいろクローバーZ と JR 東日本のコラボ企画「ももクロといっしょに横浜市内をお散歩？」の音声コンテンツで取り上げられた「横浜開港資料館前の大砲」をもとに、新規来館者の誘致を図った。
デジタルスタンプラリーへの参加	近隣のイベントで開催される各種デジタルスタンプラリーに参加し、「PORTER'S LODGE」店内をラリーポイントとして活用した。 ・ザよこはまパレード デジタルスタンプラリー ・ハマフェス Y165 デジタルスタンプラリー ・よこはま建築ひろば 2025 デジタルスタンプラリー ・横浜春節祭 2026 デジタルクーポン
TV 番組収録への対応	・NHK-E テレ「ザ・バックヤード」（7 月 16 日放送） ・フジテレビ「タビフクヤマ」（9 月 12 日放送） ・NHK E テレ「キラキラムチュー」（12 月 29 日放送）
館報「開港のひろば」	館報「開港のひろば」第 159 号、160 号を発行
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュース、SNS による催し物等の情報発信 ③ みなとみらい線各駅へのポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材対応 ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼 ⑧ みなとみらい線一日乗車券の作製 ⑨ kino cinéma 横浜みなとみらいにてチラシ頒布



絵本「たまくす」



れきけんカード



みなとみらい線 1 日乗車券

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	ホームページを通じて、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時行った。館報「開港のひろば」は、発行に合わせて、テキスト情報を持った（文字検索や読みあげが可能な）PDF 画面で掲載した。 ・HPアクセス件数 合計 127,675 件 XやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【X】 ・ツイート数 216 ・エンゲージメント率 2.8% ・リツイート 2,301 ・いいね数 11,627 ・ツイートインプレッション 648,952 【YouTube】 ・再生回数 18,116 ・総再生時間数 1731.6 ・チャンネル登録者数 124 ・公開動画本数 5
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第236号～第245号(号外合計13回)をのべ21,672名の登録者に配信した。
Webサイトリニューアル準備	R8年度からの財団全施設のWebサイトリニューアルに向けて、ページ構成等の検討を行った。

6 旧館活性化事業（定款第4条第1項第1号②）

開港資料館の旧館（旧英国総領事館）および付属棟（旧門番所）の建物を、関内エリアのあらたな観光拠点として幅広く活用していくための再整備事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」（後掲）と連動して、旧館（旧横浜イギリス総領事館、市指定文化財）の整備を実施しました。今年度は内装工事および展示工事を実施したほか、県庁東庁舎側の外構部についても植栽整備を行いました。また市地域史跡「たまくすの木」については、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部による土壌改良工事等を実施したほか、昨年度から進めていたバリアフリーデッキを完成させました。

（1）施設整備

項 目	内容・成果
旧館（旧イギリス総領事館）の整備工事	文化観光拠点計画にもとづき、旧館（旧イギリス総領事館）の整備工事を実施した。今年度は内装工事を実施し、塗装調査によって判明した建具（窓枠や扉）や壁の創建当初の色調を再現したほか、これまで執務スペースだった2階に、山下町や横浜中華街、元町、山手など、横浜の伝統的な観光地として

	親しまれているエリアの歴史を紹介する展示を新設した。
外構の植栽工事	敷地南側（県庁東庁舎側）外構部分の植栽整備について、市のみどりアップ事業にもとづき、植栽整備工事を実施した。
市地域史跡「たまくすの木」の維持管理	「たまくすの木」の中長期的な維持管理を目的として協定を締結した（一社）日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）に委託して、土壌改良および剪定作業を行った。
「たまくすの木」周辺のバリアフリーデッキ整備	昨年度実施したクラウドファンディングで集まった寄附金をもとに、「たまくすの木」の周囲に神奈川県産のヒノキを使用したバリアフリーデッキを整備した。

（２）旧館・中庭を活用したイベントの実施【再掲】

項 目	内容・成果
写真パネル展の開催 R7.5.28（水）～6.2（月）	財団と協定を締結しているプロバスケットボールクラブ「横浜エクセレンス」の B2 昇格・B3 完全優勝を記念して、記念ホールにてミニ写真パネル展を開催した。来場者 740 名。
横浜市国際局との連携パネル展示の開催 R7.12.2（火）～12.27（土）	横浜市国際局と連携して、4 姉妹都市提携 60 周年記念のパネル展示を、旧館（旧英国総領事館）の一室を会場として開催した。
FMヨコハマ「Lovely Day♡」とのコラボスペシャルイベント開催 R8.3.28（土）	新展示室オープンを記念して、スペシャルゲストに FM ヨコハマ Lovely Day♡DJ 近藤さや香さん、街角リポーター藤田優一さんをお呼びして、中庭のウッドデッキにて初のイベントを開催。 横浜商科大学と締結した覚書に基づいて、商学部商学科 若林宏保教授が担当するゼミ生が制作に携わった絵本「たまくす」の朗読会のコーナーも開催。多くの方に参加いただいた。

（３）「たまくすの木」の維持管理

今年度も引き続き「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部（一般社団法人かながわ樹木医会）による土壌改良を実施した。

また「たまくすの木」の恒常的な維持管理に向けて、維持管理費の寄附者に頒布するたまくすの「御樹印」を制作した（限定 500 枚）。



御樹印



FM ヨコハマ「Lovely Day♡」公開収録

7 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

当館の建築（構造物）、設備類においては、12条点検や劣化状況調査で経年劣化の促進が指摘されている状況です。とくに設備分野において、断水の発生など、これまで懸念材料の一つであった給水設備は、加圧給水ポンプの更新により一応の解決が図られましたが、空調設備については、引き続き経年劣化を主因とした突発的な故障・不具合を頻発させており、持続可能な建物管理を行う上で大きな障害となっています。今後も計画的な予防保全体制を継続しつつ、同設備類が更新するまでその延命化を図りながら、適切な施設の維持・管理に努めます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な不具合：新館・旧館の空調システムの経年劣化。キュービクル、高圧受電盤の経年劣化。主な修繕：放送設備、加圧給水ポンプ部品交換、旧館2階空調機ドレン配管漏水修理、排水マス陥没復旧工事、東側タイル隆起に伴う復旧工事。

8 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

旧門番所（市指定文化財）の建物を活用して、ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能を兼ね備えた店舗「PORTER'S LODGE」を運営しました。令和7年度は、シンボルツリー「たまくすの木」モチーフのオリジナルグッズを製作し販売を開始したほか、特別公開展示や周辺イベントに合わせたイベントや商品展開を行いました。

- ① 委託業者との連絡調整
- ② 店舗コンセプトに合わせた商品の選定・仕入
- ③ 『横浜の歴史あれこれQ&A 第4版』ほか売れ筋商品の増刷
- ④ 「たまくすの木」オリジナル商品の新規開発
- ⑤ 特別公開「長崎」展示期間中、関連書籍や名産品を集めたフェアを開催
- ⑥ 特別公開「横浜の外国商社と舶来時計」展示期間中、展示資料の高精細プリントを試験販売

- ⑦ 神奈川県主催ベトナムフェスタに合わせ、ベトナムビールを店舗外のテントで販売
- ⑧ 期間限定セールなどキャンペーンの実施
- ⑨ オンラインショップの運営



ミュージアムショップ&カフェ「PORTER' S LODGE」

(2) 自動販売機（1台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

<各事業の推移>

(千円)

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度
ミュージアムショップ売上	10,429	10,781	6,454
自動販売機手数料収入	81	95	102

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度はとくに幕末の貴重な古写真の寄贈・寄託が相次ぎ、当館の古写真コレクションの充実につながった。デジタルアーカイブ事業では、新規資料のデジタル化を着実に進め、画像の公開点数は1万点を超えた。	S
調査研究事業	各調査研究・連携研究とも予定通りに進め、その成果は当館の資料特別公開や都市発展記念館での特別展などで公開した。外部研究者との連携研究も進めた。	B
常設展事業	次年度の公開に向けて展示室3の計画・整備を行った。また地域企業や行政と連携して、旧館の建物や中庭を活用したイベントを積極的に	A

	開催した。	
企画普及事業	次年度からの旧館の新展示室公開を前提に、館蔵資料を公開する「資料特別公開」を実施し、講座講演会・まち歩きなどの関連事業とあわせて多くの来場者を得た。今年度は地域企業との連携をこれまで以上に強化し、コラボ企画の実施や地域の大規模イベントへの参加も積極的におこなった。	S
情報事業	展示や関連事業に関する情報を、SNS で積極的に配信したほか、次年度の HP リニューアルに向けて構成の検討を進めた。	B
旧館活性化事業	文化観光拠点計画にもとづく旧館（市指定文化財）の整備工事を進め、次年度の公開に向けて内装工事と展示工事を実施し、外構の植栽整備も実施した。また中庭のバリアフリーデッキが完成したことで、中庭を活用した屋外イベントの実施が実現した。	S
施設維持事業	経年劣化が原因とされる設備の故障・不具合が続くなか、資料の保管・管理および来館者への影響が極力発生しないよう、市の所管課と協議のうえで対応に努めた。	B
収益事業	ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」では「たまくすの木」をモチーフにしたオリジナル商品の開発・販売を行ったほか、地域の大型イベントに積極的に参加・出店し、年間の販売収入は前年度に続いて1千万円を上回った。	S

9 拠点計画推進事業

令和3年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、最終年の今年度は、下記6項目の事業についての取り組みを進めました。

項 目	内容・成果
-----	-------

「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業	文化観光での活用を前提としたデジタルアーカイブのシステムを構築し、写真・絵葉書・絵地図・浮世絵・古文書・図書・雑誌・新聞など 210,837 点の資料情報を公開した。あわせてデジタルアーカイブに登載可能な高精細のデジタル撮影を実施し、古写真 1,273 点、その他絵地図 15 点等の画像を得た。また、利便性向上のため、フロントサイトのワンクリック検索ボタンを増設した。
旧館展示「横浜開港の記憶」制作事業	イギリス領事館時代の空間を再現した 2 階の各部屋に、文化財の雰囲気を活かしながら、山下町や横浜中華街、元町、山手など、横浜の伝統的な観光地として親しまれているエリアの歴史を紹介する展示を新設した。あわせて 1 階記念室（旧総領事室）の展示もリニューアルした。
「横浜開港」資料の商品化事業	『横浜の歴史あれこれ Q&A』等売れ筋商品を増刷したほか、シンボルツリー「たまくすの木」モチーフの商品化に向けて新たにデザイン制作を委託し、オリジナル商品 3 点を製作した。
「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業	「PORTER' S LODGE」の収益向上に向けた高価格帯商品として、資料特別公開「横浜の外国商社と舶来時計」にあわせて、展示資料から外国商館のポスターのジクレープリント（高精細レプリカ）を製作・販売した。
「横浜開港」プロモーション戦略事業	・横浜商科大学と開港資料館の広報連携に関する覚書を締結し、同大学学生が製作した絵本「たまくすの木」の朗読会を、完成したバリアフリーデッキを会場として実施した ・地域ラジオ局であるマリン FM（中区）との協働で、財団の諸事業を中心に横浜の歴史に関するタイムリーな話題を紹介する番組「横濱 歴史のタイムマシーン」（毎週金曜日 19:30～20:00）を、制作・放送した。
旧英国総領事館等再整備事業	・展示公開を予定しているエリアの内装工事を実施した。天井を取り払って、創建当時のオリジナル天井のあらわし仕上げとし、また塗装調査によって判明した建具（窓枠や扉）や壁の創建当初の色調を復原した。 ・市のみどりアップ事業にもとづき、敷地南側（県庁東庁舎側）外構部分の植栽整備工事を実施した。



外国商館ポスターのジクレープリント



領事館時代の壁と木部の色を再現

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
拠点計画推進事業	デジタルアーカイブ事業では、最終的に約21万点の資料情報の公開を達成した。市指定文化財である旧館の整備工事では、外観に続けて内装でも領事館時代の空間を復原し、文化財を活かした展示として新設した。あわせて外構部分の植栽整備も完了し、多様な来館者にご利用いただける環境が整った。ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」では、たまぐすをモチーフにしたオリジナル商品や高価格帯商品の製作・販売を行った。	A

4 都市発展記念館事業

令和7年度は、戦後80年関連を軸として各事業の取り組みを進めました。

企画展事業では、戦後80年をテーマとする特別展を2回開催しました。特別展「戦後80年 戦争の記憶－戦中・戦後を生きた横浜の人びと－」では、戦中・戦後における横浜市民の戦争被害に焦点を当て、関連事業では「GI ベビー」の当事者に話を伺う講演会を開催しました。また特別展「戦争の記憶－横浜と軍隊の120年－」では、埋蔵文化財センターと連携して、近年の発掘調査の成果も交えながら、地域に残る遺跡や景観、モニュメントから見てくる横浜と軍隊との関係をたどりましました。SNSでの情報発信を積極的に行い、目標を上回る多くの観覧者を得ました。

資料収集保管事業では、戦後80年の特別展開催に関連して、戦中戦後期の貴重な資料が寄贈されたほか、昨年度から引き続き、戦後写真のデジタル化を進め、館蔵資料から50点の資料画像を文化庁の文化遺産オンラインにて公開しました。

調査研究事業では、各テーマにもとづく基礎的調査研究を着実に進めたほか、昨年度から施設間

連携として進めてきた戦後 80 年特別展に向けた研究会の成果を、2 本の展覧会として公開しました。

普及事業では、毎年恒例のイベント「ハマフェス Y167」をはじめ、開港資料館・ユーラシア文化館との 3 館で、地域の大型イベントに積極的に参加・出店して、館の PR に努めました。また地域での文化財活用として、今年度も開港資料館・歴史博物館と連携して「中山恒三郎家」（都筑区）の公開事業を実施しました。

学校連携事業については、昨年度から引き続き、エデュケーターと連携して小学校団体の吉田新田学習の受け入れを実施し、受け入れ校数を伸ばしました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、寄贈・寄託、購入等により収集し、分類・整理するとともに、資料を良好な状態で保管するため、定期的な環境調査を行いました。また、戦後写真資料をホームページ上で公開するためのデジタル化作業を行いました。

（1）資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈52件 寄託0件	主な資料：横山清治画「戦災画譜」、聖母愛児園・ファチマの聖母少年の町記録写真アルバムほか
資料の購入	0件	主な資料：なし
資料修繕	0件	主な資料：なし
資料の複製収集	0件	主な資料：なし
資料のデジタル化	1件 435点	主な資料：五十嵐英壽氏写真435点。
複製資料の提供	63件 176点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ当館所蔵資料のデジタルデータ（画像および映像）を提供した。
資料の特別利用	5件 129点	調査研究目的による、当館所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	2件 6点	春日部市郷土博物館企画展「麦わらのかすかべ〜帽都いま・むかし〜」にて麻真田関係資料を出陳した。 清瀬市郷土博物館特別展「寝台列車物語〜夢空間が清瀬へ、その軌跡〜」に鉄道関係資料を出陳した。

（2）資料収集実績（R7.4～R8.3）

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	— (—)	— (—)	9 (—)	— (—)	9 (—)	1,691 (1,682)
図書	— (1)	— (—)	— (—)	— (—)	— (1)	2,425 (2,425)
新聞雑誌	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	2,180 (2,180)
文書	— (11)	— (—)	1 (—)	— (—)	1 (11)	4,722 (4,721)

紙票類	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	5,683 (5,683)
写真	- (-)	- (-)	18 (-)	- (-)	18 (-)	25,835 (25,817)
絵葉書	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2,554 (2,554)
地図	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	740 (740)
図面	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	951 (951)
絵画	- (-)	- (-)	24 (-)	- (-)	24 (-)	26 (2)
映像	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	66 (66)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (3)	- (-)	- (-)	- (3)	15 (15)
合 計	- (12)	- (3)	52 (-)	- (-)	52 (15)	47,099 (47,007)

※（ ）内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の燻蒸。今年度は実施なし。前年度に燻蒸処理を済ませた資料を、横浜市歴史博物館から当館収蔵庫に戻した。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるための環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型資料 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	大型資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

(5) 館蔵資料の公開

ホームページ上の「横浜絵葉書データベース」「横浜地図データベース」で、館蔵資料から絵葉書資料および地図資料のデジタルデータを公開しています。戦後資料についても、「映像でたどる戦後の横浜」「戦後横浜写真アーカイブズ」で、館蔵のニュース映像および写真資料のデジタルデータを公開しています。ホームページのリニューアルに伴い、これらのデータベースを新サイトに移行して公開しました。また、戦後写真は新規公開を見据えて、五十嵐英壽氏撮影写真435点を新規にデジタル化しました。

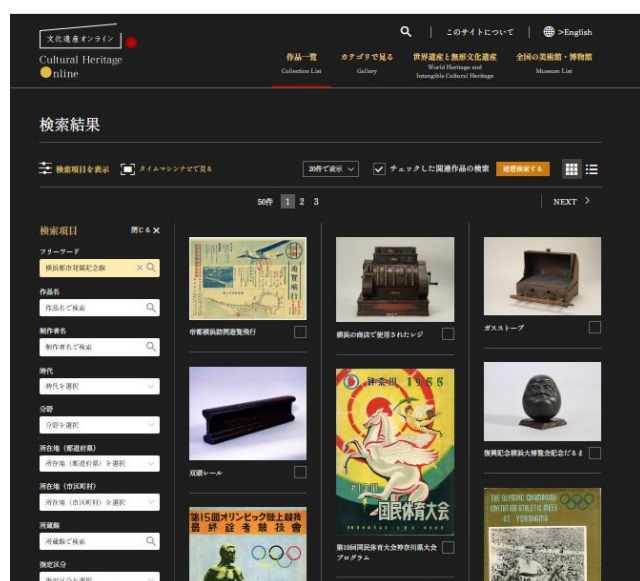
また、今年度は文化芸術振興費補助金 (Innovate MUSEUM事業) の助成を受け、200点の館蔵資料を新規にデジタル化しました。このうち、50点の資料を文化遺産オンラインにて公開し、ジャパンサーチとも連携しました。



映像でたどる戦後の横浜



戦後横浜写真アーカイブズ



文化遺産オンラインで公開されている当館資料

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究事業を進めました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 (2/2年次)	2027年の中区政100年等にむけた「大横浜」関連の文献調査を実施するとともに、昭和戦前期の横浜を記録した写真家・前川謙三に関する史料調査を実施した。また、2024年8月に閉館した前川写真館から収集した資料の整理を行った。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 (4/4年次)	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにする。都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域(旧橋樹郡の村々)について基礎的な調査を進めた。綱島温泉関係の史料調査を実施した。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 (4/4年次)	京浜工業地帯の形成とその後の展開について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにする。2027(令和9)年の神奈川区・鶴見区の区制100年を見据え資料の調査を進めた。特に、昭和期に京浜産業調査会が発行した『京浜工業時報』の撮影と分析を進めた。
横浜の近代遺跡に関する調査研究 (4/4年次)	市域での近代建築の遺構および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにする。市域での出土遺物のうち、地藏王廟(中区)保管煉瓦の記録化作業と分析を進めた。
昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 (4/4年次)	昭和期を中心に(1)横浜の都市観光およびその宣伝、(2)都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察する。今年度は、これまでの成果を踏まえ、当館が所蔵する「神奈川ニュース」について他施設へ映像および情報提供を行った。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	前年度までの研究成果を基に、特別展「戦後80年 戦争の記憶―戦中・戦後を生きた横浜の人びと―」、「戦争の記憶―横浜と軍隊の120年―」を都発会場で開催し、図録を発行した。 *都市発展記念館・開港資料館・埋蔵文化財センターとの連携研究事業

(3) 外部研究者との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
中山恒三郎研究会 (3/3年次)	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2026(令和8)年3月26日に研究会を実施し、資料目録の共有、史料翻刻、今後の事業展開等について検討を行った。
建築家中村順平に関する基礎的研究 (2/2年次)	横浜高等工業学校建築科(現・横浜国立大学都市科学部建築学科)の主任教授を務め、独自の建築教育で多くの建築家たちを育てた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。中村の郷里である東大阪市での資料調査の結果をふまえて、大阪歴史博物館等との連携事業の検討をおこなった。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度は特別展「戦後80年 戦争の記憶—戦中・戦後を生きた横浜の人びと—」・「戦争の記憶 横浜と軍隊の120年」において、常設展示室の一部を企画展示室として活用し、常設展示室との回遊性を高めました。毎月第二水曜日は「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（1）常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
特別展と連動した常設展示室の活用	・特別展「戦後80年 戦争の記憶—戦中・戦後を生きた横浜の人びと—」、および特別展「戦争の記憶 横浜と軍隊の120年」において、常設展示室の一部（コーナー展示部分と中庭側造作壁）を、特別展のひとつのコーナーとして活用し、企画展示室と常設展示室との回遊性を高めた。
コーナー展の開催	・ミニ展示「広瀬写真に見る 1950 年代の河川運河」 令和7年3月26日（水）～4月13日（日） 昨年度からの継続開催。戦後復興から高度経済成長期へと横浜の経済・社会が大きく動いていく 1950 年代の横浜の河川運河の様子を、横浜開港資料館所蔵の広瀬始親氏撮影写真から紹介した。 ・ミニ展示「お風呂屋さんの戦中日記」 令和7年4月16日（水）～7月6日（日） 能登半島出身の銭湯経営者の日記から、横須賀市船越町で「白川温泉」を営んだ小林榊太郎の日常を紹介した。
学校向け展示	・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 学校教員や小学校団体向けに、吉田新田エリアの近代以降の発展に関するパネル展示を常設。

（2）常設展示観覧者の推移

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
R 7 年度	1,915	1,023	2,938	23,533	26,471	195.1%	299	88
R 6 年度	1,929	824	2,753	10,818	13,571	343.7%	212	64
R 5 年度	600	105	705	3,243	3,948	17.3%	50	79

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度は、戦後80年をテーマとする特別展を2回開催しました。第1回目の特別展では、戦中・戦後における横浜市民の戦争被害に焦点を当てた展示を開催し、「GIベビー」の当事者に話を伺う講演会を開催しました。第2回目の特別展では、横浜の軍隊をテーマとした展示を埋蔵文化財センターと連携して

行い、関連講座やSNSでの発信を積極的に行った結果、目標数値を大幅に上回る観覧者数を得る成果をあげました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「運河で生きる ～都市を支えた横浜の “河川運河”～」 令和7年1月18日(土)～4 月13日(日) 開催日数74日(年度内 12日)	一般 800円 市内 65 歳以上・ 小中学生 400円	5,771人 (年度内 1,358人) うち有料 3,207人 (年度内 1,032人)	横浜が都市として成長していくなかで整備・開削された“河川運河”は、横浜の経済を支える動脈だった。企画展では、横浜の市街地を流れる“河川運河”の形成、成長、衰退から復活に至る景観の変化と、そこで生きた人びとの歴史を紹介した。 【関連事業】 ※年度内 展示解説 4/12(土) 101人、4/13(日) 114人
特別展「戦後80年 戦争 の記憶―戦中・戦後を生きた 横浜の人びと―」 令和7年7月19日(土) ～9月28日(日) (展示日数：71日)	一般 800円 市内 65 歳以上・ 小中学生 400円	5,268人 うち有料 3,890人	本展示では、戦後80年をテーマとして市民の戦争被害に着目し、地域の残る戦中期の地域史料を展示したほか、戦後横浜に多く存在した戦争孤児・「GI ベビー」に関する新規資料を展示し、あわせて当事者の聞き取り調査成果も公開した。 【主な関連事業】 (1) 展示関連出版物 横浜都市発展記念館・横浜開港資料館編『戦後80年戦争の記憶―戦中・戦後を生きた横浜の人びと―』(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2025年)を特別展にあわせて刊行。A4判 84頁、定価：2,200円(税込)、会期中売上：371冊 (2) 展示解説(全8回) 担当者による展示解説を8回開催した(参加費無料、観覧料のみ)。参加人数は第1回(8/3) 18名、第2回(8/11) 35名、第3回(8/15) 47人、第4回(8/31) 22人、第5回(9/14) 19人、第6回(9/23) 40人、第7回(9/27) 57人、第8回(9/28) 26人 計264人。 (3) 関連展示 「動画公開 当事者が語る戦争被害」を1階ギャラリーで開催。観覧者774人。 (4) 展示関連講演会 展示関連講演会「当事者が語る『GI ベビー』の記憶」を9月15日に情文ホールで開催し、177人が参加した。講演者：青木ロバート氏(ファチマの聖母少年

			の町卒園生) (5) その他 SNS を利用して展示解説等を実施した。
特別展「戦争の記憶—横浜と軍隊の 120 年—」 2026 (令和 8) 年 1 月 24 日 (土) ～4 月 12 日 (日) (年度内日数 : 57 日)	一般 800 円 市内 65 歳以上・小中学生 400 円	7,664 人 (年度内 6,051 人) うち有料 4,824 人 (年度内 3,529 人)	本展示では、埋蔵文化財センターの発掘成果と、これまでの横浜開港資料館および横浜都市発展記念館、横浜市史資料室の研究成果を踏まえつつ、1853 年の黒船来航から 1975 年のベトナム戦争終結までのおよそ 120 年間を対象に、地域に残る遺跡や景観、モニュメントなどから横浜と軍隊との関係、さらに過去の戦争の記憶を追いかけた。 【主な関連事業】 (1) 展示関連出版物 横浜都市発展記念館・公益財団法人横浜市埋蔵文化財センター編『戦争の記憶—横浜と軍隊の 120 年—』(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2026 年)を特別展にあわせて刊行。A4 判 120 頁、定価 : 3,000 円 (税込)、会期中売上 : 536 冊 (2) 展示解説 (全 5 回／年度内 3 回) 担当者による展示解説を 5 回開催した(参加費無料、観覧料のみ)。参加者数は第 1 回 (1/25) 23 人、第 2 回 (3/15) 104 人、第 3 回 (3/20) 52 人、第 4 回 (4/5) 51 人、第 5 回 (4/12) 83 人。合計 313 人 (年度内 179 人) (3) 連続講座 (全 2 回) 関連講座「開港都市・横浜と 2 つの軍事拠点」として、第 1 回「巨大軍都・東京と横浜」(2 月 21 日／参加者 38 人)、第 2 回「軍港都市・横須賀と横浜」(3 月 21 日／参加者 45 人)を実施した。合計 83 人。 (4) 記念シンポジウム 記念シンポジウム「地域に眠る文化資源の発掘と活用—横浜市域の“戦争の記憶”を中心に—」(主催 : 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、共催 : 國學院大學研究開発推進機構)を 3 月 7 日 (土)に國學院大學たまプラーザキャンパスにおいて実施した。 参加者 103 人 報告① 浪形早季子 (横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター調査研究員) 「横浜市域の海軍戦争遺構」

			報告② 坂井久能（國學院大學研究開発推進機構共同研究員） 「伊勢山皇大神宮の軍人之碑から見た西南戦争」 報告③ 吉田律人（横浜都市発展記念館主任調査研究員） 「陸軍溝ノ口演習場と國學院大學―地形が語る軍事施設の痕跡―」 コメント① 池田榮史（國學院大學研究開発推進機構教授） コメント② 上山和雄（國學院大學名誉教授／前横浜開港資料館・横浜都市発展記念館館長） 総合討論 司会 藤田大誠（國學院大學人間開発学部教授） (5) その他 SNS を利用して展示解説等を実施した。
次年度企画展準備			昭和 100 年関連企画展に関する写真資料の調査を行った。

（２）企画展示室観覧者の推移

（人）

	有料入館者	無料入館者	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 7 年度	8,451	4,226	12,677	287.2	131	96
R 6 年度	2,175	2,238	4,413	—	62	71
R 5 年度	0	0	0	0	0	0

（３）普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
パネル展「続・能登半島と横浜―銭湯経営者の系譜―」 R7.2.22（土）～4.13（日）		昨年度開催したパネル展「能登半島と横浜―」で寄せられた新しい情報をもとに、追加調査で明らかになった銭湯経営者の系譜を中心に能登と横浜とのつながりを紹介した。 会場：1階ギャラリー、旧第一玄関、常設展示室 ※昨年度からの継続。
「非文字資料から見る横浜の河川運河」 R7.3.3（月）～4.12（土）		横浜の関内・関外地区を流れる運河の役割や景観の変化について、神奈川大学非文字資料研究センターが所蔵する地図資料や写真資料から紹介した。横浜都市発展記念館との連動企画として開催。 会場：神奈川大学横浜キャンパス 3 号館 1 階

		※昨年度からの継続。
第5回横浜スタチュー・ミュージアム R7. 11. 15(土)・16(日)		日本大通り沿いの8カ所に12組のスタチューを設置した。ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディングで制作したペリー提督像が初登場。15日は日本大通り会場に加えて、初めて中華街の媽祖廟にもスタチューを設置した。 ※ユーラシア文化館・開港資料館との共催
開館祭 R8. 3. 14(土)・15(日)	2日間で 2,132人	3月14日(土)と、当館とユーラシア文化館の開館記念日にあたる3月15日(日)の2日間、開館祭を開催した。当日は無料開館し、衣装試着体験や建物ツアーなどを実施した。 ※ユーラシア文化館との共催



特別展展示解説



特別展関連講演会

(4) 地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
ハマフェスY166への参加 R7. 5. 24(土)・25(日)	地域の事業者(馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会)と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。
首都圏形成史研究会での報告・見学会の実施 R7. 8. 13(土) 第134回 R8. 2. 14(土) 第135回	首都圏形成史研究会第134回例会「戦後80年 戦争を伝えるー博物館・文書館の企画展示事業からー」にて、当館特別展をふまえて「戦後横浜の「GIベビー」問題を展示する試み」を報告した。また第135回例会「戦後80年 戦争を伝えるⅡー文書館の「戦争」展示ー」に際し

	て、当館特別展の見学会をおこなった。
戦後 80 年事業への講師派遣	中区が主催する戦後80年事業に講師を派遣し、横浜大空襲に関する講座と平和祈念碑の見学をおこなった。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 R7. 10. 19（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：501人 ※開港資料館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
「ワールドフェスタ・ヨコハマ2025」への参加 R7. 10. 11（土）～10. 12（日）	「ワールドフェスタ・ヨコハマ2025」に開港資料館・ユーラシア文化館と3館で参加し、山下公園通りの歩行者天国のブースで展示PRとドリンク販売をおこなった。
「日本大通りSDGsウィンターイルミネーション2025」への参加 R7. 11. 21（金）～12. 25（水）	日本大通りエリアマネジメント協議会が実施する「日本大通りSDGsウィンターイルミネーション2024」に開港資料館・ユーラシア文化館と3館で参加し、加盟会員として協賛金を支出した。
横浜春節祭2026への参加 R8. 1. 20（火）～3. 3（火）	横浜中華街発展会等が主催する「横浜春節祭2026」にて、入館割引などの特典が得られるデジタルスタンプラリーに、開港資料館・ユーラシア文化館と3館で参加した。
「れきけんカード」製作協力	区制100年に向けた中区の記念事業として、中区内の歴史的建造物の普及や回遊機会の創出をめざす歴史的建造物カード「れきけんカード」の制作に協力した。横浜都市発展記念館・ユーラシア文化館（旧横浜市外電話局）のカードを配布。
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	横浜市みどり環境局が進める「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。 令和7年9月30日（火）
	横浜市民局が設置した「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」の委員として、当館副館長を派遣した。 令和7年6月27日（金）、10月3日（金）
「広報よこはま」への執筆協力	・全市版の連載コラム「よこはま彩発見」8月号に「戦後80年 戦争の記憶－戦中・戦後を生きた横浜の人びと－」を掲載した。 ・中区版に連載記事「なか区・歴史の散歩道」を開港資料館と共同で

	執筆。 ・保土ケ谷区版に連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、開港資料館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。
--	---

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、エドゥケーターと職員による解説を実施。 参加人数：39校(104クラス、3,212人)
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 R7.11.10(日)	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第31回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。 会場：聖光学院高等学校小講堂
学芸員実習の受け入れ	・博物館実習生4名を受け入れた(9/3～9/9)
研修・視察等の受け入れ	・神奈川大学の職員研修を受け入れた(8/27)。

(6) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	展示関連広報印刷物、館報の発行を行った。 ・合同特別展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第40号(10,000部)、第41号(10,000部)
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を行った。 年会費 1,500円
kino cinema との広報連携	映画館「kino cinema 横浜みなとみらい」と連携し、双方でポスター掲示と優待割引を行うことで、みなとみらい地区からの誘客を図った。
デジタルスタンプラリーへの参加	近隣のイベントで開催される各種デジタルスタンプラリーに参加し、「PORTER'S LODGE」店内をラリーポイントとして活用した。 ・ハマフェス Y165 デジタルスタンプラリー ・よこはま建築ひろば 2025 デジタルスタンプラリー ・横浜春節祭2026 デジタルクーポン
その他広報	横浜市・PRTimesを通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 みなとみらい線各駅へのポスター掲出 ホームページ・X(旧Twitter)・YouTubeチャンネルによるインター

	ネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR
--	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「戦後横浜写真アーカイブズ」の新規公開
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを配信した。（不定期）
オンラインツールによる情報発信	X（旧Twitter）やYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。特別展に関する情報発信を重点的におこない、年度中にフォロワーが2,000人を超えた。 【X（旧Twitter）】 ・ツイート数 454 ・エンゲージメント率 2.3% ・リツイート数 5,078 ・いいね数 14,707 ・ツイートインプレッション 1,562,415 【YouTube】 ・再生回数 5,349 ・総再生時間数 76.7 ・チャンネル登録者 52
Webサイトリニューアル準備	R8年度からの財団全施設のWebサイトリニューアルに向けて、ページ構成等の検討を行った。

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容など
都市発展記念館	・設備日常点検・警備・清掃 ・建築基準法12条点検

	・劣化調査 ・消防設備点検 ・電気設備等年次点検 ・防火対象物点検・防災管理点検 ・空調機・全熱交換器精密点検 ・収蔵庫空調機ヒーター修理 ・エレベータ定期点検・法定点検 ・エレベータPU基板交換 ・エレベータかごエアコン・照明汚れ対応 ・空調フィルター清掃 ・定期ガラス清掃 ・ワックス清掃 ・カーペット清掃 ・雑排水槽清掃 ・自動ドア点検 ・ファン類精密点検 ・MM線3番出口シャッター工事対応 ・展示室内照明LED化現調（市教委・保全公社） ・ガス燈定期点検 ・防虫防除 ・給水ポンプ点検 ・植栽管理作業 ・建築局業務用エレベータピット底部調査 ・建築局除湿機水漏れ・アネモ調査 ・光電アナログ感知器交換 ・ESCO事業（照明LED化）工事 ・消防局査察対応 ・収蔵庫扉電気錠修理 ・トイレ流水器具調節 ・空気環境測定
--	---

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

ミュージアムショップでは企画展に対応した商品の仕入れをおこなった。今年度は2回開催された戦後80年の特別展図録を統一したデザインにより製作して、一連の図録として販売促進を図った。あわせてオンラインショップでのグッズ・図録等のPRに努めた。

（2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(千円)

項 目	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
ミュージアムショップ売上	8, 2 7 0	4, 1 7 9	1, 4 1 5
自動販売機手数料収入	7 3	4 2	2 8

※令和 5 年度は工事休館までの 2 か月間、令和 6 年度は 7 月の再開館以降の数字

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	戦後80年の特別展開催に関連して、戦中戦後期の貴重な資料が寄贈された。将来的なデジタルアーカイブ構築に向けた館蔵資料のデジタル化も着実に進め、今年度は50点の資料画像を文化遺産オンラインにて公開した。	A
調査研究事業	各テーマの調査研究を順調に進めたほか、昨年度からの開港・埋文との連携研究の成果を戦後 80 年の特別展として公開した。	B
常設展事業	特別展の一部を常設展示室で展開して、企画展示室との回遊性を高めて常設展示室への誘客に努め、1日あたりの入館者数は前年度から 137%の増（前々年度からは 115%増）となった。	A
企画普及事業	昨年度からの調査研究成果をもとに、戦後 80 年関連の特別展を 2 本開催し、1日あたりの入館者数は前年度から 135%増となった。その他、スタチュー・ミュージアムや開館祭等の事業により集客に努め、地域の大型イベントにも積極的に参加した。	S
情報事業	展示や関連事業に関する情報を、SNS で積極的に配信したほか、次年度の HP リニューアルに向けて構成の検討を進めた。	B
施設維持事業	不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。また ESCO 事業による照明 LED 化を、所管局と協議しながら適切に実施した。	A
収益事業	戦後 80 年特別展の関連図録およびユ文の企画展関連グッズの販売が好調だったことを反映して、昨年度の再開館以来、売上を大きく伸ばした。	A

5 ユーラシア文化館事業

ユーラシア文化館は、「横浜で世界とつながる」をコンセプトに、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展と、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与するため、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

ユーラシア文化館では、ユネスコ無形文化遺産登録記念した「モンゴルの遊牧文化」展と明治・大正期の横浜の文化交流に着目した「山本博士コレクション・横濱東西文化のランデブー」展の二つの企画展を開催しました。また、国際局から移管を受けた上海工芸品の常設展示室での公開を始めました。企画展にあわせて、講演会などを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める活動を実施しました。

調査研究では、ユーラシア地域における東西文化交流や多文化共生都市としての横浜の歴史や文化に関わる調査研究を進め、その成果を再開館した常設展示に加えるとともに、紀要や広報誌などで発信しました。

「横浜ユーラシア スタチュール・ミュージアム」は、横浜ユーラシア文化館1館だけではなく、関内3館の連携事業の位置づけを明確にするため、「横浜スタチュール・ミュージアム」と名称を変更して実施した。横浜の秋の風物詩として年々期待が高まっています。今年もクラウドファンディングで資金を募った。

令和7年度も様々な取組を通じて、街を舞台とする「街に出ていく博物館」として、地元諸団体や企業などと連携し、地域社会の文化創造に貢献しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈18点 寄託0点	20世紀初頭の中国服、福建同郷会関係資料、韓国出土古代鉄器、青銅鏡
資料の購入	0点	
資料熟覧	1件	企画展借用目的の事前調査に対応した。
文献資料熟覧	0件	
資料の貸出	2件	国立民族学博物館特別展、岡山市立オリエント美術館企画展
収蔵資料の画像利用	3件	『文建協通信』（文化財建造物保存技術協会）、福井県立歴史博物館等への画像提供

（2）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

和図書・洋図書	書誌データの入力を行った。入力件数 1351 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。600 件
和雑誌	書誌データの入力は実施せず。

(3) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (0)	0 (0)	18 (156)	0 (0)	18 (156)	9,390 (9,372)
図書	8 (2)	0 (0)	29 (22)	0 (0)	37 (24)	22,740 (22,703)
雑誌	0 (0)	0 (0)	39 (31)	0 (0)	39 (31)	8,571 (8,532)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
合 計	8 (2)	0 (0)	86 (53)	0 (0)	94 (55)	40,721 (40,627)
累計	981	2	39,556	182		

※ () 内は、前年度点数

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	2025 年度は実施せず。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年 6 回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号)

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げ、企画展などで成果を公表しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
ユーラシアにおける工芸品の研究 (3/5 年)	韓国の手工芸品について個人コレクションの調査を行い、その成果を令和 8 年度の企画展で公開する。また、中央アジアにおけるガラス技術流入を把握するために助成金を得て、ウズベキスタン及びタジキスタンの博物館等で中世イスラーム時代のガラス器の実見調査を行った。

ユーラシアにおける人形製品の研究（４／５）	日本列島・アフリカにおける人形土製品について、類例の収集と検討を行った。
ユーラシア概念をめぐる研究（４／５年）	個々の調査研究に即してユーラシア概念についての検討を行った。
横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（４／５年）	横浜および神戸在住の中国系女性への服飾資料調査やインタビューなどを実施し、その成果を令和９年度の企画展で公開する予定。
ユーラシアにおける古代・中世日本の研究（２／５）	古墳時代中期における日本列島への家畜馬及びその生産技術の導入と、奈良・平安時代を通じた東国への展開過程に関する最新知見の情報を収集した。
令和８年度以降開催予定の企画展調査	令和８年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

（２）研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第13号（A4判、頁、オンライン公開）を発行。

３ 常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

中区ブックフェスタに参加しモンゴル絵本原画展と、新年干支企画の「流鏑馬写真展」の実施、さらに国際局から移管された上海工芸品２点を常設展示し、横浜で世界とつながるというコンセプトを明示したコーナーを新設した。

（１）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・横浜で世界とつながるというコンセプトを明示したコーナーを新設し、国際局から移管された上海工芸品「大河上下（象牙彫）と翡翠百仏鉢（翡翠彫）を展示した。 ・ミニ展示「絵本原画で出会うモンゴルの歴史と文化」開催（令和７年１１月１日（土）～１１月３０日（日）） ・新春干支展示 實方剛写真展 「獣医師の診た流鏑馬と笠懸」開催（令和７年１２月２０日～令和８年３月１５日（日））



上海工芸品展示



モンゴル原画展



干支流鏑馬と笠懸写真展

(2) 常設展示観覧者の推移 (目標数 19,000 人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1 日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
R 7 年度	1,657	869	2,526	23,688	26,214	207.9%	300 日	87.3
R 6 年度	1,278	418	1,696	10,911	12,607	233.9%	212 日	59.5
R 5 年度	2,076	76	2,152	3,236	5,388	56.6%	50 日	107.7

4 企画普及事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号②)

今年度は、国内外の様々な団体・個人と協働し、2本の企画展を実施するとともに、各種の普及活動を実施しました。また活動の様子をSNSで積極的に配信しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
モンゴルの遊牧文化 ユネスコ 無形文化遺産登録記念 「ゲルと草原の物語 ー絵本原画と生活道具」 R7.4.26 (土) ~7.6 (日)	一般 800円 小・中 、市内 65歳以 上400 円	4,317人 1日あたり 約70人	日本に暮らすモンゴル人絵本作家の絵本原画と、国立民族学博物館などが所蔵する生活道具等を組み合わせた斬新な手法で、ユネスコ無形文化遺産に登録されたモンゴルの遊牧文化をわかりやすく紹介した。理解を深めるために、会期中にゲルの組立イベントや絵本おはなし会など様々なイベントを実施した。 【関連事業】 ●ギャラリートーク 5/15 (木)、6/2 (月)、7 (土)、22 (日)、26 (木)、7/5 (土) (会期中 6 回) 参加者 130 人 ●イベント「ゲルに集まれ！」 5/10 (土) ①ゲルの組立・解体 参加者 552 人 協力：公益社団法人日本モンゴル協会 ②モンゴル絵本のお話し会 参加者 102 人 協力：横浜市中図書館 ③民族衣装試着体験 参加者 217 人 ●関連講座「現代のモンゴルを知る」】 第 1 回 6/15 (日)「現代モンゴル遊牧民の生活世界にあるモノー利用をめぐる交渉術」参加者 47 人 第 2 回 6/21 (土)「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」参加者 56 人 ●トークイベント「『モンゴル大草原 800 年』ができるまで」 5/11 (日) 参加者 35 人

			●ワークショップ 衣装体験、シャガイ占い、馬頭琴体験を実施 4/26(土)、27(日)、29(火・祝)、5/3(土)、4(日)、10(土)、11(日)、17(土)、6/2(月)、7(土)、8(日)、14(土)、21(土)、22(日)、28(土)、7/5(土)、6(日) (会期中17回)参加者のべ1124人 ●実方剛写真展「獣医師の診たモンゴル国の野生動物と遊牧民の暮らし」会期中開催 観覧者2,018人 撮影者による作品解説6/14(土)、6/28(土)参加者数31人(2回)
「山本博士コレクション 横濱東西文化のランデブー ー眞葛焼、横浜写真から横浜彫刻家具まで」 R7.10.4(土)～ R8.1.5(日)	一般 800円 小・中、 市内65 歳以上 400円	6,103人	横浜の実業家山本博士氏のコレクション展。西洋と東洋の技術・文化が出会った港町横浜が生み出した、眞葛焼、横浜彫刻家具、横浜写真の逸品を紹介。横浜シティガイド協会と連携して、多彩なガイドツアーなどイベントを実施。
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



モンゴルの絵本原画と生活道具の展示



2階常設展示室も利用して眞葛焼を展示



1階ギャラリーでの山手133番館写真展

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
R7年度	4,887	5,533	10,420	175.9%	137	76
R6年度	3,240	2,684	5,924	—	89	66
R5年度	0	0	0	0	0	0

項目	参加者数	内容
企画展「ゲルと草原の物語」関連講座の実施	103人(2回)	「現代のモンゴルを知る」と題して、2回の講座を実施した。現代モンゴルにおける遊牧民の物質文化とモノの交渉術、仏教

R7.6.15（日）、6月21日（土）		実践と化身ラマについて専門家にお話し頂いた。
「こんなに集めてしまった」記念講演会の実施 R8.1.10（土）	85人	「横浜東西文化のランデブー」展のコレクション所蔵者山本博士が、コレクション収集の経緯やそこに込められた思いなどを語った。

（３）講座・講演会



左：モンゴル絵本のお話会、中央：ゲル建て、右：民族衣装と民族楽器の体験 山本博士氏講演会

（４）普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
モンゴル民族衣装体験等の実施	1124 人	「ゲルと草原の物語」展にあわせ、活動支援ボランティアの方々の協力をえて、会期中に衣装体験、シャガイ占い、馬頭琴体験 17 回実施し、大変好評を博した。
イベント「ゲルに集まれ！」 R7.5.10	871 人	「ゲルと草原の物語」展の関連イベントとして実施。①ゲルの組立解体、②モンゴル絵本のおはなし会、③民族衣装試着体験を行い、子どもから大人まで多くの方が参加した。
ワールドフェスタに参加 R7.10.11		山下公園一帯で開催されたワールドフェスタに参加し、館の活動や企画展の宣伝につとめた。
ミニ展示「絵本原画で出会うモンゴルの歴史と文化」 R7.11.1～11.30	2414	バーサンスレン・ボロルマー氏とイチンノロブ・ガンバートル氏の絵本『モンゴル大草原 800 年』と『トヤのひっこし』の原画 15 点を展示して、モンゴルの歴史と文化を紹介。「なか区ブックフェスタ」へ参加。モンゴル絵本コーナーを設置。
第 5 回横浜スタチュー・ミュージアム R7.11.15（土）・16（日）		11 月 15 日・16 日に開催。15 日は日本大通りに加えて、初めて中華街の媽祖廟に設置した。67 日は、日本大通り沿いの 8 カ所に 12 組を設置した。ペリー提督像の一般公開も行った。
新春干支展示 實方剛写真展 「獣医師の診た流鏑馬と笠懸」開催 R7.12.20～R8.3.15	7554	2026 年の干支「午」にちなみ、新春展示として横浜市在住で獣医師である實方剛氏が撮影した流鏑馬等の写真展を行った。獣医師の視点でとらえた馬や射手たちの一瞬は観覧者の目をひいた。

開館祭 R8. 3. 14（土）, 15（日）		無料開館。干支のウマにちなんで、ズーラシア飼育員による馬をテーマにした講座やモンゴルの衣装体験、馬頭琴体験など、モンゴル関係のイベントを実施した。
----------------------------	--	---



ハマフェスでのスタチュー

秋のスタチュー、媽祖廟に展開

（５）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	・横浜都市発展記念館とともに、吉田新田学習プログラムを実施した。 受入れ実績 42校 104クラス 3,212人 ・国語学習（「スーホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）を用意した。
学芸員実習の受け入れ	11月12日（水）～11月19日（水）のうち休館日を除く6日間、8名の実習生を受け入れた。

（６）市民協働事業

項 目	事 業 内 容
横浜シティガイド協会との連携	「横浜東西文化のランデブー」展でガイドツアーとWSを実施。

（７）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	館報『横浜ユーラシア文化館ニュース <i>News From EurAsia</i> 』第41, 42号を刊行した。
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を行った。 年会費 1,500円
その他広報	・横浜市・PRTimesを通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・みなとみらい線各駅へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。

	・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。
--	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 284,684 件（前年度の 175%）
SNSによる情報発信	X（旧 Twitter）はツイート数 143、フォロワー 2,414 人、インプレッション 197,411。大道芸用アカウントはツイート数 50、フォロワー 501 人、インプレッション計 116,022。YouTube は新規動画を上げていないが、登録者は 294 人、過去動画 71 本が閲覧可能。Facebook はフォロアー 146 人で随時更新中である。

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	・設備日常点検・警備・清掃 ・建築基準法12条点検 ・劣化調査 ・消防設備点検 ・電気設備等年次点検 ・防火対象物点検・防災管理点検 ・空調機・全熱交換器精密点検 ・収蔵庫空調機ヒーター修理 ・エレベータ定期点検・法定点検 ・エレベータPU基板交換 ・エレベータかごエアコン・照明汚れ対応

	・空調フィルター清掃 ・定期ガラス清掃 ・ワックス清掃 ・カーペット清掃 ・雑排水槽清掃 ・自動ドア点検 ・ファン類精密点検 ・MM線3番出口シャッター工事対応 ・展示室内照明LED化現調（市教委・保全公社） ・防虫防除 ・給水ポンプ点検 ・植栽管理作業 ・建築局業務用エレベータピット底部調査 ・建築局除湿機水漏れ・アネモ調査 ・光電アナログ感知器交換 ・ESCO事業（照明LED化）工事 ・消防局査察対応 ・収蔵庫扉電気錠修理 ・トイレ流水器具調節 ・空気環境測定
--	---

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

ミュージアムショップでは企画展に対応した商品の仕入れ、独自の魅力ある商品開発（企画展「ゲルと草原の物語」に関連して、絵本及び絵本原画の販売など）を行った。また図録等オンラインショップでのPRに努めた。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移：再掲＞

（千円）

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度
ミュージアムショップ売上	8, 270	4, 179	1, 415
自動販売機手数料収入	73	42	28

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
------	------	----

資料収集保管事業	資料整理を着実に実施し、資料の熟覧や他館への貸出など外部利用者へのサービスにも対応した。	A
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗し、企画展等で成果を公表した。	A
常設展事業	中区ブックフェスタに参加しモンゴル絵本原画展と新年干支企画の「流鏑馬主進展」の実施、さらに、国際局から移管された上海工芸品2点を常設展示し、横浜で世界とつながるというコンセプトを明示したコーナーを新設した。	S
企画普及事業	「ゲルと草原の物語—絵本原画と生活道具」展を4月26日から7月6日まで開催し、「横浜 東西文化のランデブー」展を10月11日から令和8年1月12日まで開催した。	B
情報事業	HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、TwitterやYouTubeなどインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	A
収益事業	企画展「ゲルと草原の物語」に関連した、絵本・絵本原画並びにモンゴル関連のグッズの販売が順調で販売額を伸ばした。	A

6 三殿台考古館事業

資料収集保管事業・調査研究事業は、発掘調査後60余年を経過した三殿台遺跡の出土資料について、再確認・再整理や資料の修復作業、保管していた土壌の精査をおこない新たな資料の抽出作業を継続しました。また、フィルム・紙ベース等の記録資料については経年劣化による毀滅が危惧されており、保存および活用を図るためデジタル化を進めました。これらの再整理作業は市民ボランティアと協業して行っており、市民と共に歩む三殿台考古館の大きな特色となっています。

常設展事業では、土日祝日の来館者に対して、遺跡や展示室の解説をガイドボランティアの協力を得て実施しました。住居跡保護棟内では専門の業者に亀裂の補修や蘇苔類等の防除を定期的に実施しました。

なお、今年度は財団全体の事業としてデジタルアーカイブ事業を行い、三殿台考古館所蔵資料や考古館の景観写真等、約50点の写真をデジタルアーカイブとして公表しました。

学校連携では小学校の学校見学を中心に対応しています。担任の先生方には下見の際に一部の体験学習プログラムを習得し当日担当していただくなど、学校と協働して授業づくりをおこなっています。隣接する岡村小学校では複数学年にわたって学習の支援をおこないました。また、中学校の職業体験や高等学校の見学も受け入れました。

企画普及事業は、弓矢うち大会や体験学習などのほか屋外で楽しめるイベントを開催しました。なお、当館では体験学習をはじめとするイベントは屋外で実施しているため、夏季の熱中症対策として、年間行事のうち盛夏の7・8月にはイベントを開催しないことを方針としています。

広報ではこれらのイベント情報を当館ホームページ・財団メルマガ・X・Instagramなどのweb媒体や各種広報紙で広く市民に発信しました。

また賑わいの創出として、夏にはミストシャワーなどを配置し、秋には期間限定のどんぐり拾いに近隣保育園・幼稚園へ誘致の手紙を送り来館を促しました。冬季には高台という立地を生かした「夜景」の鑑賞会などを開催しました。春秋2回のダイヤモンド富士鑑賞会は毎年人気が上昇し、今年度は1日で80人を超える日もありました。

施設維持事業としては、南側外縁付近の巨樹を中心に、大規模な剪定作業を実施し、近隣への影響を限定化させるとともに遺跡からの見晴らしを改善しました。日常管理では出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、小規模な樹木剪定をはじめ建物屋根の補修、雨樋の清掃など、管理や点検・補修をおこない、老朽化する施設の安全管理に努めました。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタル化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	整理ボランティアの協力を得ながら、資料の洗浄や復元・実測等をすすめた。保管土壌の精査で微小巻貝や小骨片などの新たな資料を抽出した。
記録資料のデジタルデータ化事業	測量図面や写真フィルム等アナログデータのデジタル化を継続しておこなった。すでにスキャン済みのデータについて、該当する遺構の特定作業をすすめた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された 143 冊の図書を整理分類し収蔵した。データ管理ソフトを変更するとともに過去データの確認作業をおこなった。

（2）調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティアの協力を得て、出土品の再整理作業（分類・接合・復元・実測）を行い、再評価のための基礎データを集積した。
三殿台考古館収蔵資料の活用	小学6年生の社会科見学に際して、三殿台遺跡発掘調査の映像資料（web）を事前学習に活用してもらうよう推奨した。また、土器片

	や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史学習の補助として活用した。
--	---

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 令和7年度来館者数 9,534人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者の見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

（1）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	職員が団体及び一般来館者の見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚に及び展示資料について、1,458人に案内・解説を行った。
復元住居の補修	復元住居の茅を一部補修した。

（2）住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを専門業者に委託した。（隔月実施）

3 企画普及・広報事業（定款第4条第1項第1号②）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう、体験学習や鑑賞会など多種のイベントを開催しました。またこれらを広く周知するためweb媒体を積極的に活用しました。

（1）企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィーク 2025」スタンプラリーへの参加	88人	4月26日から5月6日の期間で磯子区区民利用施設館長連宅会主催の「いそっぴゴールデンウィーク2025」スタンプラリーに参加した。
三殿台遺跡整理ボランティア	341人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作業を行った。
遺跡ガイドボランティア	延べ109人	土日祝日を中心に、ボランティア6人が来館者へ遺跡解説をおこない、延べ1,310人をガイドした。
講師派遣	計29人	地区センター等での勾玉作り体験学習に講師を派遣した。 7/26 睦コミュニケーションハウス 8/10 大岡地区センター
ホームページ等の運営		ホームページ・X（旧ツイッター）及びInstagramで催事・近況等を広報した。

		ホームページに年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。
その他広報		・広報よこはま磯子区版および区民活動支援センター発行の情報紙に体験教室等の情報を提供した。 ・横浜市のイベント情報に体験教室等の情報を提供した。 ・地域情報誌に広告を掲載した。 ・web 媒体にイベント情報を提供した。

(2) 体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	①12 人 ②8 人 ③8 人 12 人 1 人 11 人 3 人 12 人 12 人 12 人 8 人 2 人 24 人 18 人 13 人	・ゴールデンウィーク体験教室 ①5/3 (祝) 古代人体験教室 ②5/4 (祝) 勾玉作り体験教室 ③5/5 (祝) 石器作り体験教室 ・春の弓矢うち大会 (5/18) ・開港記念日イベント「火起こし体験」(6/2) ・キャンプ in 三殿台 (7/19・20) (3 家族) ・秋の勾玉作り体験教室 (9/6) ・秋の弓矢うち大会 (9/21) ・土器作り体験教室 (10/4) ・土偶作り体験教室 (10/4) ・土器作り教室 (10/11・12) ・石器作り体験教室 (11/18) ・野焼き(11/16) ・冬の弓矢うち大会 (1/18) ・勾玉作り体験を実施した。(5 月・9 月)



古代人体験教室（火起こし）



土器づくり教室



野焼き

(3) グッズ製作・販売事業

項 目	事 業 内 容
缶バッジの製作・販売	売上げ 49 個×@100 4,900 円
土器片ペンダントの製作・販売	売上げ 27 個×@700 18,900 円
ミニチュア土器の製作・販売	売上げ 3 個×@1,200 3,600 円
勾玉づくりキットの製作・販売 (青田石・滑石)	売上げ 44 個×@600 26,400 円 (青田石) 売上げ 138 個×@500 69,000 円 (滑石)
「三殿台遺跡北側貝塚調査」の販売	売上げ 13 冊×@1,000 13,000 円

(4) 学校連携事業

項 目	人 数	事 業 内 容
学校団体の受入れ	1,555 人	・学校 6 年生の社会科見学は、引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び 4 種類の体験プログラムを組み入れ実施。14 校 1,114 人が来館した。 ・青山学院横浜英和中学校 (5 人) ・県立横浜総合高校 (36 人) ・横浜国立大学 (8 人)、神奈川大学 (9 人) ほか
クラブ活動・授業づくり支援	53 人 各回 75 人 76 人 30 人	・岡村小学校 1 年生の生活の時間に対応した。 ・同 6 年生の土器作り指導に職員 2 名及び外部講師を派遣した。(全 2 回) ・蒔田小学校 3 年の地形調べに対応した。 ・横浜国立大特別支援学級を受け入れた。
職業体験	11 人	・中学校 3 校 (藤の木・汐見台・岡村) の職業体験を受け入れた。

(5) 施設連携事業

項 目	事 業 内 容
歴博企画展	出土遺物を歴博企画展「君も今日から考古学者！」に貸し出した。

(6) その他利用促進事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
弓矢うち体験	2,339 人	弓矢うちの無料体験を実施した (通年)。
ダイヤモンド富士観賞会	秋 26 人 春 112 人	秋・春の「ダイヤモンド富士」の期間に閉館時間を延長して鑑賞会を実施した。とくに春季は天気が良く、大勢の参加者が来館した。
夜景観賞会	28 人	12/13 竪穴住居跡や通路をライトアップし、高台にある遺跡

		から日没やヨコハマの夜景を鑑賞した。
ゆずファンの対応	162 人	フォークデュオ・ゆずのファン（ゆずっこ）が聖地巡礼で訪れた際に解説やマップ配布などのサービスを提供した。
どんぐり拾い		近隣の保育園・幼稚園等を誘致してどんぐりを拾い集めてもらい、奈良公園に送付（鹿餌となる）した。参加した園児には枯木の絵に葉っぱシールを貼ってもらった。
ミスト噴霧 タープテントの設置		・来館者が夏季の暑さを凌げるようミストを噴霧した。 ・日差しの強い時期に日除けのテントを設置した。
岡村公園でのパネル展示		岡村公園と連携して三殿台遺跡の紹介パネル展を開催した。
貫頭衣の貸し出し	12 人	記念写真用に貫頭衣を貸し出した。
三殿台クイズの開始	15 人	遺跡を巡ってクイズに回答し正解者には景品を差し上げた。
デジタルスタンプラリー 参加		「磯子まち歩きデジタルスタンプラリー」にスタンプポイントとして参加。

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に安心感と満足感を与えるよう運営しました。

（1）三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
三殿台考古館	施設の保守管理、補修・修繕 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業・施設内巡回などの日常管理、業者委託による年末年始の巡回警備 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・復元住居柵・周辺石敷き補修 ・保護棟、旧事務棟、パーゴラ雨樋の清掃 ・獣害（アライグマ）の駆除

（2）三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
自動販売機売り上げ（千円）	23	21	23	23

（3）三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
三殿台考古館施設入場者（人）	9,534	11,425	12,902	13,838



学校見学



ダイヤモンド富士 (3/14)

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	整理ボランティアと協働して、出土資料（自然遺物）の洗浄・選別などの基礎整理や実測・拓本採取などの資料整理、写真フィルム・測量図面等記録資料のデジタルデータ化作業を継続した。また保管資料の一部をデジタルアーカイブとして公開した。	A
常設展事業	今年度は来館者数が1万人を割り込んだ（9,534人）。夏の猛暑の影響もあるが、他の季節も減少傾向にあるので、次年度以降来館者を増加させる工夫が必要である。令和8年度は開館60周年を迎えるため、横浜市歴史博物館や磯子区役所との連携事業を企画し、来館者増への取り組みとして連携を計画した。学校・一般団体、その他来館者へ職員及びガイドボランティアが展示解説を引き続き実施し、小学6年生の社会見学をはじめ小学校～大学の学校利用は約21校 約1,145人を数えた。	C
企画普及事業	無料の弓矢うちは約2,300人が体験した。ダイヤモンド富士・夜景観賞会では、来館者に景観を楽しんでいただくため開館時間を延長した。ボランティアガイドは延べ109人の協力により1,310人の来館者に解説を行った。ホームページをリニューアルした。学校用のパンフレットを改訂し、学習資料として活用してもらった。	A
施設維持事業	出勤者全員での開館前の清掃など、毎日の環境整備を実施した。巨木化し倒木の恐れがある老木を優先	A

	的に剪定した。復元住居の入柵・周辺石敷きなどを修繕した。旧事務棟に侵入した害獣を駆除した。これら来館者の安全面を重視した維持管理をおこなった。	
--	---	--

Ⅲ 文化財業務委託事業

1 埋蔵文化財センター事業

令和7年度も前年度に引き続き、各事業を滞りなく進めました。

発掘調査事業では、瀬谷区の上瀬谷通信隊跡地の調査において、本調査（4年目）・試掘調査（6年目）を実施し、同地で行われる GREEN×EXP02027 に関連する調査は令和7年度ですべて終了しました。また、東高島駅北地区土地整理事業に伴い、神奈川台場の発掘調査を12月より開始しました。

1970～80年代に発掘調査された港北ニュータウンの遺跡群については、縄文時代の環状集落として著名な神隠丸山遺跡の整理作業を継続し、縄文時代中期編（『神隠丸山遺跡Ⅳ』）の刊行に向けて整理作業を行いました。

収蔵物については、収蔵スペースの飽和状態を緩和するために、港北ニュータウン遺跡群の報告書刊行済みの資料について、補助金を利用した保管再整備事業を引き続き行いました。

企画展・普及事業としては、平成29～令和元年度、令和7年度に発掘調査を行った舞岡熊之堂遺跡の戦争遺構などを中心として市内約30か所の軍事施設を集成し、横浜都市発展記念館と連携して『戦争の記憶—横浜と軍隊の120年—』展を開催しました。さらに横浜市歴史博物館の企画展『北条幻庵—横浜・小机城と関東の戦国—』展に協力し、小机城の出土品展示や展示室内で上映する小机城の測量成果動画を作成しました。

さらに栄区地域振興課との継続的な普及事業として、宮ノ前横穴墓見学会（大人向け）、勾玉づくり教室（子供向け）の2事業を引き続き協働で開催しました。

令和7年度も、引き続き小学校の歴史学習の支援や中学生の職場体験の受け入れを行いました。X（旧ツイッター）では引き続き最新情報を配信し、ネットを介した利用者増に貢献しています。

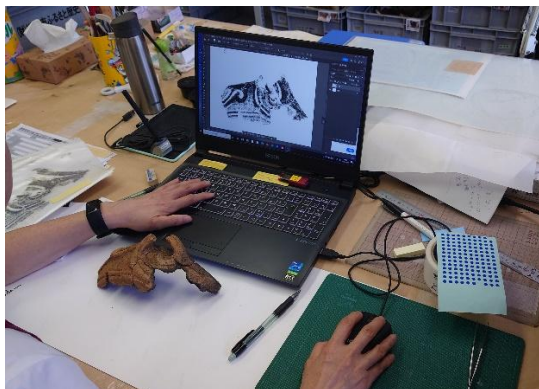
1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン地域内の遺跡群の資料整理を継続しました。また、保管整備事業に関連して、収蔵状況の圧縮・改善作業を実施しました。さらに、他施設から寄贈される報告書等の図書の受け入れを行いました。

（1）遺物整理・調査研究

項 目	事 業 内 容
-----	---------

かみかくしまるやま 神隠丸山遺跡の整理 (7/8年次)	神隠丸山遺跡(都筑区早渕一丁目所在)は、縄文時代中・後期の良好な環状集落であり、港北ニュータウン遺跡群を代表する集落遺跡である。令和7年度は「縄文時代中期編」の刊行に向けて整理作業を行った。
-----------------------------------	---



神隠丸山遺跡整理作業(拓本デジタル画像処理作業)

(2) 資料保存・整理

項 目	事 業 内 容
出土品等保管再整備	港北ニュータウン遺跡群の報告書刊行済み遺跡の資料について、保管再整備を実施。再収納・圧縮作業、台帳作成作業、ラベル張り替え作業等。20遺跡519箱に対して実施。予定遺跡の整理が完了したため国庫補助事業は令和7年度で終了。
図書等の受入れ・整備	受贈図書のほか蔵書の管理について、データベース化を図り、市民の利用に供した。 受入れ点数 合計 2796冊
収蔵資料の受入れ・収納	令和7年度に新たに受け入れた資料は、市民からの寄贈1件、民間発掘調査組織からの移管は0件であった。

2 普及・広報・企画展事業(定款第4条第1項第1号②)

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果を市民へ還元し、埋蔵文化財保護への関心を高めるため、広報紙やホームページ等で情報を発信し、埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。

(1) 広報・刊行物

項 目	事 業 内 容
ブックレットの刊行・販売	遺跡の内容を市民に分かりやすく伝えるためのブックレットをシリーズ「横浜の遺跡」として販売した。とくに令和7年度は以前vol1「舞岡熊之堂の戦争遺跡」

	として刊行した旧版を、令和7年度に行われた追加調査の最新成果を盛り込んで「改訂版」として再版した。 ・vol.1「横浜市戸塚区舞岡熊之堂の戦争遺跡〔改訂版〕」 ・vol.2「横浜市金沢区野島貝塚」 ・vol.3「横浜市都筑区北川谷遺跡群」
広報紙の刊行 (年2回)	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 ・「埋文よこはま」50 「埋文センターの調査研究員紹介」 10,000部 ・「埋文よこはま」51 「弥生・古墳時代の武器と武具」 10,000部
WEBによる情報公開	財団開設のホームページ上で、イベントの案内や刊行物紹介等を行い、Q&Aで市内の埋蔵文化財情報を掲載した。本年度は15回の更新。 また、Webサイトリニューアルを行い、新HPによる情報公開を行った。特に刊行物の案内をトップに出し、通販利用を促進している。
X(旧Twitter)による 情報発信	Xを利用した情報発信を行い、埋蔵文化財に関するクイズや日々の活動報告、展示室内の資料紹介など、より親しみやすい内容でフォロワー及びインプレッションの増加を目指した。 本年度更新:24回 フォロワー数:2,140 インプレッション:23,180(R7年度)
動画配信(YouTube)	YouTubeを利用し、動画の配信を行った。
その他普及	・上郷ネオポリス夏祭りに参加し、土器パズルを実施。147名参加。 ・「栄区民利用施設クイズdeスタンプラリー」参加。87名来館。 ・「栄区郷土史ハンドブック」記載内容の確認・修正業務。編集会議の開催3回。内容確認・修正作業を行った。
その他広報	広報よこはまへのイベント情報掲載、県埋蔵文化財センターHPへの情報掲載



ブックレット

(2) 講座・講演会等の開催・講師派遣・

名称／開催期間	事業内容
---------	------

栄区子ども向け歴史講座「親子で勾玉づくり」（栄区協働事業）	子供向けのイベントとして親子で参加できる勾玉づくり教室を栄区地域振興課と協働で行った。勾玉づくりの前に栄区の考古学に関するミニ講座も実施。 令和7年7月27日（日）午前・午後の2回実施。 参加者：計73人（応募定員：各回30人） 会場：栄区役所
「第3回宮ノ前横穴墓群見学会」（栄区協働事業）	栄区鍛冶ヶ谷市民の森内に所在する「宮ノ前横穴墓群」を見学する講座を栄区地域振興課と協働で実施。昨年度に引き続き2回目。普段は中に入れない横穴墓群について、南部公園事務所に許可を取り、特別に内部を見学できるようにした。また、現地見学前に横穴墓に関する座学を実施。 令和8年1月31日（土） 参加者：21人（応募定員：20人） 会場：栄区役所（座学）・鍛冶ヶ谷市民の森（現地見学）



横穴墓見学会（栄区鍛冶ヶ谷市民の森）



勾玉づくり教室（栄区役所）

（3）展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
令和7年度横浜の遺跡展「横浜の軍事施設」（都市発展記念館「戦争の記憶—横浜と軍隊の120年」と併設開催）	戦後80年を迎え、戦争の記憶を風化させないため、横浜に残る約30ヶ所の軍事施設を特集し展示した。また、図録も都市発展記念館と協同で作成し販売した。 会期：令和8年1月24日（土）～4月12日（日） 会場：横浜都市発展記念館 第1会場（海軍施設）：1F ギャラリー他 第3会場（陸軍施設）：4F 常設展示室 来場者数：7,664名 関連講演会：「地域に眠る文化資源の発掘と活用」 会場 國學院大學（國學院大學と連携）
上郷地区センター展示	・「埋蔵文化財センター収蔵品紹介 「弥生時代の北川表の上遺跡」 令和7年12月1日（月）～26日（金） 出土品再整備事業の成果公表のため実施した。

栄図書館展示	・「ヨコハマを掘る「いたち川で稲作がはじまった時代」」 令和8年1月30日（金）～令和8年2月26日（木） 栄図書館と連携し、栄区の弥生時代遺跡を紹介した。
エントランス展示	・「縄文貝塚の中身、大解剖！」令和7年4月1日～ 令和6年度に報告書を刊行した『神隠丸山遺跡Ⅲ 貝塚編・自然科学分析編』の成果を展示した。



横浜の遺跡展 内覧会（都市発展記念館）



栄図書館展示



エントランス展示（埋文センター）

（４）学校対応・見学者対応

名称／開催期間	事業内容
学校対応	小学校１校の施設見学を受け入れた。 訪問事業については発掘事業が多かったため、実施しなかった。
一般見学者対応	常設展示室を中心として、見学者を案内した。

（５）講師派遣・その他外部機関協力

名称／開催期間	事業内容
講師派遣	・青葉のあゆみ歴史探訪講座「横浜(都筑)の縄文時代シリーズ 縄文人の食生活」 講師 青葉区郷土史会 6/13 85人 ・講演会「常盤台キャンパスに眠る遺跡」講師 横浜国立大学教育学系同窓会 友松会 7/24 74人 ・神奈川県考古学会 2025年度第1回見学会講師（宮ノ前横穴墓群他）講師 神奈川県考古学会 11/8 12人 ・市民公開講座「5千年前の常盤台」講師 横浜国立大学教育学部 12/11 65人 ・講演会「栄区の遺跡」講師 桂山クラブ史跡巡りの会 1/21 34人 ・「第48回 神奈川県遺跡調査・研究発表会」講師 神奈川県考古学会 1/25 100人 ・講習会（横浜市内遺跡・出土品等について）及び見学会（埋蔵文化財センター展示室及び整理作業見学） NPO 法人 神奈川区いまむかしの会 1/27 15人
その他外部機関協力	・弥生時代後期の諸相及び発掘調査で出土した当該期の土器に関する助言 加藤建設（株） 2/13

（6）資料利用対応

項目	事業内容
発掘資料・写真資料の貸出・展示・熟覧等	遺物貸出：市内小学校で常設展示 6件
	コミュニティハウス等で展示 0件
	博物館等の施設 3件
	その他 1件
	写真利用：博物館等の施設 2件
	横浜市ほか公共機関等 4件
	出版社 4件
	テレビ番組 0件
	新聞・広報誌等 1件
	その他 6件
	動画利用 その他 4件
	撮影利用 出版社 1件
	その他 1件
	研究者等の資料利用（熟覧・実測等） 22件

3 発掘調査事業（定款第4条第1項第1号①）

文化財保護法に基づく埋蔵文化財の発掘調査業務を受託しました。

事業略名称	遺跡名	所在地	委託者	備考
-------	-----	-----	-----	----

旧上瀬谷通信施設地区遺跡試掘調査・本発掘調査支援業務	旧上瀬谷通信施設地区遺跡	横浜市瀬谷区	横浜市教育委員会	縄文時代 狩場 古代 集落跡 近代 軍事施設
市営公園整備に伴う舞岡熊之堂遺跡発掘調査支援業務	舞岡熊之堂遺跡	横浜市戸塚区	横浜市教育委員会	縄文時代 集落跡 弥生時代 集落跡 近代 軍事施設
東高島駅北地区土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財本発掘調査	神奈川台場跡	横浜市神奈川区	東高島駅北地区土地地区画整理組合	近代 軍事施設
旧上瀬谷通信施設地区遺跡整理業務	旧上瀬谷通信施設地区遺跡	横浜市瀬谷区	横浜市教育委員会	縄文時代 狩場 古代 集落跡 近代 軍事施設



舞岡熊之堂遺跡発掘調査



神奈川台場跡発掘調査

4 施設連携事業（定款第4条第1項第1号②）

事業の共催や展示協力など財団他施設との連携を行ないました。

項 目	事業内容
横浜市歴史博物館「北条幻庵—横浜・小机城と関東の戦国」展への展示協力	横浜市歴史博物館の企画展に対して以下の点で協力した。 ・展示内の小机城のコーナーに出土品を製作。 ・小机城の測量成果を分かりやすく解説した動画を作成し、会場で上映した。
戦争遺跡に関する研究	横浜都市発展記念館との連携展示「戦争の記憶—横浜と軍隊の120年—」展の準備のため、市内の軍事施設に関する調査研究を協同で行った。
お城 EXP02025 12/20（土）・21（日）	お城エキスポ実行委員会が主催した「お城 EXP02025」で横浜市歴史博物館および株式会社パスコと協力し、小机城の発掘調査成果のパネルを中心に展示した。また、ブースで関連刊行物を販売した。

5 埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行いました。今年度はESCO事業LED化の工事及び打合せ等に対応し、3月末までに施設内全灯をLED化しました（体育館等一部対象外の灯を除く）。※上記教育委員会文化財課委託事業

その他、施設内の環境整備として害虫対策の網戸を設置し、老朽化により開閉が困難となった鉄扉を修繕して、資料や物品の運搬にかかる動線を確保しました。

安全性が確保できない体育館に関しては引続き利用停止措置をとり、立入りを防止するためのフェンスを設置しています。体育館内には地域利用で使用していた各団体の物品や器具が収納されていましたが、別場所で活動等行う場合これらの荷物を取出す必要があるため、グラウンド等敷地内に倉庫を設置し、体育館から荷物を搬出入する作業を地域と共に立会いのもと実施しました。※上記教育委員会文化財課設置・実施

また、遺物の収蔵状況が建物の耐久性に影響を及ぼしている状況は変わらず、床面の歪みや柱・梁等建築部材のたわみを引き起こしています。このため、教育委員会文化財課と新たな収蔵場所の検討に引続き取り組みます。現状でできる対策として再整理作業や遺物の移動、残置してある小学校時代の部材を撤去する等により、収蔵スペースの確保を目指します。

日常的には、樹木の害虫駆除や南側フェンスのたわみを修繕し、体育館のガラス破損（費用は地域利用負担）や消火器・感知器等の交換など小破修繕に対応し、施設の適切な管理・維持を行いました。なお、体育館が利用停止・立入禁止となっているため、立入防止フェンス内の清掃や草刈が及ばず雑草が繁茂する状態となり、草刈範囲を広げて対応しました。

見学者対応としては、個人・団体の受入れ・案内を継続し、展示室内の清掃及び湿度管理を行いました。また刊行物の通販も引続き受け付けています。

管理対象施設	内 容
埋蔵文化財センター 主な工事及び修繕	ESCO事業LED化：体育館を除く施設内全灯のLED化（文化財課委託事業）、網戸 取付：B棟2F調査研究員室、ガラス修繕：体育館南側窓ガラス（地域利用側発 注・負担）、フェンス設置：南側校門外、鉄扉修繕：B棟1F
見学者対応	個人・団体の受入れを継続。また希望者に展示室の解説やDVDの視聴に対応し た。見学者：444名（前年度223名）
刊行物販売	港北NT地域内埋蔵文化財調査報告書55『神隠丸山遺跡Ⅲ』、ブックレット『北 川谷遺跡群』・『〈改訂版〉舞岡熊之堂の戦争遺跡』、『横浜城郭図』他 売上：688,416円

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
------	------	----

埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン地域内遺跡群の整理作業を継続し、神隠丸山遺跡の縄文時代中期編の基礎整理作業を行った。また、昨年から開始した出土遺物保管再整備事業を継続し、引き続き収納スペースの整理、台帳の整備を行った。	B
普及啓発事業	横浜都市発展記念館と連携し「戦争の記憶」展を開催、埋蔵文化財センターとしては市内に残る約30箇所の軍事施設を特集し、これまであまり行われてこなかった横浜における戦争遺構の体系化を図り、好評を博した。また展示に合わせてシリーズ「横浜の遺跡」ブックレット1冊目の「舞岡熊之堂の戦争遺跡」の改訂版を刊行し、頒布を行った。栄区地域振興課と協働で行う普及啓発事業（横穴墓見学会・勾玉づくり教室）を継続して行った。またホームページのリニューアルを行った。	A
発掘調査事業	文化財業務委託事業外の業務委託による発掘調査3件（上瀬谷・舞岡熊之堂・神奈川台場跡）、整理作業1件（上瀬谷）を受託した。いずれも関係部局との調整を密にして、事業を行った。とくに上瀬谷通信地区の調査は大規模な調査を予定通り終了させることができた。	S
施設連携事業	横浜市歴史博物館と、企画展や「お城EXP02025」ブース出展についてともに協力した。	B
施設維持事業	近年増加している施設修繕について、市の関係部局と連携して、適切に進めた。令和7年度は市のESCO事業に伴うLED化工事の実施に、市と協力して適切に対応した。	A

2 史跡等管理事業

横浜市の歴史・文化財関連施設の維持管理・運営を行いました。

1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号）

本牧に関する歴史について、楽しみながら広く知り関心をもつことで地域のことを好きになってもらえる歴史講座等、様々な事業を実施しました。また、地域の施設と連携して本牧の歴史に関する講座等を実施しました。

(1) 本牧地域への貢献

項 目	事 業 内 容
本牧に関する歴史講座等の開催	(1) 本牧中学校コミュニティハウス定例歴史講座 本牧の歴史 入門編 24回開催 参加者737人 (2) 本牧地区センター定例歴史講座 よもやま夜咄 12回開催 参加者244人 (3) 町内会および近隣施設での講演等 講座・散策・体験学習 17回開催 参加者446人
本牧の歴史に関する配信等	(1) タウンニュース 中区・西区・南区版 コラム 「本牧きまぐれ歴史散策」 2017年から月1回連載 第90回から第96回を執筆 (2) 横浜市中区老人クラブ連合会 コラム 「横浜もののはじまり」 7月号・1月号に連載 (3) YouTube チャンネル (4) Facebook ブログ
学校授業支援	(1) 本牧地区その他小学校での授業依頼 37回 出席者数1,829人 (2) 教職員研修 本牧や横浜の歴史についての研修 7校のべ13人
歴史講座	本牧地域の方々を中心に横浜地域に関する歴史を紹介。 (1) 歴史講座 歴史に詳しくない方でも、横浜の歴史を理解し、興味をもていただくことを目的とした講座を開催。 10回開催 参加者280人 (2) ゼミ 古文書原本なども読み進めながら解説するなど、専門的な内容も楽しく学んでいただくことを目的とした講座。中世・近世のコースを開催。 20回開催 参加者535人 (3) 歴史散歩 9回開催 参加者277人
地域との連携	(1) 本牧・根岸地区まちづくりの会活動支援 (2) 大鳥中学校PTA活動への参加 (3) 本牧地域の町内会や活動団体と協力した講座・体験イベントの開催 (4) 本牧の歴史に関する調査研究、調査研究支援・協力

(2) 本牧外地域からの依頼・支援

項 目	事 業 内 容
博物館実習	実習生 9 人受入れ
講座・散策・体験学習	地区センター、老人福祉施設、各区ボランティアガイド等からの講座や散策、 体験学習等講師依頼の受託 49 回開催 参加者数 1, 606 人

(3) 資料および施設の維持管理

項 目	事 業 内 容
資料収集保管	(1) 写真資料等をデジタルデータとして受入れ整理・保管 (2) 歴史博物館の協力を得て館蔵資料の整理を実施
施設維持管理	(1) 常設展示の修繕、リニューアル (2) 施設・設備の維持管理 (3) 清掃および植栽等の管理

(4) 八聖殿郷土資料館利用者の推移

項 目	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
八聖殿郷土資料館利用者数 (人)	12, 995	13, 006	12, 818

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
八聖殿事業	本牧に関する歴史について、楽しみながら広く知り 関心をもつことで地域のことを好きになってもらえ る歴史講座等、様々な事業を実施しました。	A

2 史跡管理事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

横浜市の文化財である、国指定史跡称名寺境内等の維持管理を適切に行いました。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稲荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理

	所在地：金沢区六浦二丁目
--	--------------

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡管理事業	委託業者による通常の維持管理に加え、総務課職員によるこまめな見回りや修繕を行いました。所管課への報告・連絡を密にし、所管課で対応すべき修繕等についても積極的に働きかけを行うことで、史跡の適切な維持管理につなげることができました。	A

IV 市史資料委託事業

横浜市史資料室の運営は、令和 7 年度から新しい事業者が担当することになったため、資料室の運営が円滑に行われるよう、財団では横浜市総務局行政マネジメント課の委託を受け、新事業者（TOPPAN 株式会社）への業務の引継ぎおよび資料室の運営支援業務（資料公開・普及業務支援、資料整理・保管業務支援）を行いました。

また令和 7 年度は、横浜市中心図書館の整備工事にともない、市史資料室は中区山下町の旧職能開発総合センターの建物へ移転しました（令和 8 年 1 月再開館）。これにあわせて、資料移転計画の作成等、移転に向けた業務支援をおこなったほか、新データベース整備に関する確認作業等を重点的に実施しました。

1 市史資料室事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号）

市史資料室の運営に関する下記支援業務をおこないました。

項 目	目的・内容
資料公開・普及業務支援	資料室が保有する資料を広く市民に公開し、普及させるため、次の業務に対する支援を行った。 ・ TOPPAN 株式会社への業務引継ぎ ・ 資料出納や特別利用申請にともなう資料検索の支援 資料の所在や資料出納可否の確認。画像データ提供の補助。 ・ レファレンスの支援 専門的な内容の資料レファレンスへの対応。 ・ 資料貸出業務の支援 市民団体への「空襲と戦災」パネルの貸出補助。 横浜都市発展記念館主催の特別展「戦後 80 年 戦争の記憶」（2025/7/19～9/28）、「戦争の記憶 横浜と軍隊の 120 年」（2026/1/24～4/12）への原資料貸出。 ・ 定期刊行物の送付

	令和 7 年 3 月発行の『市史通信』52 号、『横浜市史資料室紀要』第 15 号、『横浜市史資料室報告書 令和 6 年度』の発送。 ・ 室内展示開催にともなう支援 室内展示「横浜博覧会 YES'89 宇宙と子供たち」（2026/1/12～）の製作補助。
資料整理・保管等の業務支援	資料室が保有する資料を適切に管理するため、次の業務に対する支援を行った。 ・ TOPPAN 株式会社への業務引継ぎ ・ 資料整理業務の支援 「保土ヶ谷区旧公図」（残存分）、齋藤克彦家資料 ・ 資料登録業務の支援 寄贈資料および図書の登録手順についての補助。 ・ 資料台帳等の各種データの管理及び更新 未登録写真の DB への登録作業。 横田晴江家資料写真／三橋松太郎資料写真／磯野庸幸資料写真／若木信子家資料／小黒英夫家資料／小野静枝家資料／小山芳美家／三浦由紀子家／竹内春男家／金子清家／尾崎亮子家／半井清資料／戸部小学校資料 ・ 資料移転業務の支援 子安台倉庫保管資料の現地確認（箱台帳との照合）。 子安台倉庫保管資料の移転先での配架計画作成。 子安台倉庫保管資料の搬出作業立ち会い。 中央図書館保管資料の搬出作業立ち会い。 ・ 資料室移転にともなう物品整理 旧事務室内の物品整理作業および備品台帳の確認。
資料管理データベース業務支援	資料室が保有する資料のデータベースを新たに整備するため、現状のデータベースの提供及び現在使用しているソフトウェアの内容説明等を行ったほか、次の業務を行った。 ・ データベース整備に向けた打ち合わせへの出席 ・ 統合データのチェック等 「諸家文書」「諸機関」「歴史的公文書」の目録チェック。 不整合箇所の分析、および現資料台帳上での修正作業。 資料目録と箱台帳目録との紐づけ（連結キー）について確認。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
市史資料室事業	資料室の運営事業者の交代にともない、所管課および新事業者と連携を取りながら、業務の引継ぎおよび資料閲覧・レファレンス・資料登録等の業務支援を行った。また中央図書館からの資料室移転にあたって、資料移転計画の作成や新データベース整備に向けた支援を行い、資料室の運営業務を遅滞なく新体制に引き継いだ。	A

【参考：評価の基準】

評価基準については、平成 21 年 6 月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価：目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価：目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価：目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価：目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価：目標値 80%未満